M7CL Editor

取扱説明書

❑ ご注意

- このソフトウェアおよびPDF形式の取扱説明書の著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- このソフトウェアおよびPDF形式の取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- 市販の音楽データは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- このソフトウェアおよびPDF形式の取扱説明書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- このPDF形式の取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、最終仕様と異なる場合がありますのでご了承ください。
- アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については、別紙または別冊で対応させていただきます。
- 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他記載の社名および製品名は、各社の商標および登録商標です。

YAMAHA プロオーディオホームページ
http://proaudio.yamaha.co.jp/

目次

基本操作とセットアップ 2
Master ウィンドウ 9
Overview ウィンドウ 11
Selected Channel ウィンドウ 23
Library ウィンドウ 42
Patch Editor ウィンドウ 45
Rack ウィンドウ 49
Meter ウィンドウ 58
Group/Link ウィンドウ 60
Scene ウィンドウ 64
ショートカット 71
索　引 72

* 仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

基本操作とセットアップ

M7CL Editor とは？

M7CL Editor は、M7CL 本体をリモートコントロールしたり、パラメーター設定をコンピューターに保存したりできます。Studio Manager から起動して使用します。M7CL Editor を使用するためには以下の操作が必要です。

「Studio Managerの起動と設定」→「M7CL Editor の起動と設定」→「M7CL 本体との同期 (→ P.8)」

NOTE *Studio Manager の操作については、Studio Manager 取扱説明書をご参照ください。*

M7CL Editor の設定

以下の内容は開いているすべてのエディターで個別に設定する必要があります。

NOTE
- *以下の設定の前に、あらかじめ DME-N Network Driver の設定を行なって Studio Manager の Setup ウィンドウで MIDI ポートを選択しておいてください。*
- *エディターを開くには、Studio Manager ウィンドウで各エディターに対応するアイコンをダブルクリックしてください。*

❑ システムのセットアップ

System Setup ウィンドウを開くには、[File] メニューから [System Setup] を選択します。

NOTE *Input port と Output port は必ず設定してください。*

① Input port/Output port

あらかじめ Studio Manager で設定したポートの中から、本体と通信するポートを選択します。

② Fast Sync

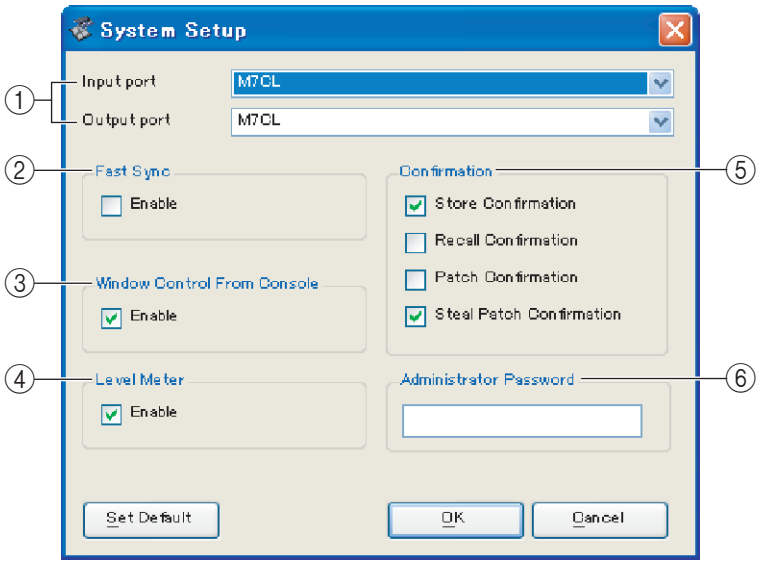
同期を高速化して同期にかかる時間を短縮できます。この機能を有効にするかどうかを設定します。

③ Window Control from Console

M7CL Editor のウィンドウのオープン / クローズを本体の USER DEFINED KEYS でリモートコントロールできます。この操作を有効にするかどうかを設定します。

④ Level Meter

レベルメーターの機能を無効にすると描画や通信の負荷を軽減できます。レベルメーター機能を有効にするかどうかを設定します。



⑤ Confirmation

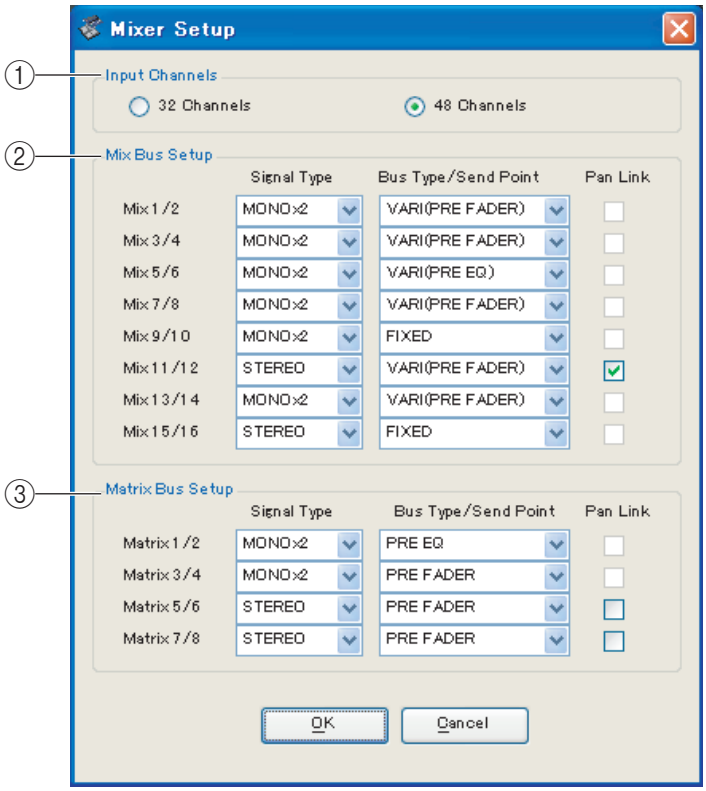
ストア時 (Store Confirmation)、リコール時 (Recall Confirmation)、パッチ時 (Patch Confirmation)、既に設定されているパッチを変更するようなパッチ時 (Steal Patch Confirmation) に確認のダイアログボックスを表示させるかどうかを設定します。

⑥ Administrator Password

M7CL 本体に設定されている Administrator のパスワードを入力します。このパスワードが正しく入力されないと、M7CL Editor から M7CL 本体への同期ができません。

❑ コンソールのセットアップ

Mixer Setup ウィンドウを開くには、[File] メニューから [Mixer Setup] を選択します。



① Input Channels

M7CL 本体の入力チャンネル数を設定します。M7CL 本体と同期すると、自動的に M7CL 本体のチャンネル数に設定されます。

② Mix Bus Setup

MIX バスに関する設定を行ないます。

Signal Type: 奇数 / 偶数番号の順に並んだ 2 つの MIX バスごとに、MONOx2 か STEREO を選択します。

Bus Type/Send Point: 奇数 / 偶数番号の順に並んだ 2 つの MIX バスごとに、VARI(PRE FADER) か VARI(PRE EQ) または FIXED を選択します。

Pan Link: Signal Type が STEREO で BUS TYPE が VARI のときのみ有効で、ステレオの MIX バスに送る PAN の設定が STEREO バスへの PAN に連動します。

③ Matrix Bus Setup

MATRIX バスに関する設定を行ないます。

Signal Type: 奇数 / 偶数番号の順に並んだ 2 つの MATRIX バスごとに、MONOx2 か STEREO を選択します。

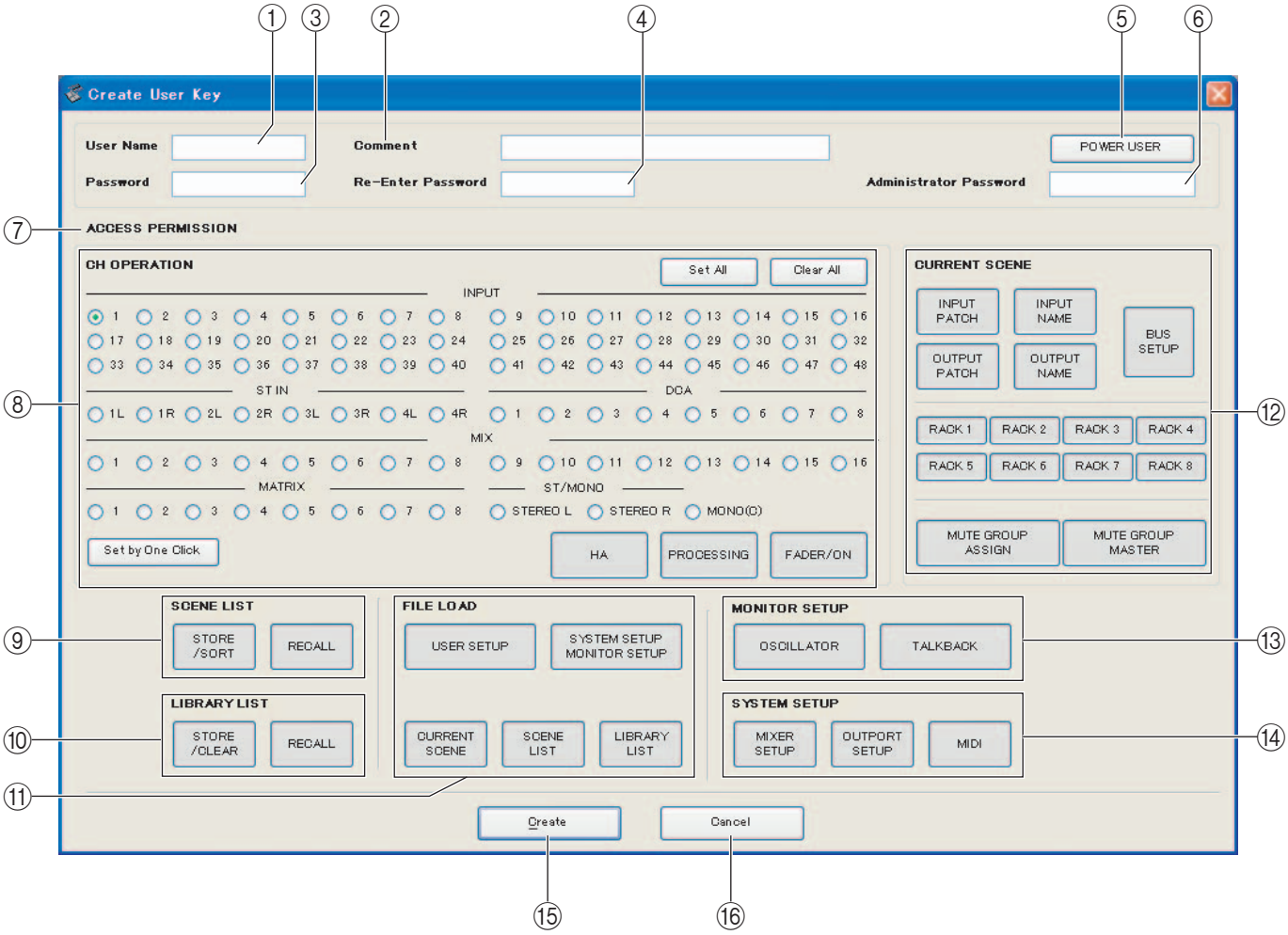
Bus Type/Send Point: 奇数 / 偶数番号の順に並んだ 2 つの MATRIX バスごとに、PRE FADER か PRE EQ を選択します。

Pan Link: Signal Type が STEREO で BUS TYPE が VARI のときのみ有効で、ステレオの MATRIX バスに送る PAN の設定が STEREO バスへの PAN に連動します。

❑ ユーザーキーの作成

Create User Key ウィンドウを開くには、[File] メニューから [Create User Key] を選択します。

M7CL 本体でユーザーごとに操作できるパラメーターを設定するのに使用する、ユーザーキー(拡張子は ".M7U") を作成します。作成したユーザーキーは USB 記憶装置を使って M7CL 本体で読み込めます。



① User Name

ユーザー名を設定します。半角英大文字と数字で 8 文字まで入力できます。

② Comment

ユーザーごとのコメントを設定します。半角英数字で 32 文字まで入力できます。

③ Password

M7CL 本体で読み込むときに使用するパスワードを設定します。半角英数字で 8 文字まで入力できます。大文字小文字を区別します。

④ Re-Enter Password

誤入力防止のためにパスワードを再度設定します。

⑤ POWER USER

このユーザーがパワーユーザーかどうかを設定します。パワーユーザーは、M7CL 本体でユーザーレベルを設定したユーザー認証キーを作成したり編集したりできます。

⑥ Administrator Password

M7CL 本体で設定されている Administrator のパスワードを入力します。M7CL 本体で Administrator のパスワードが設定されていない場合には必要ありません。このパスワードが異なっていると読み込み時にパスワード入力を要求されます。

⑦ ACCESS PERMISSION

ユーザーごとに操作できるパラメーターを設定します。

⑧ CH OPERATION

INPUT、ST IN、DCA、MIX、MATRIX、ST/MONO: パラメーターを設定するチャンネルを選択します。

HA: 選択したチャンネルのヘッドアンプゲインとファンタム電源の操作権限を変更します。

PROCESSING: 選択したチャンネルの信号処理全般のパラメーター(フェーダーと [ON] キーを除く) の操作権限を変更します。各チャンネルの PROCESSING の対象パラメーターは M7CL 取扱説明書の巻末資料をご参照ください。

FADER/ON: 選択したチャンネルのパン / バランス、フェーダー、チャンネルオン、センドオン / オフ、センドレベルの操作権限を変更します。

Set All: 全チャンネルの HA、PROCESSING、FADER/ON をオンにします。

Clear All: 全チャンネルの HA、PROCESSING、FADER/ON をオフにします。

Set by One Click: このボタンがオンになっていると、チャンネル選択で HA、PROCESSING、FADER/ON をすべてオンにします。既にすべてオンになっていた場合はすべてオフにします。

⑨ SCENE LIST

STORE/SORT: シーンのストアやソートを行なう権限を変更します。

RECALL: シーンリコールを行なう権限を変更します。

⑩ LIBRARY LIST

STORE/CLEAR: ライブラリーのストアやクリアを行なう権限を変更します。

RECALL: ライブラリーのリコールを行なう権限を変更します。

⑪ FILE LOAD

USER SETUP: ファイルロード時にユーザー定義キーやプリファレンスを読み込む権限を変更します。

SYSTEM SETUP MONITOR SETUP: ファイルロード時にシステムセットアップやモニターセットアップを読み込む権限を変更します。

CURRENT SCENE: ファイルロード時にカレントシーンを読み込む権限を変更します。

SCENE LIST: ファイルロード時にシーンリストを読み込む権限を変更します。

LIBRARY LIST: ファイルロード時にライブラリーリストを読み込む権限を変更します。

⑫ CURRENT SCENE

INPUT PATCH: インプットパッチの操作権限を変更します。

INPUT NAME: インプット系チャンネル名の設定権限を変更します。

OUTPUT PATCH: アウトプットパッチの操作権限を変更します。

OUTPUT NAME: アウトプット系チャンネル名の設定権限を変更します。

BUS SETUP: バスの操作権限を変更します。

RACK: ラックの操作権限を変更します。

MUTE GROUP ASSIGN: ミュートグループの設定権限を変更します。

MUTE GROUP MASTER: ミュートグループ有効 / 無効の操作権限を変更します。

⑬ MONITOR SETUP

OSILLATOR: オシレーターの設定権限を変更します。

TALKBACK: トークバックの設定権限を変更します。

⑭ SYSTEM SETUP

MIXER SETUP: ミキサーセットアップの設定権限を変更します。

OUTPORT SETUP: アウトポートセットアップの設定権限を変更します。

MIDI: MIDI の設定権限を変更します。

⑮ Create

ユーザーキーを作成します。

⑯ Cancel

画面を閉じます。

セッションの操作

M7CL Editor では、シーン / ライブラリーデータなどを含む本体のすべてのミックス設定をセッションと呼びます。
セッションの操作方法は次のとおりです。

新規セッションを作成する	「File」メニュー→「New Session」
保存されているセッションを開く	「File」メニュー→「Open Session」
開いているセッションを保存する	「File」メニュー→「Save Session」
開いているセッションを新しい名前で保存する	「File」メニュー→「Save Session As...」

エディターのウィンドウでセッションを保存すると、そのエディターの設定だけがファイルに保存されます。M7CL Editor で保存したセッションファイルの拡張子は ".YSE" になります。また、M7CL 本体のデータのみを保存したファイル (拡張子は ".M7C") も扱えるので、USB 記憶装置を使って M7CL 本体とデータのやり取りができます。
Studio Manager でセッションを保存すると、選択されているすべてのエディターの設定が 1 つのファイルに保存されます (このファイルの拡張子は ".YSM" になります)。

Undo/Redo 機能

直前(ひとつ前)の操作を取り消すことを Undo、直前の Undo を取り消すことを Redo と呼びます。Undo を 2 回続ければ 2 つ前までの操作を、3 回続ければ 3 つ前までの操作を、というように操作をさかのぼって取り消すことができます。
Undo/Redo 機能の操作方法は次のとおりです。

Undo	「Edit」メニュー →「Undo」
Redo	「Edit」メニュー →「Redo」

ただし、以下の操作を行なった場合、それ以前の操作は Undo/Redo できなくなるか、矛盾が生じるために正しく Undo/Redo されなくなります。

- 本体での操作
- Studio Manager の終了
- 本体との同期
- セッションの操作

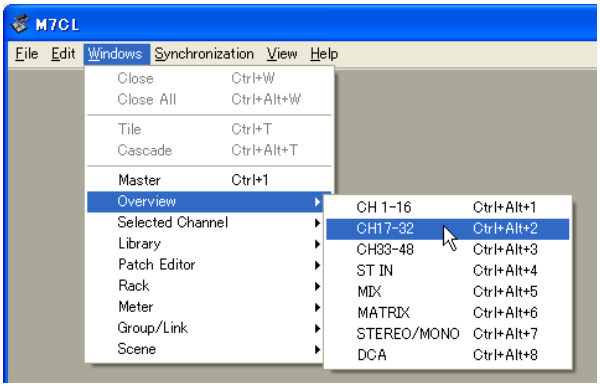
NOTE ***以下の操作は Undo/Redo の操作対象外です。これらの操作は取り消せません。***
- ***Setup 項目の変更***
- ***Synchronization***
- ***ウィンドウ のオープン / クローズ***
- ***ウィンドウ のサイズや位置の変更***

この他にも機能によっては取り消せない操作があります。

NOTE ***Library と Scene の操作では、1 つ前の操作だけが Undo/Redo の対象になります。2 つ以上前の操作は取り消せません。これらのウィンドウの Undo/Redo は、それぞれのウィンドウ内の [UNDO] ボタンでのみ可能です。Master ウィンドウからシーンリコールを行なった場合でも、ショートカットやメニュー操作では取り消せません。***

ウィンドウの操作

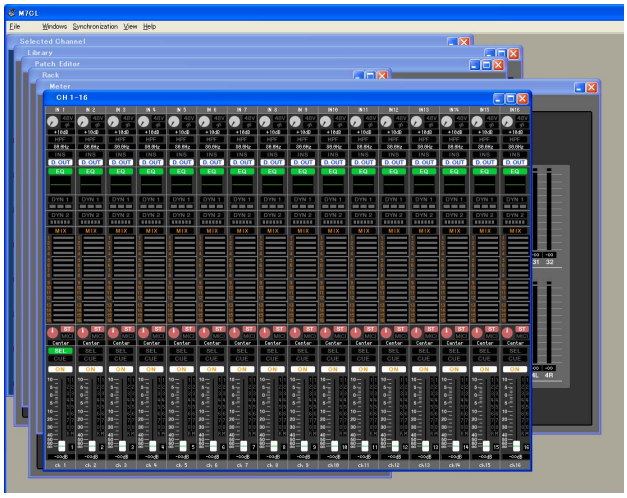
各ウィンドウは、[Windows] メニューから選択して開きます。
INPUT CH ウィンドウや Effect Editor ウィンドウでは、表示するチャンネルやライブラリーをサブメニューから選択して開きます。



Tile や Cascade を選択するとエディター内のウィンドウを整列できます。

● **Tile**

● **Cascade**

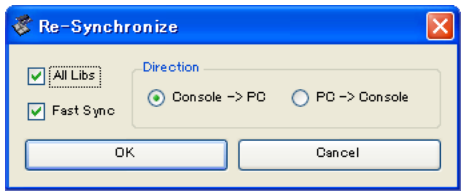


Library ウィンドウや Scene ウィンドウなどでは、ウィンドウ上部のタブをクリックして、操作対象になるページを切り替えます。

M7CL 本体との同期

M7CL Editor を初めて起動した時点では、本体と M7CL Editor でパラメーターの設定が異なっています。このため、最初に本体と M7CL Editor の設定を合わせる必要があります。これを本体との同期と呼びます。この操作は以下の手順で行ないます。

1. [Synchronize] メニュー→ [Re-synchronize] を選択します。
   右の画面が表示されます。



2. 本体と M7CL Editor のどちらの状態に合わせるか選択します。
   [All Libs] のチェックボックスにチェックを入れると、ライブラリーデータも同期します。
   PC -> Console: M7CL Editor のパラメーター設定を本体にコピーします。
   Console -> PC: 本体のパラメーター設定を M7CL Editor にコピーします。

3. [OK] をクリックします。

同期中は本体を操作しないでください。

NOTE *Studio Manager で同期をとると、Studio Manager で選択されているすべてのエディターとその本体の間で同期がとれます。*

Offline Edit 機能

本体と M7CL Editor を連動させたくない場合は、[Synchronization] メニュー→ [Offline Edit] を選択します。Offline Edit で編集した内容を本体に反映させたいときは、[Synchronization] メニュー→ [Re-Synchronize] を選択して、「PC->Console」で同期をとります。
Master ウィンドウの [ONLINE]/[OFFLINE] ボタンでも、Offline Edit を選択できます。

NOTE *本体のエフェクトパラメーターには、サンプリング周波数によって表示値が変わるものがあります。M7CL Editor を OFFLINE から ONLINE にした場合、M7CL Editor は本体のサンプリング周波数を読み込んで表示を更新するため、エフェクトパラメーターの表示値が変わることがあります。*

その他の機能

❑ Ctrl+ クリック

操作子や設定値にマウスカーソルを合わせ、<Ctrl> キーを押したままクリックすると、プリセット値（パンは「Center」など）に戻せます。
ただし、各チャンネルのフェーダーやセンドのノブ及びバーグラフは、初期値に関係なく−∞に設定できます。

❑ Ctrl+Shift+ クリック

各チャンネルのフェーダーやセンドのノブ及びバーグラフにマウスカーソルを合わせ、<Ctrl> キーと <Shift> キーを押したままクリックすると、初期値に関係なくノミナル値に設定できます。

Master ウィンドウ

Master ウィンドウでは、M7CL 本体との同期やシーンのリコール、Overview ウィンドウの表示などが行なえます。このウィンドウを開くには、[Windows] メニューから [Master] を選択します。

❑ CHANNEL SELECT

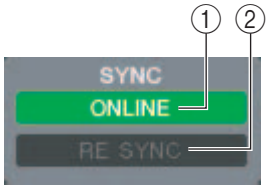
操作の対象となるチャンネルの番号と名称を表示します。チャンネルを切り替えるには [SELECT] ボタンをクリックして表示されるリストの中から選択するか、左右矢印のチャンネル選択ボタンをクリックします。チャンネル名のテキストボックス内で、名称を変更することもできます。

M7CL 本体のパネル上にある [SEL] キーと連動します。

また、アイコンを右クリックしてアイコンを変更できます

❑ SYNC

M7CL Editor と M7CL 本体との接続状態の表示と同期を行ないます。



① [ONLINE]/[OFFLINE] ボタン

このボタンをクリックするたびに ONLINE/OFFLINE の状態が切り替わります。

[Synchronization] メニュー→ [Offline Edit] と同じ働きをします。(→ P.8)

ONLINE

M7CL Editor と M7CL 本体が正しく接続されていると、このインジケーターが表示されます。この状態のとき、M7CL Editor と M7CL 本体のパラメーターが連動します。

OFFLINE

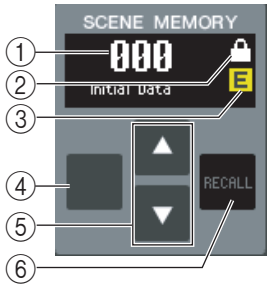
M7CL Editor と M7CL 本体が接続されていない場合、接続に問題がある場合、または Offline Edit が選択されている場合にこのインジケーターが表示されます。この状態のときは M7CL Editor と M7CL 本体のパラメーターは連動しません。

② [RE-SYNC] ボタン

このボタンをクリックすると Synchronization ダイアログが開きます。

[Synchronization] メニュー→ [Re-Synchronize] と同じ働きをします。(→ P.8)

❑ SCENE MEMORY



現在リコールされているシーンの表示およびリコール、ストアを行ないます。

① シーンナンバーディスプレイ

ストア / リコールの対象として選ばれているシーン番号を表示します。

② プロテクトインジケーター

プロテクトがかかったシーンメモリーは錠のアイコンが表示されます。

③ エディットインジケーター

シーンをリコールした後でパラメーターを変更すると、エディットインジケーターが点灯します。

④ [STORE] ボタン

シーンナンバーディスプレイ (①) に表示されている番号にカレントシーンをストアするボタンです。

⑤ [▲]/[▼] ボタン

シーンナンバーディスプレイ (①) に表示されている番号を増減させるボタンです。実際にストア / リコールを行なうまではシーンナンバーディスプレイ (①) は点滅表示し、この間は M7CL 上の表示と一致しません。

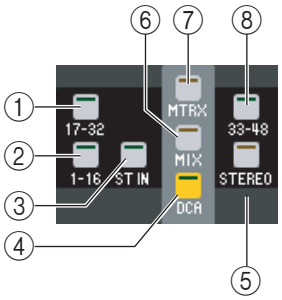
⑥ [RECALL] ボタン

シーンナンバーディスプレイ (①) に表示されている番号のシーンをリコールするボタンです。

❑ Navigation Keys

各ウィンドウを開きます。

NOTE *M7CL 本体のパネル上のナビゲーションキーセクションとは連動しません。*



① [17-32] ボタン

INPUT CH 17 ～ 32 ウィンドウを開きます。

② [1-16] ボタン

INPUT CH 1 ～ 16 ウィンドウを開きます。

③ [ST IN] ボタン

ST IN ウィンドウを開きます。

④ [DCA] ボタン

DCA ウィンドウを開きます。

⑤ [STEREO] ボタン

STERE/MONO ウィンドウを開きます。

⑥ [MIX] ボタン

MIX ウィンドウを開きます。

⑦ [MTRX] ボタン

MATRIX ウィンドウを開きます。

⑧ [33-48] ボタン

INPUT CH 33 ～ 48 ウィンドウを開きます。オフライン編集で Mixer Setup 画面の Input Channels で 48 を選択しているときか、M7CL-48 とオンラインで編集しているときのみ有効です。

Overview ウィンドウ

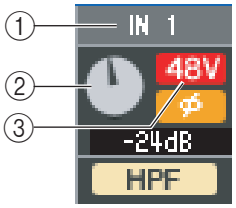
INPUT CH ウィンドウ

INPUT CH 1 ～ 16、17 ～ 32、33 ～ 48(*) のミックスパラメーターを表示 / 変更します。ウィンドウ内に表示させるパラメーターは、[View] メニューまたはウィンドウ内を右クリックで表示されるメニューで選択できます。

このウィンドウを表示するには以下の方法があります。

- [Windows] メニューから [Overview] を選択して “CH1-16” / “CH17-32” / “CH33-48”(*) を選択する
- Master ウィンドウの NAVIGATION KEYS で [1-16] ボタン /[17-32] ボタン /[33-48] ボタン (*) をオンにする
- M7CL本体で USER DEFINED KEYS に [M7CL EDITOR CONTROL] の [INPUT CH] で [1-16]/[17-32]/[33-48](*) を割り当てて実行する

(*) INPUT CH 33-48 は、オフライン編集で Mixer Setup 画面の Input Channels で 48 を選択しているときか、M7CL-48 とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。



① INPUT PATCH

クリックして INPUT CH に割り当てる入力ソースを次の中から選択します。

NONE	割り当てなし
IN 1 ～ IN48(*)	INPUT 端子 1 ～ 48(*)
STIN1L ～ STIN4R	ST IN 端子 1 ～ 4 の L/R チャンネル
SLOT1-1, SLOT1-2...SLOT3-15, SLOT3-16	スロット 1 ～ 3 に装着された I/O カードの入力チャンネル
RACK1A、RACK1B...RACK8R(B)	ラック 1 ～ 8 の L/R 出力

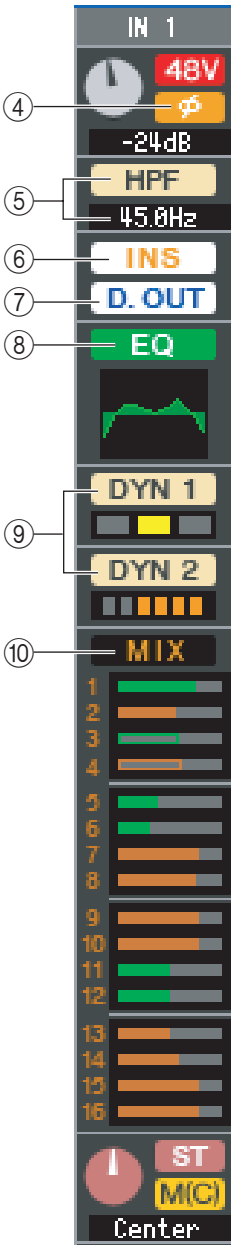
(*) AD33 ～ 48(INPUT 端子 33-48) は、オフライン編集で Mixer Setup 画面の Input Channels で 48 を選択しているときか、M7CL-48 とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

② HA GAIN

画面上のノブをドラックして、内蔵ヘッドアンプまたは INPUT CH にパッチされた外部ヘッドアンプ (AD8HR) のゲインを調節します。

③ 48V

内蔵ヘッドアンプまたは INPUT CH にパッチされた外部ヘッドアンプ (AD8HR) のファンタム電源 (+48V) のオン / オフを切り替えます。



④ φ(フェイズ)

AD 変換後の信号の位相を反転させます。

⑤ HPF(ハイパスフィルター)

ハイパスフィルターのオン / オフを切り替えます。数値部分を上下にドラッグすれば、カットオフ周波数を変更できます。

⑥ INS(インサート)

インサートインの有効 / 無効を切り替えます。

⑦ D.OUT(ダイレクトアウト)

ダイレクト出力の有効 / 無効を切り替えます。

⑧ EQ(イコライザー)

EQ のオン / オフを切り替えます。ボタンのすぐ下にあるグラフに、EQ の大まかな特性が表示されます。グラフ上をドラッグすれば、EQ の特性をエディットできます。また、コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらグラフをクリックすると、特性がフラットになります (HPF の設定は残ります)。

⑨ DYN1/DYN2(ダイナミクス 1/ ダイナミクス 2)

2 系統のダイナミクスプロセッサーのオン / オフを切り替えます。

ゲート (ダイナミクス 1 のみ) が割り当ててある場合は、ボタンのすぐ下にゲートの状態を表示します。

ゲート状態表示				
オン / オフ状態	オン	オン	オン	オフ
開閉状態	クローズ	オープン	オープン	—
備考	ゲインリダクション量が 30dB 以上	ゲインリダクション量が 0 ～ 30dB	ゲインリダクション量が 0dB	—

ゲート以外が割り当ててある場合は、ボタンのすぐ下に GR メーターを表示し、オンの間ゲインリダクション量を表示します。

それぞれのダイナミクスプロセッサーのタイプ選択は、Selected Channel ウィンドウで行ないます。

⑩ MIX/MATRIX SEND

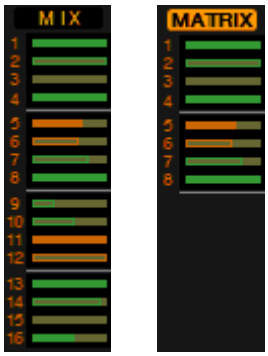
MIX バス 1 ～ 16 へのセンド表示と、MATRIX バス 1 ～ 8 へのセンド表示を切り替えます。

ボタンのすぐ下にあるバーグラフに、INPUT CH から VARI タイプの MIX/MATRIX バスに送られる信号のセンドレベルを表示します。バーグラフを左右にドラッグして、センドレベルを設定することもできます。バーグラフをドラッグしている間は、PAN/TO STEREO MONO ⑪ の数値表示部にセンドレベルが表示されます。

バーグラフを、コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると最小値 (−∞ dB) に、<Ctrl> キーと <Shift> キーを押しながらクリックするとノミナル値 (0.00dB) になります。

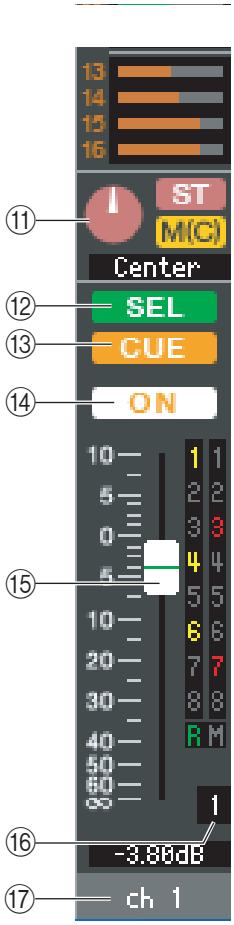
INPUT CH から MIX/MATRIX バスに送られる信号の送出位置 (プリ / ポスト) やオン / オフ状態に応じて、バーグラフの表示が変化します。

センドのオン / オフは、バーグラフの左にあるチャンネル番号のクリックで切り替えます。



- プリ / オン (緑)
- プリ / オフ (緑)
- ポスト / オン (黄)
- ポスト / オフ (黄)

NOTE *FIXED タイプの MIX バスでは、バーグラフがノミナルレベル (0dB) の位置に固定されて、オン / オフ状態だけを表示します。*



⑪ PAN/TO STEREO MONO

PAN ノブで INPUT CH から STEREO バスの L/R チャンネル (または L/C/R の各チャンネル) に送られる信号の定位を調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると Center 位置になります。

[ST] ボタンで INPUT CH から STEREO バスに送られる信号のオン / オフを切り替えます。

[M(C)] ボタンで INPUT CH から MONO バスへ送られる信号のオン / オフを切り替えます。

Selected Channel ウィンドウで LCR MODE に設定されていると、[ST] ボタンと [M(C)] ボタンの代わりに **[LCR]** ボタンが表示され、[LCR] ボタンで INPUT CH から LCR バスへ送られる信号のオン / オフを切り替えます。

⑫ SEL(セレクト)

操作の対象となる INPUT CH を選びます。M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションの [SEL] キーと連動しています。

⑬ CUE

INPUT CH の信号をキューモニターするボタンです。M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションの [CUE] キーと連動しています。

⑭ ON

INPUT CH のオン / オフを切り替えます。M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションの CH [ON] キーと連動しています。

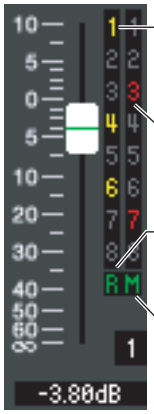
⑮ フェーダー

INPUT CH の入力レベルを調節します。M7CL 本体が SENDS ON FADER モードのとき以外は、M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションのフェーダーと連動しています。

現在のフェーダーの値は、フェーダーのすぐ下にある数値ボックスで確認できます。

フェーダーノブを、コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると最小値 (−∞ dB) に、<Ctrl> キーと <Shift> キーを押しながらクリックするとノミナル値 (0.00dB) になります。

その他、フェーダー右側の番号やアルファベットで、そのチャンネルが所属する DCA グループ / ミュートグループ、およびリコールセーフ / ミュートセーフの設定状態を確認できます。



そのチャンネルが所属する DCA グループの番号が黄色で表示されます。

そのチャンネルが所属するミュートグループの番号が赤で表示されます。

そのチャンネルがリコールセーフに設定されているときに、R の文字が緑で表示されます。

そのチャンネルがミュートセーフに設定されているときに、M の文字が緑で表示されます。

⑯ チャンネル番号

INPUT CH の番号です。この番号をダブルクリックすると、そのチャンネルの Selected Channel ウィンドウが開きます。コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらダブルクリックすると、Additional View として Selected Channel ウィンドウが開きます。

⑰ チャンネル名

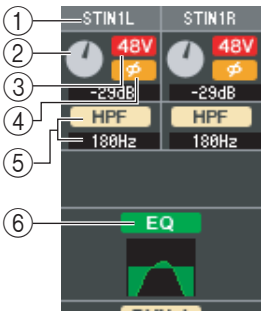
チャンネル名を表示するテキストボックスです。このテキストボックス内でチャンネル名を変更することもできます。

ST IN ウィンドウ

ST IN チャンネル 1 ～ 4 のミックスパラメーターを表示 / 変更します。ウィンドウ内に表示させるパラメーターは、[View] メニューまたはウィンドウ内を右クリックで表示されるメニューで選択できます。

このウィンドウを表示するには以下の方法があります。

- [Windows] メニューから [Overview] を選択して “ST IN” を選択する
- Master ウィンドウの NAVIGATION KEYS で [ST IN] ボタンをオンにする



① INPUT PATCH

ST IN チャンネルに割り当てる入力ソースを選択します。選択可能な入力ソースは、INPUT CH と共通です (→ P.11)。

② HA GAIN

画面上のノブをドラックして、内蔵ヘッドアンプまたは ST IN チャンネルにパッチされた外部ヘッドアンプ (AD8HR) のゲインを調節します。

③ 48V

内蔵ヘッドアンプまたは ST IN チャンネルにパッチされた外部ヘッドアンプ (AD8HR) のファンタム電源 (+48V) のオン / オフを切り替えます。

④ φ (フェイズ)

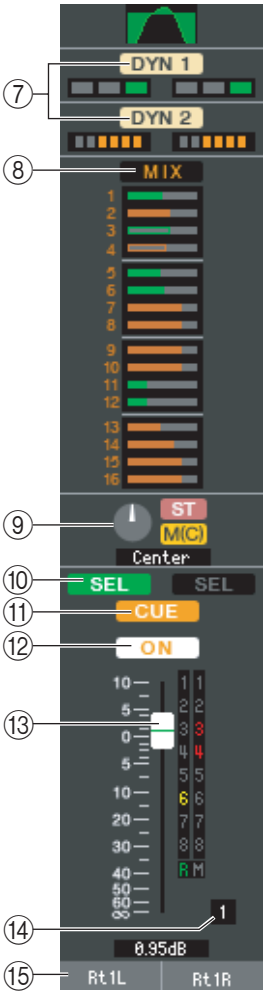
AD 変換後の信号の位相を反転させます。

⑤ HPF(ハイパスフィルター)

ハイパスフィルターのオン / オフを切り替えます。数値部分を上下にドラックすれば、カットオフ周波数を調節できます。

⑥ EQ(イコライザー)

EQ のオン / オフを切り替えます (L/R の設定が連動します)。INPUT CH のイコライザー(→ P.12) と共通です。



⑦ DYN1/DYN2(ダイナミクス 1/ ダイナミクス 2)

2 系統のダイナミクスプロセッサーのオン / オフを切り替えます。INPUT CH のダイナミクス 1/ ダイナミクス 2(→ P.12) と共通です。

⑧ MIX/MATRIX SEND

MIX バス 1 ～ 16 へのセンド表示と、MATRIX バス 1 ～ 8 へのセンド表示を切り替えます。INPUT CH のミックス / マトリクスセンド (→ P.12) と共通です。

⑨ BALANCE

BALANCE ノブで ST IN チャンネルから STEREO バスの L/R チャンネル (または L/C/R の各チャンネル) に送られる信号のバランスを調節します。BALANCE ノブ以外は INPUT CH の PAN/TO STEREO MONO(→ P.13) と共通です。

⑩ SEL(セレクト)

操作の対象となる ST IN チャンネルを選びます (L/R を個別に選択できます)。M7CL 本体のパネル上にある ST IN セクションの [SEL] キーと連動しています。

⑪ CUE

ST IN チャンネルの信号をキューモニターするボタンです (L/R が連動します)。M7CL 本体のパネル上にある ST IN セクションの [CUE] キーと連動しています。

⑫ ON

ST IN チャンネルのオン / オフを切り替えます (L/R の設定が連動します)。M7CL 本体のパネル上にある ST IN セクションの CH [ON] キーと連動しています。

⑬ フェーダー

ST IN チャンネルの入力レベルを調節します。M7CL 本体が SENDS ON FADER モードのとき以外は、M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションのフェーダーと連動しています。

現在のフェーダーの値は、フェーダーのすぐ下にある数値ボックスで確認できます。INPUT CH のフェーダー(→ P.13) と共通です。

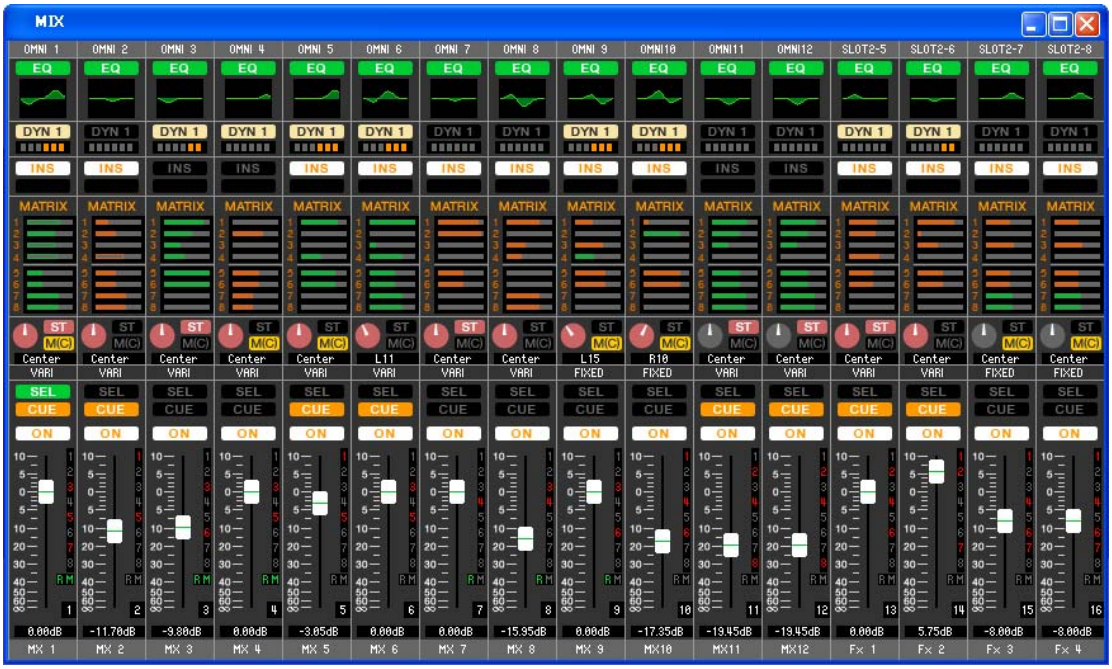
⑭ チャンネル番号

ST IN チャンネルの番号です。この番号をダブルクリックすると、そのチャンネルの Selected Channel ウィンドウが開きます。コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらダブルクリックすると、Additional View として Selected Channel ウィンドウが開きます。

⑮ チャンネル名

チャンネル名を表示するテキストボックスです。このテキストボックス内でチャンネル名を変更することもできます。

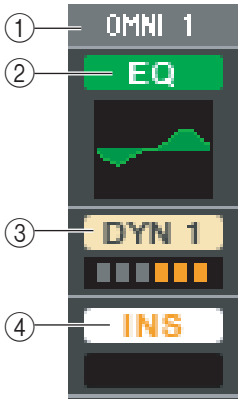
MIX ウィンドウ



MIX チャンネル 1 ～ 16 のパラメーターを表示 / 変更します。ウィンドウ内に表示させるパラメーターは、[View] メニューまたはウィンドウ内を右クリックで表示されるメニューで選択できます。

このウィンドウを表示するには以下の方法があります。

- [Windows] メニューから [Overview] を選択して “MIX” を選択する
- Master ウィンドウの NAVIGATION KEYS で [MIX] ボタンをオンにする



① OUTPUT PATCH

クリックして MIX チャンネルに割り当てる出力ポートを次の中から選択します。

OMNI1 ～ OMNI16	OMNI 端子 1 ～ 1 6
SLOT1-1、 SLOT1-2...SLOT3-16	スロット 1 ～ 3 に装着された I/O カードの出力チャンネル
RACK1A、 RACK1B...RACK8R(B)	ラック 1 ～ 8 の L/R 出力
2TROUT L、2TROUT R	2TR OUT DIGITAL 端子の L/R チャンネル

複数パッチされている場合は、先頭のポートのみが表示されます。

このウィンドウでパッチを変更した場合は、それまでに割り当てられていたポートはキャンセルされ、新しく選択されたポートのみが割り当てられます。

② EQ(イコライザー)

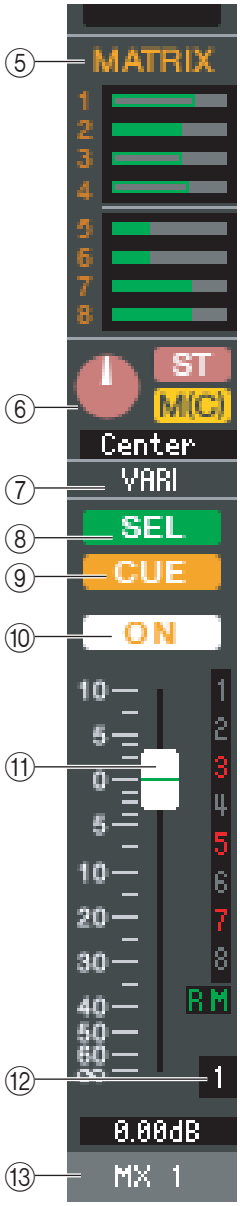
EQ のオン / オフを切り替えます。INPUT CH のイコライザー(→ P.12) と共通です。

③ DYN1 (ダイナミクス 1)

ダイナミクスプロセッサーのオン / オフを切り替えます。INPUT CH のダイナミクス 2(→ P.12) と共通です。

④ INS(インサート)

インサートインの有効 / 無効を切り替えます。



⑤ MATRIX SEND

MIX チャンネルから MATRIX バス 1 ～ 8 に送られる信号のセンドレベルをバーグラフで表示します。バーグラフを左右にドラッグして、センドレベルを設定することもできます。バーグラフをドラッグしている間は、TO STEREO/MONO の数値表示部にセンドレベルが表示されます。

バーグラフを、コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると最小値 (−∞ dB) に、<Ctrl> キーと <Shift> キーを押しながらクリックするとノミナル値 (0.00dB) になります。

- プリ / オン (緑)
- プリ / オフ (緑)
- ポスト / オン (黄)
- ポスト / オフ (黄)

MIX チャンネルから MATRIX バスに送られる信号の送出位置 (プリ / ポスト) やオン / オフ状態に応じて、バーグラフの表示が変化します。

センドのオン / オフは、バーグラフの左にあるチャンネル番号のクリックで切り替えます。

⑥ PAN/BALANCE

PAN ノブで MIX チャンネルから STEREO バスの L/R チャンネル (または L/C/R の各チャンネル) に送られる信号の定位を調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると Center 位置になります。ステレオバスとして設定されている場合は、奇数チャンネルと偶数チャンネルのバランスを調節します。ステレオバスの設定は、Mixer Setup 画面の Mix Bus Setup で行ないます。

[ST] ボタンで MIX チャンネルから STEREO バスに送られる信号のオン / オフを切り替えます。

[MONO] ボタンで MIX チャンネルから MONO バスへ送られる信号のオン / オフを切り替えます。

Selected Channel ウィンドウで LCR MODE に設定されていると、[ST] ボタンと [MONO] ボタンの代わりに **[LCR]** ボタンが表示され、[LCR] ボタンで MIX チャンネルから LCR バスへ送られる信号のオン / オフを切り替えます。

⑦ VARI/FIXED

現在選ばれている MIX バスのタイプ (VARI/FIXED) を表示します。このパラメーターの切り替えは、Mixer Setup 画面の Mix Bus Setup で行ないます。

⑧ SEL(セレクト)

操作の対象となる MIX チャンネルを選びます。

⑨ CUE

MIX チャンネルの信号をキューモニターするボタンです。

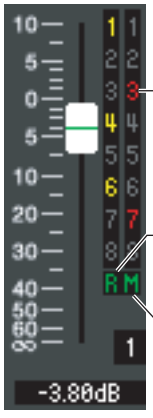
⑩ ON

MIX チャンネルのオン / オフを切り替えます。

⑪ フェーダー

MIX チャンネルの出力レベルを調節します。現在のフェーダーの値は、フェーダーのすぐ下にある数値ボックスで確認できます。フェーダーノブを、コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると最小値 (−∞ dB) に、<Ctrl> キーと <Shift> キーを押しながらクリックするとノミナル値 (0.00dB) になります。

その他、フェーダー右側の番号やアルファベットで、そのチャンネルが所属するミュートグループおよびリコールセーフ / ミュートセーフの設定状態を確認できます。



そのチャンネルが所属するミュートグループの番号が赤で表示されます。

そのチャンネルがリコールセーフに設定されているときに、R の文字が緑で表示されます。

そのチャンネルがミュートセーフに設定されているときに、M の文字が緑で表示されます。

⑫ チャンネル番号

MIX チャンネルの番号です。この番号をダブルクリックすると、そのチャンネルの Selected Channel ウィンドウが開きます。コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらダブルクリックすると、Additional View として Selected Channel ウィンドウが開きます。

⑬ チャンネル名

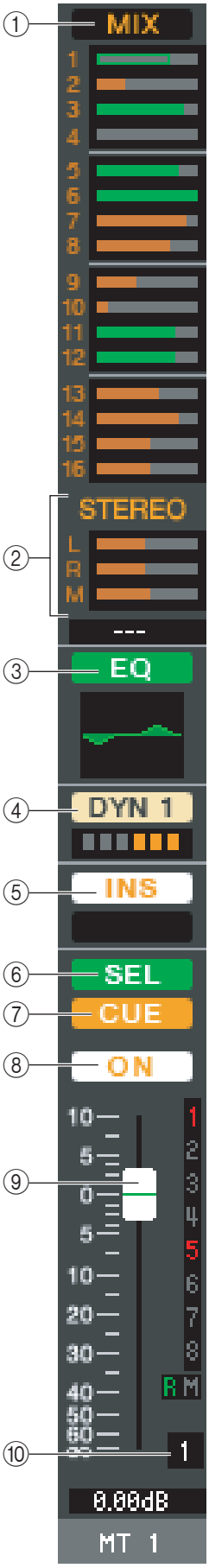
チャンネル名を表示するテキストボックスです。このテキストボックス内でチャンネル名を変更することもできます。

MATRIX ウィンドウ

MATRIX チャンネル 1 ～ 8 のパラメーターを表示 / 変更します。ウィンドウ内に表示させるパラメーターは、[View] メニューまたはウィンドウ内を右クリックで表示されるメニューで選択できます。

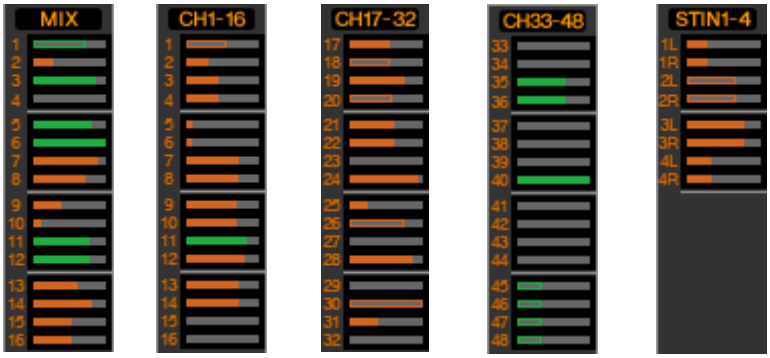
このウィンドウを表示するには以下の方法があります。

- [Windows] メニューから [Overview] を選択して “MATRIX” を選択する
- Master ウィンドウの NAVIGATION KEYS で [MTRX] ボタンをオンにする



①MIX/CH/ST IN(ミックス/INPUT CH/ST INからMATRIX バスへのセンドレベル)

MIX1 ～ 16 チャンネルからのセンド表示、INPUT CH 1 ～ 16/17 ～ 32/33 ～ 48 からのセンド表示 (*)、ST IN からのセンド表示を切り替えます。



ボタンのすぐ下にあるバーグラフに、それぞれのチャンネルから MATRIX バスに送られる信号のセンドレベルを表示 / 変更します。操作方法や表示の意味は、MIX ウィンドウの ⑤MATRIX と共通です (→ P.17)。

(*) INPUT CH 33-48 は、オフライン編集で Mixer Setup 画面の Input Channels で 48 を選択しているときか、M7CL-48 とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

②STEREO(STEREO チャンネルから MATRIX バスへのセンドレベル)

STEREO チャンネルから MATRIX バスに送られる信号のセンドレベルを表示 / 変更します。バーグラフをドラッグしている間は、すぐ下の数値表示部にセンドレベルが表示されます。操作方法や表示の意味は、MIX ウィンドウの ⑤MATRIX と共通です (→ P.17)。

③EQ(イコライザー)

EQ のオン / オフを切り替えます。ボタンのすぐ下にあるグラフに、EQ の大まかな特性が表示されます。INPUT CH のイコライザー(→ P.12) と共通です。

④DYN1(ダイナミクス 1)

ダイナミクスプロセッサーのオン / オフを切り替えます。INPUT CH のダイナミクス 2(→ P.12) と共通です。

⑤INS(インサート)

インサートインの有効 / 無効を切り替えます。

⑥SEL(セレクト)

操作の対象となる MATRIX チャンネルを選びます。

⑦CUE

MATRIX チャンネルの信号をキューモニターするボタンです。

⑧ON

MATRIX チャンネルのオン / オフを切り替えます。

⑨フェーダー

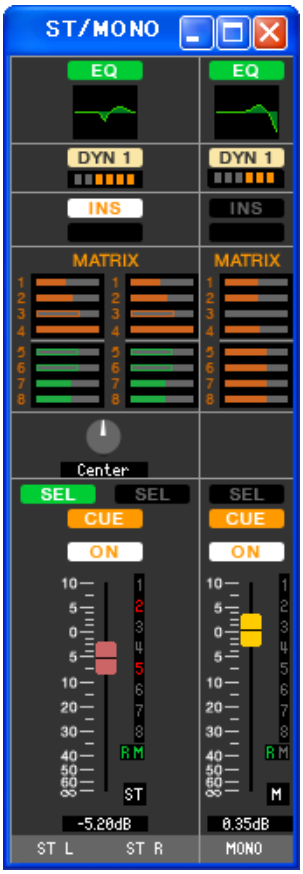
MATRIX チャンネルの出力レベルを調節します。現在のフェーダーの値は、フェーダーのすぐ下にある数値ボックスで確認できます。

その他、フェーダー右側の番号やアルファベットで、そのチャンネルが所属するミュートグループおよびリコールセーフ / ミュートセーフの設定状態を確認できます (番号やアルファベットの意味は→ P.17)。

⑩チャンネル番号

MATRIX チャンネルの番号です。この番号をダブルクリックすると、そのチャンネルの Selected Channel ウィンドウが開きます。コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらダブルクリックすると、Additional View として Selected Channel ウィンドウが開きます。

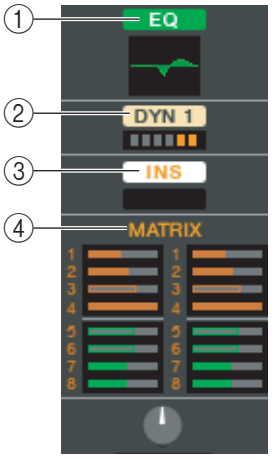
STEREO/MONO ウィンドウ



STEREO と MONO チャンネルのパラメーターを表示 / 変更します。ウィンドウ内に表示させるパラメーターは、[View] メニューまたはウィンドウ内を右クリックで表示されるメニューで選択できます。

このウィンドウを表示するには以下の方法があります。

- [Windows] メニューから [Overview] を選択して “STEREO/MONO” を選択する
- Master ウィンドウの NAVIGATION KEYS で [STEREO] ボタンをオンにする



① EQ(イコライザー)

EQ のオン / オフを切り替えます (L/R の設定が連動します)。INPUT CH のイコライザー(→ P.12) と共通です。

② DYN1(ダイナミクス 1)

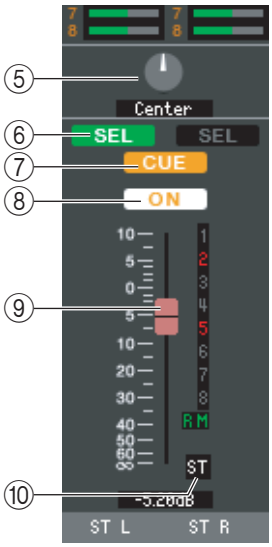
ダイナミクスプロセッサーのオン / オフを切り替えます。INPUT CH のダイナミクス 2(→ P.12) と共通です。

③ INS(インサート)

インサートインの有効 / 無効を切り替えます (L/R の設定が連動します)。

④ MATRIX SEND

STEREO/MONO チャンネルから MATRIX バス 1 ～ 8 に送られる信号のセンドレベルを表示 / 変更します。操作方法や表示の意味は、MIX ウィンドウの MATRIX と共通です (→ P.17)。



⑤ BALANCE

STEREO チャンネルの左右のバランスを調節します。

⑥ SEL(セレクト)

操作の対象となるチャンネルを選びます (L/R 独立して指定できます)。M7CL 本体のパネル上にある STEREO/MONO MASTER セクションにある [SEL] キーと連動しています。

⑦ CUE

STEREO/MONO チャンネルの信号をキューモニターするボタンです。M7CL 本体のパネル上にある STEREO/MONO MASTER セクションにある [CUE] キーと連動しています。

⑧ ON

STEREO/MONO チャンネルのオン / オフを切り替えます。M7CL 本体のパネル上にある STEREO/MONO MASTER セクションにある [ON] キーと連動しています。

⑨ フェーダー

STEREO/MONO チャンネルの出力レベルを調節します。M7CL 本体のパネル上にある STEREO/MONO MASTER セクションにあるフェーダーと連動しています。

現在のフェーダーの値は、フェーダーのすぐ下にある数値ボックスで確認できます。

その他、フェーダー右側の番号やアルファベットで、そのチャンネルが所属するミュートグループおよびリコールセーフ / ミュートセーフの設定状態を確認できます (番号やアルファベットの意味は→ P.17)。

⑩ チャンネル番号

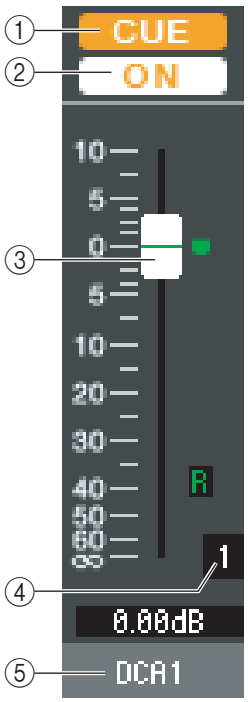
チャンネルの番号 (ST または M) です。この番号をダブルクリックすると、そのチャンネルの Selected Channel ウィンドウが開きます。コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらダブルクリックすると、Additional View として Selected Channel ウィンドウが開きます。

DCA ウィンドウ

DCA グループ 1 ～ 8 のパラメーターを表示 / 変更します。

このウィンドウを表示するには以下の方法があります。

- [Windows] メニューから [Overview] を選択して “DCA” を選択する
- Master ウィンドウの NAVIGATION KEYS で [DCA] ボタンをオンにする



① CUE

DCA グループにアサインされている全チャンネルをキューモニターするボタンです。

② ON

オンすると DCA グループにアサインされている全チャンネルがオンになり、オフにすると DCA グループにアサインされている全チャンネルの信号が出力されません。

③ DCA フェーダー

DCA グループのレベルを調節するフェーダーです。

現在のフェーダーの値は、フェーダーのすぐ下にある数値ボックスで確認できます。

フェーダーノブを、コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると最小値 (−∞ dB) に、<Ctrl> キーと <Shift> キーを押しながらクリックするとノミナル値 (0.00dB) になります。フェーダーがノミナルレベルのときは、フェーダーの右側にある緑色のインジケーターが点灯します。

また、DCA グループがリコールセーフに設定されているときは、フェーダー右下の R の文字が緑色で表示されます。

④ DCA 番号

DCA グループの番号です。

⑤ DCA グループ名

DCA グループ名を表示するテキストボックスです。このテキストボックス内で DCA グループ名を変更することもできます。

Selected Channel ウィンドウ

現在選択されているインプット系チャンネル (INPUT CH 1 ～ 48(*)、ST IN チャンネル 1 ～ 4) またはアウトプット系チャンネル (MIX チャンネル 1 ～ 16、MATRIX チャンネル 1 ～ 8、STEREO/MONO チャンネル) の各種パラメーターを設定します。

このウィンドウを表示するには以下の方法があります。

- [Windows] メニューから [Selected Channnel] を選択して“MAIN VIEW”を選択する
- Overview の各ウィンドウでチャンネル番号をダブルクリックする
- M7CL 本体で USER DEFINED KEYS に [M7CL EDITOR CONTROL] の [SEL CH] で [1-16]/[17-32]/[33-48](*) を割り当てて実行する

NOTE *[Windows] メニューから [Selected Channnel] を選択して“ADDITIONAL VIEW”を選択すると、選択されていないチャンネルのウィンドウを表示することもできます。この ADDITIONAL VIEW では、表示チャンネルが M7CL 本体のパネル上の [SEL] キーと連動しません。*

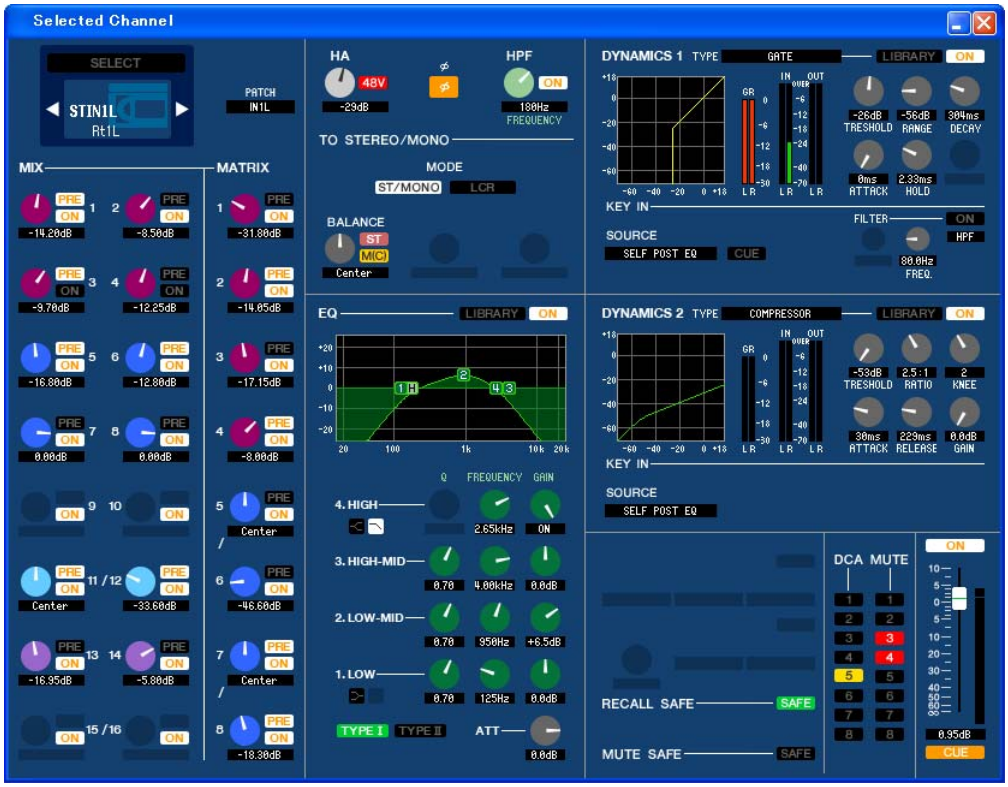
このウィンドウで操作可能なパラメーターの種類は、現在選択されているチャンネルの種類に応じて異なります。以下、インプット系チャンネル (INPUT CH 1 ～ 48、ST IN チャンネル 1 ～ 4)、MIX チャンネル、MATRIX チャンネル、STEREO/MONO チャンネルに分けて Selected Channel ウィンドウのパラメーターを説明します。

(*) INPUT CH 33-48 は、オフライン編集で Mixer Setup 画面の Input Channels で 48 を選択しているときか、M7CL-48 とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

インプット系チャンネルが選ばれている場合

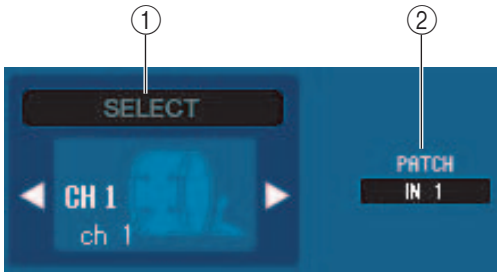
● INPUT CH のウィンドウ

● **ST IN チャンネルのウィンドウ**



NOTE *特に断わり書きがない限り、以下に説明するパラメーターは、INPUT CH 1 ～ 48、ST IN チャンネル 1 ～ 4 に共通です。*

❑ CHANNEL SELECT(チャンネル選択)



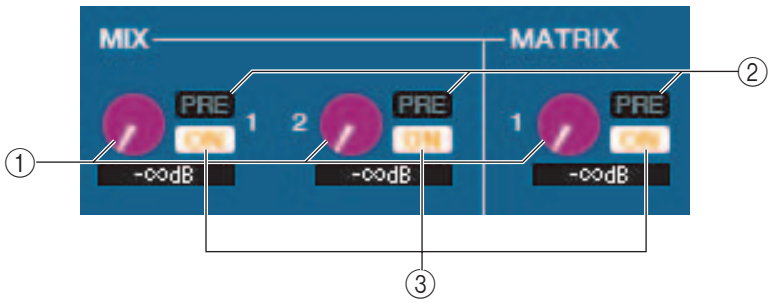
① SELECT(チャンネル選択)

操作の対象となるチャンネルの番号と名称を表示します。チャンネルを切り替えるには、SELECT ボタンまたは左右の三角ボタンを使用します。Main View で選択されたチャンネルは M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションの [SEL] キーと連動します。また、アイコンを右クリックしてアイコンが選択できます。チャンネル名のテキストボックス内で、名称を変更することもできます。

② INPUT PATCH

インプット系チャンネルに割り当てる入力ソースを選択します (選択可能な入力ソースは→ P.11)。

❑ MIX/MATRIX SEND



① MIX センドレベル

インプット系チャンネルから VARI タイプの MIX バスおよび MATRIX バスに送られる信号のセンドレベルを調節します。現在の値は、すぐ下の数値ボックスで確認できます。

② PRE(プリ / ポスト)

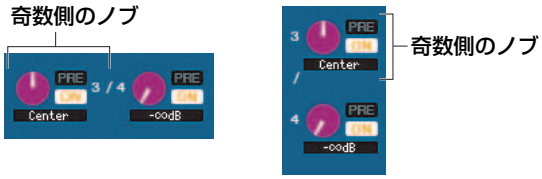
インプット系チャンネルから MIX バスおよび MATRIX バスに送られる信号の送出位置として、PRE または POST を選択します。オンのときは PRE POINT、オフのときは POST FADER になります。PRE POINT の設定は Mixer Setup 画面で行ないます。

③ ON(MIX センドオン / オフ)

インプット系チャンネルから MIX バスおよび MATRIX バスに送られる信号のオン / オフを切り替えます。

HINT

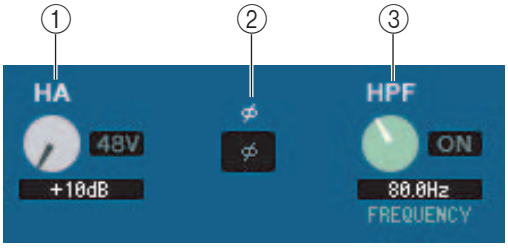
- *MIX バスおよび MATRIX バスがステレオとして使用された場合は、奇数側のノブが PAN となります。*



- *MIX バスに FIXED タイプが選択されていた場合は、ON ボタンのみ有効です。*

- *ステレオ / モノの設定や VARI タイプ /FIXED タイプの設定は、Mixer Setup 画面で行ないます。*

❑ HA GAIN/ φ /HPF



① HA(HA ゲイン)

内蔵ヘッドアンプまたはインプット系チャンネルにパッチされた外部ヘッドアンプ (AD8HR) のゲインを調節します。現在の設定値は、ノブの下にある数値ボックスで確認できます。<Ctrl> キーを押しながらノブをクリックすると初期値 (+10 dB) になります。[48V] ボタンを使って、ファンタム電源のオン / オフを切り替えることもできます。

② φ(フェイズ)

AD 変換後の信号の位相を反転させます。

③ HPF(ハイパスフィルター)

右側の [ON] ボタンを使って、ハイパスフィルターのオン / オフを切り替えます。また、左側のノブを操作してカットオフ周波数を変更できます。現在の設定値は、ノブの下にある数値ボックスで確認できます。また、イコライザーの EQ グラフ上に H で表示されます。

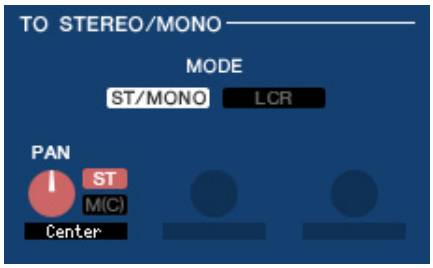
❑ TO STEREO/MONO

インプット系チャンネルから STEREO バス /MONO バスへのセンドを設定します。

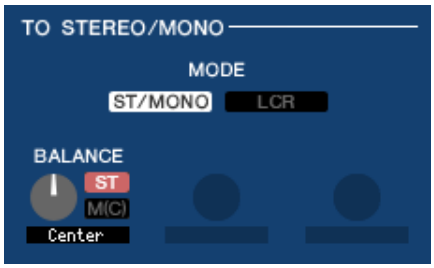
MODE

・ ST/MONO ボタン

このボタンがオンのときは STEREO L/R バスおよび独立した MONO バスとして扱います。



[INPUT CH 1 ～ 48]

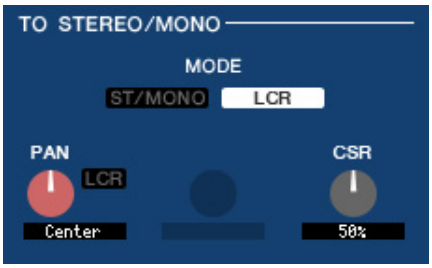


[ST IN チャンネル 1 ～ 4]

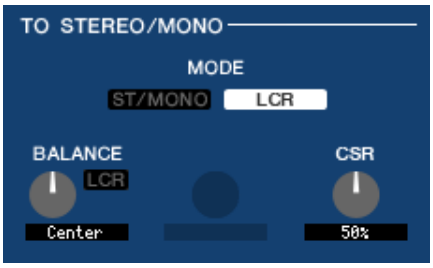
PAN (ST IN では BALANCE)	インプット系チャンネルから STEREO バスの L/R チャンネルに送られる信号の定位を調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると Center 位置になります。M7CL 本体のパネル上にある SELECTED CHANNEL セクションの [PAN] エンコーダーと連動しています。
ST	インプット系チャンネルから STEREO バスに送られる信号のオン / オフを切り替えます。
M(C)	インプット系チャンネルから MONO バスに送られる信号のオン / オフを切り替えます。

・ LCR ボタン

このボタンがオンのときは連動する L/C/R バスとして扱います。



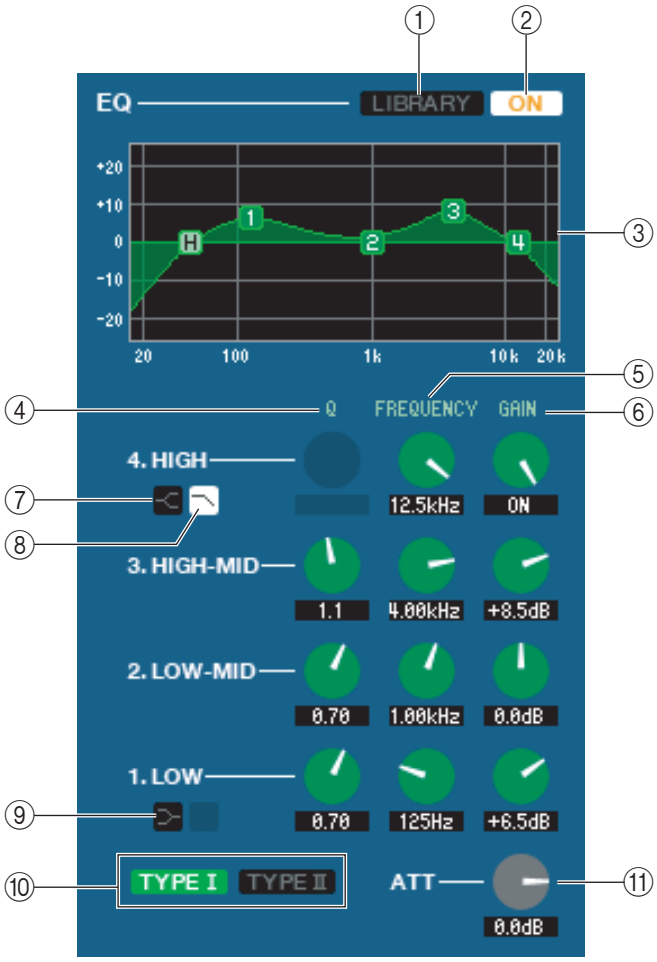
[INPUT CH 1 ～ 48]



[ST IN チャンネル 1 ～ 4]

PAN (ST IN では BALANCE)	インプット系チャンネルから L/C/R の各チャンネルに送られる信号の定位を調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると Center 位置になります。M7CL 本体のパネル上にある SELECTED CHANNEL セクションの [PAN] エンコーダーと連動しています。
CSR(センターサイドレシオ)	STEREO バスの L/R に対する CENTER チャンネルのレベル比を 0 ～ 100% の範囲で設定します。

❑ EQUALIZER



① LIBRARY

LIBRARY ウィンドウの INPUT EQ ページを呼び出します。

② ON

EQ のオン / オフを切り替えます。

③ EQ グラフ

現在選ばれているチャンネルの EQ の特性を表示します。キーボードの <Ctrl> キーを押しながらグラフをクリックすると、特性がフラットになります (HPF の設定は残ります)。

④ Q

⑤ FREQUENCY

⑥ GAIN

LOW、LO-MID、HI-MID、HIGH の 4 バンドの Q、中心周波数、ブースト / カット量を調節するノブです。

⑦ HIGH シェルビング

このボタンがオンのとき、HIGH EQ がシェルビングタイプに切り替わります (HIGH EQ の Q ノブはなくなります)。

⑧ LPF(ローパスフィルター)

このボタンがオンのとき、HIGH EQ がローパスフィルターに切り替わります。HIGH EQ の Q ノブはなくなり、GAIN ノブはローパスフィルターのオン / オフ切り替えスイッチとして機能します。

⑨ LOW シェルビング

このボタンがオンのとき、LOW EQ がシェルビングタイプに切り替わります (LOW EQ の Q ノブはなくなります)。

⑩ TYPE I/TYPE II(EQ タイプ)

EQ のタイプとして TYPE I(従来のデジタルミキサーのアルゴリズム) または TYPE II(新開発のアルゴリズム) を選びます。

⑪ ATT(アッテネーション)

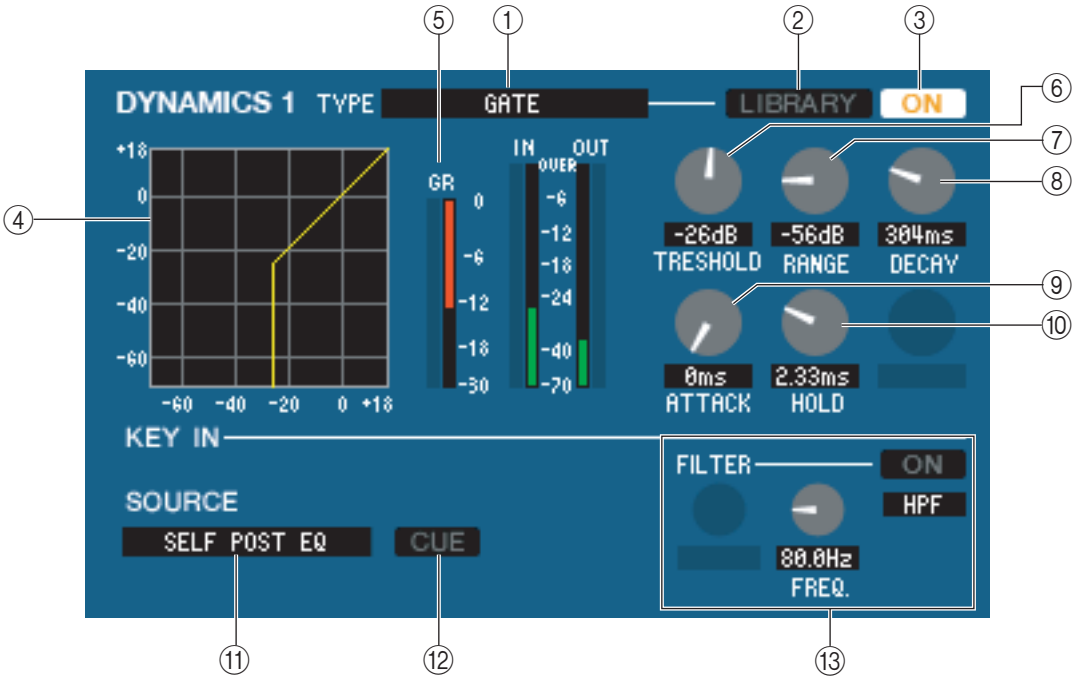
アッテネーション / ゲイン量を設定します。

❑ DYNAMICS1/2

2系統のダイナミクスプロセッサーで、それぞれ次の中からタイプを選択できます。

DYNAMICS1:	GATE、DUCKING、EXPANDER、COMPRESSOR
DYNAMICS2:	COMPRESSOR、COMPANDER-H、COMPANDER-S、DE-ESSER

GATE/DUCKING が選択されたとき



① TYPE

現在選ばれているゲートのタイプを表示します。クリックしてタイプを選択できます。

② LIBRARY

ダイナミクスライブラリーを呼び出すためのボタンです。このボタンをクリックすると、LIBRARY ウィンドウの DYNAMICS ページが開きます。

③ ON

ゲートのオン / オフを切り替えるボタンです。

④ レスポンス曲線

現在選ばれているチャンネルのゲートの特性を表示します。

⑤ GR メーター

ゲートによるリダクション量を表示するメーターです。

⑥ THRESHOLD

ゲートが開閉する基準レベルを設定します。キーイン信号がこのレベルを越えたときにゲートが開き、このレベルよりも下がったときにゲートが閉じます。

⑦ RANGE

ゲートが閉じている間の信号レベルの減衰量を設定します。

⑧ DECAY

ホールドタイムで設定された時間を経過した後で、ゲートが閉じるまでの時間を設定します。

⑨ ATTACK

キーイン信号がスレッショルドを越えてからゲートが開くまでの時間を設定します。

⑩ HOLD

キーイン信号がスレッショルドよりも下がった後で、ゲートが開いている時間を設定します。

⑪ KEY IN SOURCE

クリックしてキーインとして利用する信号を次の中から選択します。

SELF PRE EQ	現在選ばれているインプット系チャンネルの EQ 直前の信号
SELF POST EQ	現在選ばれているインプット系チャンネルの EQ 直後の信号
MIX OUT 13 ～ 16	それぞれ該当する MIX チャンネルのアウトプットアッテネーション直前の出力信号
CH 1 ～ 48 POST EQ	それぞれ該当するインプット系チャンネルの EQ 直後の信号 (ただし選択できる信号は、CH1 ～ 8、CH9 ～ 16、CH17 ～ 24、CH25 ～ 32、CH33 ～ 40、CH41 ～ 48、STIN1L ～ STIN4R の 7 つのグループの中で、そのチャンネルが属するグループのみ)
STIN1L ～ STIN4R POST EQ	

⑫ CUE

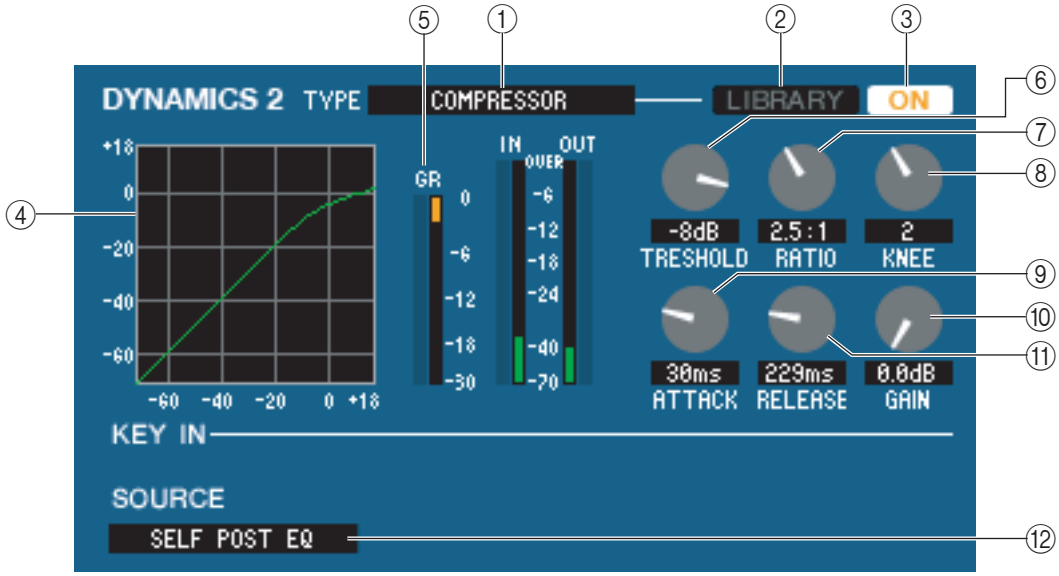
現在選ばれているキーイン信号をキューモニターするボタンです。ADDITIONAL VIEW にはありません。

⑬ KEY IN FILTER

選択したキーイン信号にかけるフィルターの種類を HPF(ハイパスフィルター)、BPF(バンドパスフィルター)、LPF(ローパスフィルター) の中から選びます。ON/OFF ボタンで、フィルターのオン / オフを切り替えます。

BPF を選んだときは、2 つのノブでバンドパス周波数と Q を調節します。また、HPF と LPF を選んだときは、ノブでカットオフ周波数を調節します。

COMPRESSOR が選択されたとき



① TYPE

現在選ばれているコンプレッサーのタイプを表示します。クリックしてタイプを選択できます。

② LIBRARY

ダイナミクスライブラリーを呼び出すためのボタンです。このボタンをクリックすると、LIBRARY ウィンドウの DYNAMICS ページが開きます。

③ ON

コンプレッサーのオン / オフを切り替えるボタンです。

④ レスポンス曲線

現在選ばれているチャンネルのコンプレッサーの特性を表示します。

⑤ GR メーター

コンプレッサーによるリダクション量を表示するメーターです。

⑥ THRESHOLD

コンプレッサーが動作する基準レベルを設定します。キーイン信号がこのレベルを越えたときに入力信号の圧縮が始まり、このレベルよりも下がったときに圧縮が解除されます。

⑦ RATIO

キーイン信号がスレッショルドを越えたときに、入力信号を圧縮する比率を設定します。

⑧ KNEE

出力レベルが変化する鋭さを設定します。HARD、1 ～ 5 の中から選択できます。

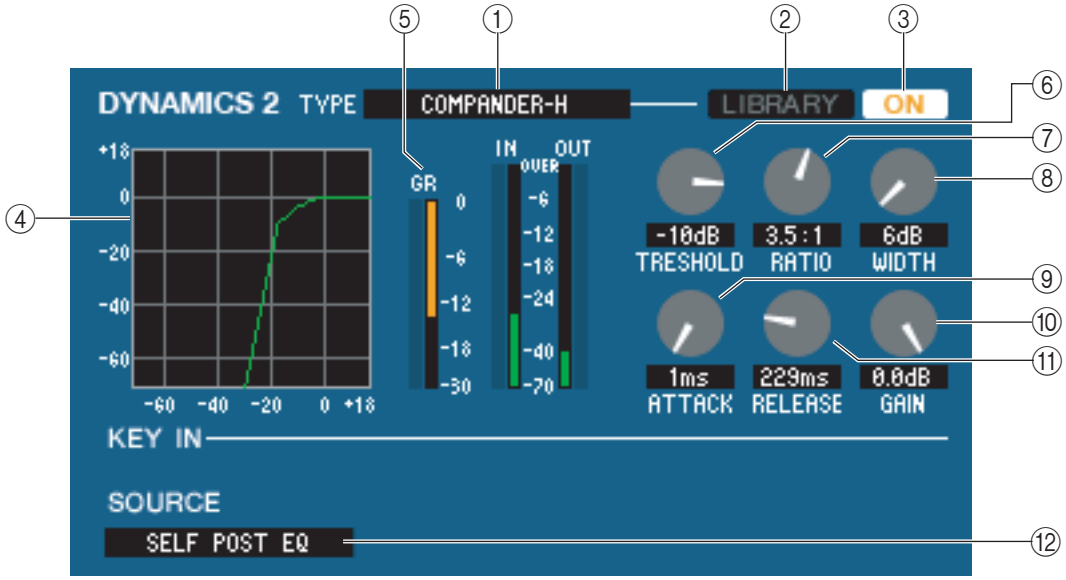
⑨ ATTACK
キーイン信号がスレッショルドを越えてから信号の圧縮が始まるまでの時間を設定します。

⑩ GAIN
コンプレッサー通過後の信号のゲインを設定します。

⑪ RELEASE
キーイン信号がスレッショルドを下回ってから、圧縮が解除されるまでの時間を設定します。

⑫ KEY IN SOURCE
クリックしてキーインとして利用する信号を選択します。
選択できる信号は GATE と共通です。

COMPANDER-H、COMPANDER-S が選択されたとき



① TYPE
現在選ばれているコンプレッサーのタイプを表示します。クリックしてタイプを選択できます。

② LIBRARY
ダイナミクスライブラリーを呼び出すためのボタンです。このボタンをクリックすると、LIBRARY ウィンドウの DYNAMICS ページが開きます。

③ ON
コンプレッサーのオン / オフを切り替えるボタンです。

④ レスポンス曲線
現在選ばれているチャンネルのコンパンダーの特性を表示します。

⑤ GR メーター
コンプレッサーによるリダクション量を表示するメーターです。

⑥ THRESHOLD
コンプレッサーが動作する基準レベルを設定します。キーイン信号がこのレベルを越えたときに入力信号の圧縮が始まり、このレベルよりも下がったときに圧縮が解除されます。

⑦ RATIO
キーイン信号がスレッショルドを越えたときに、入力信号を圧縮する比率を設定します。

⑧ WIDTH
コンプレッサーの効果の境界レベル (THRESHOLD) と、エキスパンダーの効果の境界レベルの幅です。
THRESHOLD+WIDTH 以下のレベルにエキスパンダーの効果がかかります。

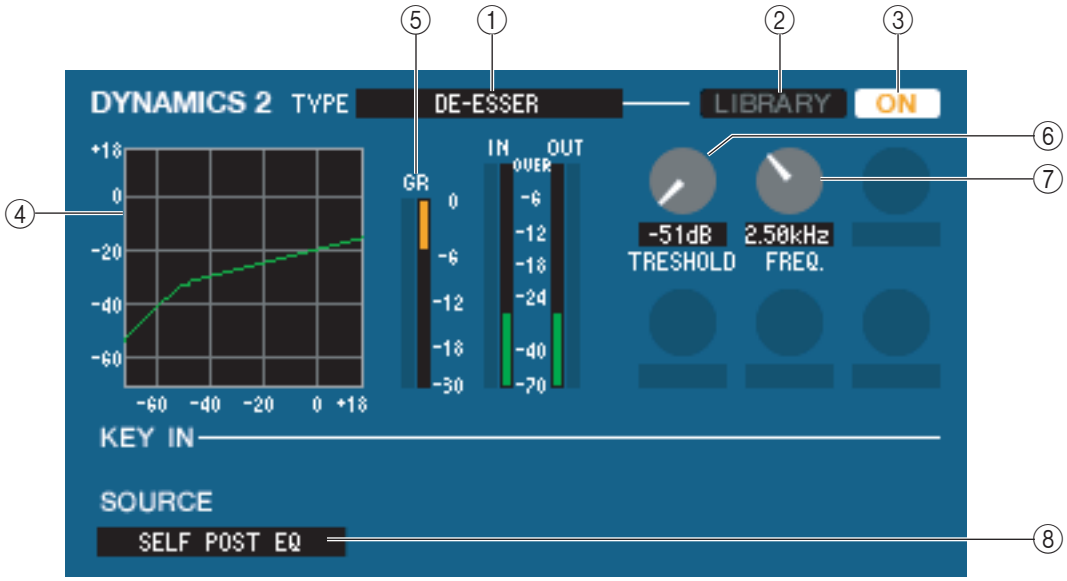
⑨ ATTACK
キーイン信号がスレッショルドを越えてから信号の圧縮が始まるまでの時間を設定します。

⑩ GAIN
コンプレッサー通過後の信号のゲインを設定します。

⑪ RELEASE
キーイン信号がスレッショルドを下回ってから、圧縮が解除されるまでの時間を設定します。

⑫ KEY IN SOURCE
クリックしてキーインとして利用する信号を選択します。
選択できる信号は GATE と共通です。

DE-ESSER が選択されたとき



① TYPE
現在選ばれているタイプがディエッサーであることを表示します。

② LIBRARY
ダイナミクスライブラリーを呼び出すためのボタンです。このボタンをクリックすると、LIBRARY ウィンドウの DYNAMICS ページが開きます。

③ ON
ディエッサーのオン / オフを切り替えるボタンです。

④ レスポンス曲線
現在選ばれているチャンネルのディエッサーの特性を表示します。

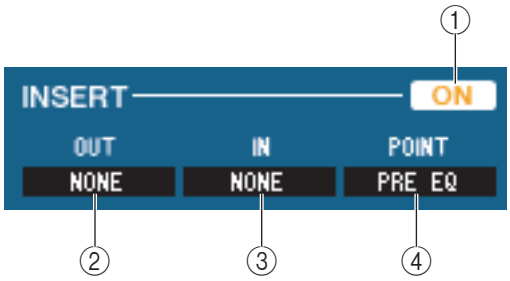
⑤ GR メーター
ディエッサーによるリダクション量を表示するメーターです。

⑥ THRESHOLD
ディエッサーが動作する基準レベルを設定します。キーイン信号に対して最低周波数で設定した周波数以上の帯域のレベルがこのレベルを超えたときに入力信号の圧縮が始まり、このレベルよりも下がったときに圧縮が解除されます。

⑦ FREQ.(最低周波数)
キーイン信号に対してディエッサーを動作させる、最低周波数を設定します。

⑧ KEY IN SOURCE
クリックしてキーインとして利用する信号を選択します。
選択できる信号は GATE と共通です。

❑ INSERT(ST IN チャンネルは除く)



① ON

インサートイン / アウトの有効 / 無効を切り替えます。

② OUT(インサートアウト)

クリックしてインサートアウトに割り当てる出力ポートを次の中から選びます。

NONE	割り当てなし
SLOT1-1, SLOT1-2...SLOT3-15, SLOT3-16	スロット 1 ～ 3 に装着された I/O カードの出力チャンネル
RACK1A、RACK1B...RACK8R(B)	ラック 1 ～ 8 の L/R 出力

③ IN(インサートイン)

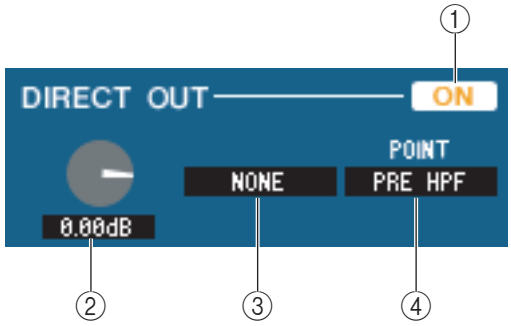
クリックしてインサートインに割り当てる入力ポートを次の中から選びます。

NONE	割り当てなし
SLOT1-1, SLOT1-2...SLOT3-15, SLOT3-16	スロット 1 ～ 3 に装着された I/O カードの入力チャンネル
RACK1A、RACK1B...RACK8R(B)	ラック 1 ～ 8 の L/R 入力

④ POINT(インサートポイント)

インサートイン / アウトをパッチする位置を PRE EQ、PRE FADER のどちらかから選択します。

❑ DIRECT OUT(ST IN チャンネルは除く)



① ON

ダイレクト出力のオン / オフを切り替えます。

② DIRECT OUT GAIN

ダイレクトアウトのゲインを調節します。現在の設定値はノブの下にある数値ボックスで確認できます。<Ctrl> キーを押しながらノブをクリックするとノミナル値 (0.0dB) になります。

③ DIRECT OUT PORT

クリックしてダイレクトアウトに割り当てる出力ポートを次の中から選びます。

NONE	割り当てなし
OMNI1 ～ OMINI16	OMNI 端子 1 ～ 16
SLOT1-1, SLOT1-2...SLOT3-16	スロット 1 ～ 3 に装着された I/O カードの出力チャンネル

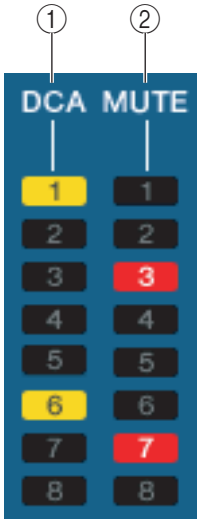
④ DIRECT OUT POINT

ダイレクトアウトをパッチする位置を PRE HPF、PRE EQ のどちらかから選択します。

❑ RECALL SAFE/MUTE SAFE

そのチャンネルのリコールセーフ / ミュートセーフの有効 / 無効を切り替えます。

❑ DCA GROUP/MUTE GROUP



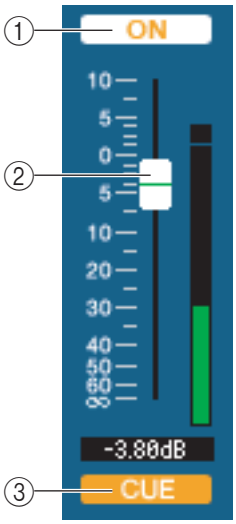
①DCA GROUP

そのチャンネルが所属する DCA グループを 1 ～ 8 の中から選びます。

②MUTE GROUP

そのチャンネルが所属するミュートグループを 1 ～ 8 の中から選びます。

❑ フェーダー



①ON

インプット系チャンネルのオン / オフを切り替えます。M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションの CH [ON] キーと連動しています。

②フェーダー

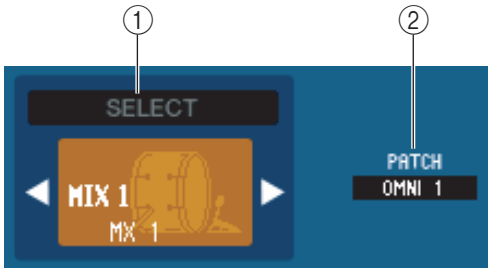
インプット系チャンネルの入力レベルを調節します。M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションのフェーダーと連動しています。フェーダーの右側には信号レベルを表わすメーターがあり、現在の設定値はすぐ下の数値ボックスで確認できます。フェーダーノブを、コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると最小値 (－∞ dB) に、<Ctrl> キーと <Shift> キーを押しながらクリックするとノミナル値 (0.00dB) になります。

③CUE

インプット系チャンネルの信号をキューモニターするボタンです。M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションの [CUE] キーと連動しています。

MIX チャンネルが選ばれている場合

❑ CHANNEL SELECT(チャンネル選択)



① SELECT(チャンネル選択)

操作の対象が MIX チャンネルであることを除けば、インプット系チャンネルのチャンネル選択と共通です (→ P.24)。

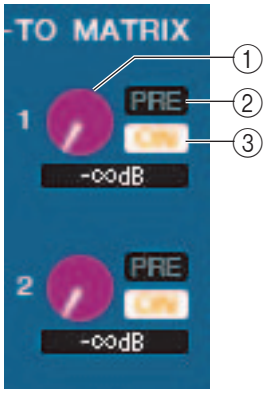
② INPUT PATCH

インプット系チャンネルに割り当てる入力ソースを選択します (選択可能な入力ソースは→ P.16)。

複数パッチされている場合は、先頭のポートのみが表示されます。

このウィンドウでパッチを変更した場合は、それまでに割り当てられていたポートはキャンセルされ、新しく選択されたポートのみが割り当てられます。

❑ TO MATRIX



① MATRIX センドレベル

MIX チャンネルから MATRIX バスに送られる信号のセンドレベルを調節します。

② ON(MATRIX センドオン / オフ)

MIX チャンネルから MATRIX バスに送られる信号のオン / オフを切り替えます。

③ POINT(センドポイント)

MIX チャンネルから MATRIX バスに送られる信号の送出位置として、PRE または POST を選択します。オンのときは PRE POINT、オフのときは POST FADER になります。PRE POINT の設定は Mixer Setup 画面で行ないます。

HINT

- *MATRIX バスがステレオとして使用された場合は、奇数側のノブが PAN となります。*
- *ステレオ / モノの設定は、Mixer Setup 画面で行ないます。*

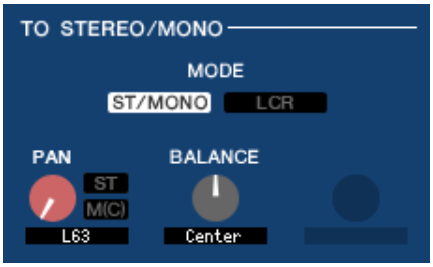
❑ TO STEREO/MONO

MIX チャンネルから STEREO バス /MONO バスへのセンドを設定します。

MODE

- **ST/MONO ボタン**

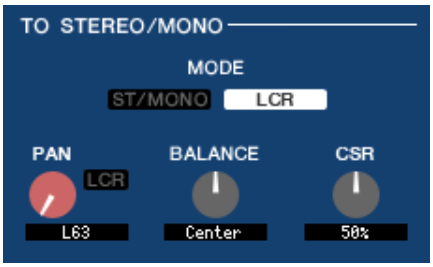
  このボタンがオンのときは STEREO バスおよび独立した MONO バスとして扱います。



PAN	MIX チャンネルから STEREO バスの L/R チャンネルに送られる信号の定位を調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると Center 位置になります。M7CL 本体のパネル上にある SELECTED CHANNEL セクションの [PAN] エンコーダーと連動しています。選択された MIX バスがステレオバスとして使用された場合は、奇数チャンネルは L63/ 偶数チャンネルは R63 に固定になります。
ST	MIX チャンネルから STEREO バスに送られる信号のオン / オフを切り替えます。
MONO	MIX チャンネルから MONO バスに送られる信号のオン / オフを切り替えます。
BALANCE	選択された MIX バスがステレオバスとして使用された場合のみ表示されます。ステレオバスの左右音量のバランスを調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると Center 位置になります。

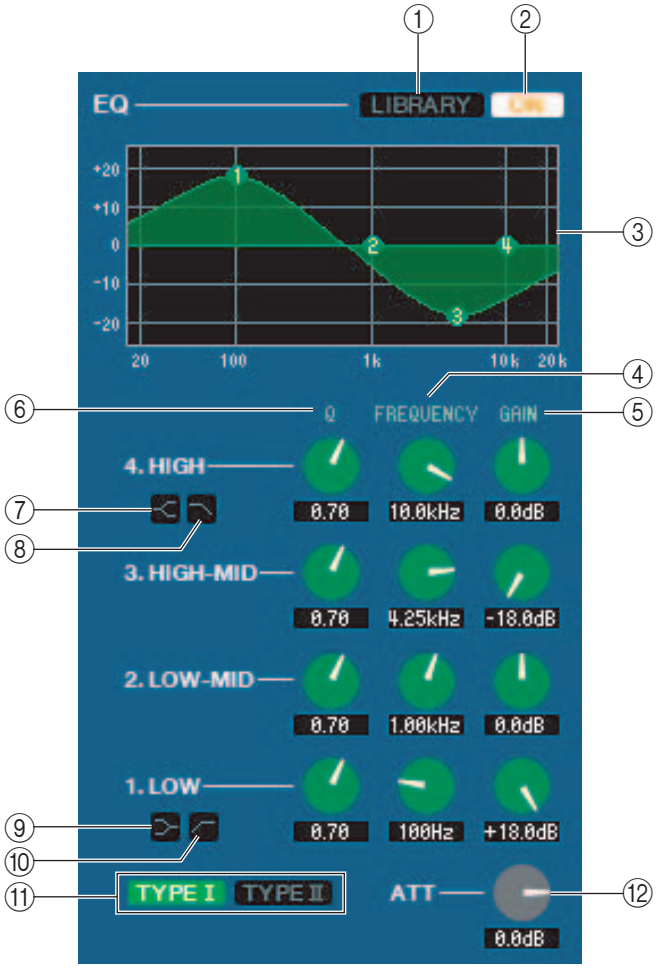
- **LCR ボタン**

  このボタンがオンのときは連動する L/C/R バスとして扱います。



PAN	MIX チャンネルから L/C/R の各チャンネルに送られる信号の定位を調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると Center 位置になります。M7CL 本体のパネル上にある SELECTED CHANNEL セクションの [PAN] エンコーダーと連動しています。選択された MIX バスがステレオバスとして使用された場合は、奇数チャンネルは L63/ 偶数チャンネルは R63 に固定になります。
BALANCE	選択された MIX バスがステレオバスとして使用された場合のみ表示されます。ステレオバスの左右音量のバランスを調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると Center 位置になります。
CSR(センターサイドレシオ)	STEREO バスの L/R に対する CENTER チャンネルのレベル比を 0 ～ 100% の範囲で設定します。

❑ EQUALIZER



① LIBRARY

LIBRARY ウィンドウの OUTPUT EQ ページを呼び出します。

② ON

EQ のオン / オフを切り替えます。

③ EQ グラフ

現在選ばれているチャンネルの EQ の特性を表示します。キーボードの <Ctrl> キーを押しながらグラフをクリックすると、特性がフラットになります。

④ Q
⑤ FREQUENCY
⑥ GAIN

LOW、LO-MID、HI-MID、HIGH の 4 バンドの Q、中心周波数、ブースト / カット量を調節するノブです。

⑦ HIGH シェルビング

このボタンがオンのとき、HIGH EQ がシェルビングタイプに切り替わります (HIGH EQ の Q ノブはなくなります)。

⑧ LPF(ローパスフィルター)

このボタンがオンのとき、HIGH EQ がローパスフィルターに切り替わります。HIGH EQ の Q ノブはなくなり、GAIN ノブはローパスフィルターのオン / オフ切り替えスイッチとして機能します。

⑨ LOW シェルビング

このボタンがオンのとき、LOW EQ がシェルビングタイプに切り替わります (LOW EQ の Q ノブはなくなります)。

⑩ HPF(ハイパスフィルター)

このボタンがオンのとき、LOW EQ がハイパスフィルターに切り替わります。LOW EQ の Q ノブはなくなり、GAIN ノブはハイパスフィルターのオン / オフ切り替えスイッチとして機能します。

⑪ TYPE I/TYPE II(EQ タイプ)

EQ のタイプとして TYPE I(従来のデジタルミキサーのアルゴリズム) または TYPE II(新開発のアルゴリズム) を選びます。

⑫ ATT(アッテネーション)

アッテネーション / ゲイン量を設定します。

❑ DYNAMICS1

タイプが COMPRESSOR、EXPANDER、COMPAND H、COMPAND S である点とキーインとして選択可能な信号の種類が異なる点を除けば、インプット系チャンネルのダイナミクス (→ P.29) と共通です。

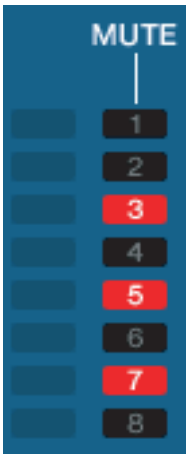
❑ INSERT

選択可能なインサートポイントが異なる点を除けば、インプット系チャンネルのインサート (→ P.32) と共通です。

❑ RECALL SAFE/MUTE SAFE

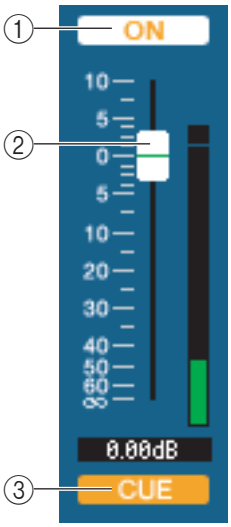
インプット系チャンネルのリコールセーフ / ミュートセーフと共通です。

❑ MUTE GROUP



MIX チャンネルが所属するミュートグループを 1 ～ 8 の中から選びます。

❑ パン / フェーダー



① ON

MIX チャンネルのオン / オフを切り替えます。

② フェーダー

MIX チャンネルの出力レベルを調節します。フェーダーの右側には信号レベルを表わすメーターがあり、現在の設定値はすぐ下の数値ボックスで確認できます。フェーダーノブを、コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると最小値 (−∞ dB) に、<Ctrl> キーと <Shift> キーを押しながらクリックするとノミナル値 (0.00dB) になります。

③ CUE

MIX チャンネルの信号をキューモニターするボタンです。

MATRIX チャンネルが選ばれている場合

❑ CHANNEL SELECT(チャンネル選択)

操作の対象が MATRIX チャンネルであることを除けば、MIX チャンネルのチャンネル選択と共通です (→ P.34)。

❑ FROM MIX、ST/MONO

① FROM MIX、ST/MONO センドレベル

VARI タイプの MIX バス、STEREO/MONO バスから MATRIX バスへ送られる信号のセンドレベルを調節します。現在の値はすぐ下の数値ボックスで確認できます。

- **PRE/POST**
  MIX バス、STEREO/MONO バスから MATRIX バスへ送られる信号の送出位置として、PRE または POST を選択します。オンのときは PRE POINT、オフのときは POST FADER になります。

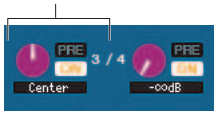
② ON(FROM MIX、ST/MONO センドオン / オフ)

MIX バス、STEREO/MONO バスから MATRIX バスへ送られる信号のオン / オフを切り替えます。

HINT

- *MIX バスと MATRIX バスがステレオとして使用された場合は、奇数側のノブが PAN となります。*

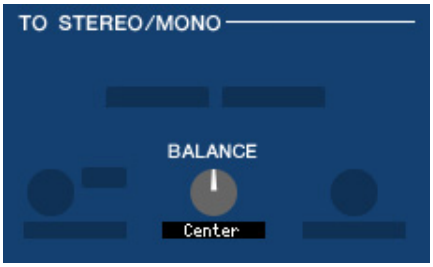
PAN(奇数側)



- *MIX バスに FIXED タイプが選択されていた場合は、ON ボタンのみ有効です。*

- *ステレオ / モノの設定や VARI タイプ /FIXED タイプの設定は、Mixer Setup 画面で行ないます。*

❑ BALANCE



選択された MATRIX バスがステレオとして使用された場合のみ表示されます。ステレオの左右音量のバランスを調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると Center 位置になります。

❑ EQUALIZER

MIX チャンネルのイコライザー(→ P.36) と共通です。

❑ DYNAMICS1

タイプが COMPRESSOR、EXPANDER、COMPAND H、COMPAND S である点とキーインとして選択可能な信号の種類が異なる点を除けば、インプット系チャンネルのダイナミクス (→ P.28) と共通です。

❑ INSERT

選択可能なインサートポイントが異なる点を除けば、インプット系チャンネルのインサート (→ P.32) と共通です。

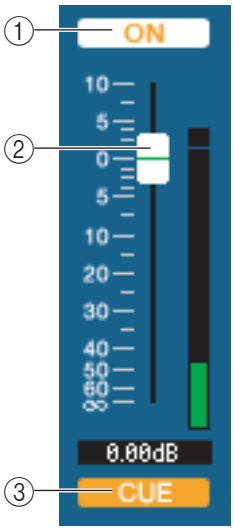
❑ RECALL SAFE/MUTE SAFE

MIX チャンネルの RECALL SAFE/MUTE SAFE と共通です (→ P.37)。

❑ MUTE GROUP

MIX チャンネルの MUTE GROUP と共通です (→ P.37)。

❑ フェーダー



① ON

MATRIX チャンネルのオン / オフを切り替えます。

② フェーダー

MATRIX チャンネルの出力レベルを調節します。フェーダーの右側には信号レベルを表わすメーターがあり、現在の設定値はすぐ下の数値ボックスで確認できます。フェーダーノブを、コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると最小値 (−∞ dB) に、<Ctrl> キーと <Shift> キーを押しながらクリックするとノミナル値 (0.00dB) になります。

③ CUE

MATRIX チャンネルの信号をキューモニターするボタンです。

STEREO/MONO チャンネルが選ばれている場合

● **STEREO チャンネルのウィンドウ**

● **MONO チャンネルのウィンドウ**

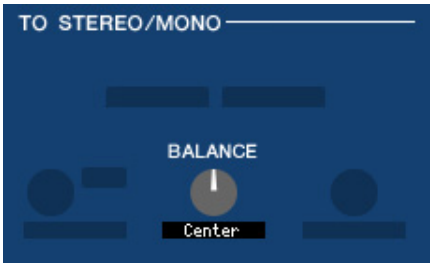
❑ CHANNEL SELECT(チャンネル選択)

操作の対象が STEREO/MONO チャンネルであることを除けば、MIX チャンネルのチャンネル選択と共通です (→ P.34)。

❑ TO MATRIX

MIX チャンネルの TO MATRIX と共通です (→ P.34)。

❑ BALANCE(MONO チャンネルは除く)



STEREO バスの左右音量のバランスを調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キーを押しながらクリックすると Center 位置になります。

❑ EQUALIZER

MIX チャンネルのイコライザー(→ P.36) と共通です。

❑ DYNAMICS1

タイプが COMPRESSOR、EXPANDER、COMPAND H、COMPAND S である点とキーインとして選択可能な信号の種類が異なる点を除けば、インプット系チャンネルのダイナミクス (→ P.28) と共通です。

❑ INSERT

選択可能なインサートポイントが異なる点を除けば、インプット系チャンネルのインサート (→ P.32) と共通です。

❑ RECALL SAFE/MUTE SAFE

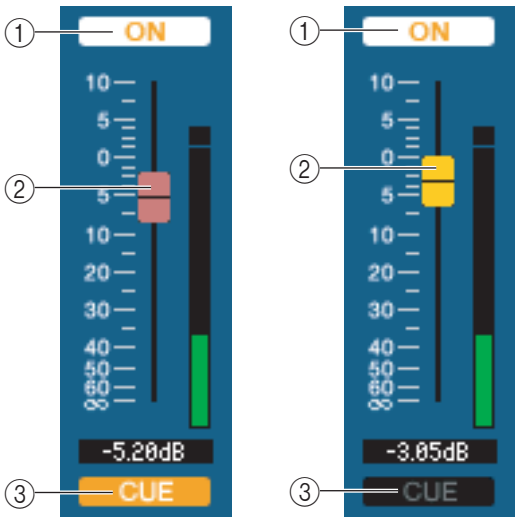
MIX チャンネルの RECALL SAFE/MUTE SAFE と共通です (→ P.37)。

❑ MUTE GROUP

MIX チャンネルの MUTE GROUP と共通です (→ P.37)。

❑ フェーダー

・ STEREO　　・ MONO



① ON

STEREO/MONO チャンネルのオン / オフを切り替えます。M7CL 本体のパネル上にある STEREO/MONO MASTER セクションの [ON] キーと連動しています。

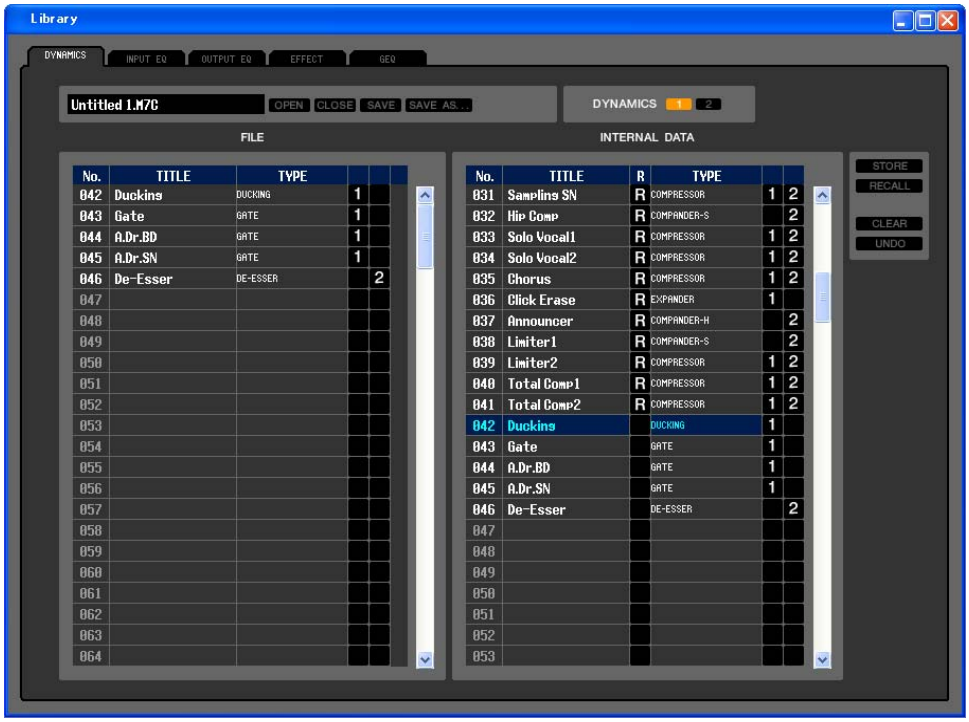
② フェーダー

STEREO/MONO チャンネルの出力レベルを調節します。M7CL 本体のパネル上にある STEREO/MONO MASTER セクションのフェーダーと連動しています。フェーダーの右側には信号レベルを表わすメーターがあり、現在の設定値はすぐ下の数値ボックスで確認できます。

③ CUE

STEREO/MONO チャンネルの信号をキューモニターするボタンです。M7CL 本体のパネル上にある STEREO/MONO MASTER セクションの [CUE] キーと連動しています。

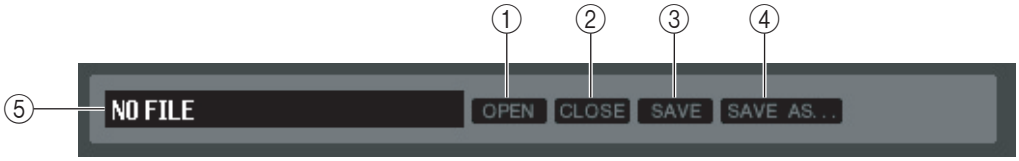
Library ウィンドウ



M7CL 本体の各種ライブラリーを編集します。また、コンピューターのドライブに保存されたライブラリーのファイルを読み込み、並び順やタイトルなどを変更したり、任意のライブラリーデータをリコールしたり、任意のライブラリーデータを M7CL 本体のライブラリーにコピーしたりできます。

このウィンドウは、DYNAMICS、INPUT EQ、OUTPUT EQ、EFFECT、GEQ の各ページに分かれており、ページを切り替えるには、ウィンドウ上部のタブをクリックします。

このウィンドウを表示するには [Windows] メニューから [LIBRARY] を選択して“DYNAMICS”、“INPUT EQ”、“OUTPUT EQ”、“EFFECT”、“GEQ”のいずれかを選択します。



① OPEN(ファイルを開く)

コンピューターのドライブ上にあるライブラリーのファイルを開きます。USB 記録装置に保存されたライブラリーデータを編集したいときなどに利用します。

② CLOSE(ファイルを閉じる)

現在開かれているライブラリーのファイルを閉じます。

③ SAVE(保存)

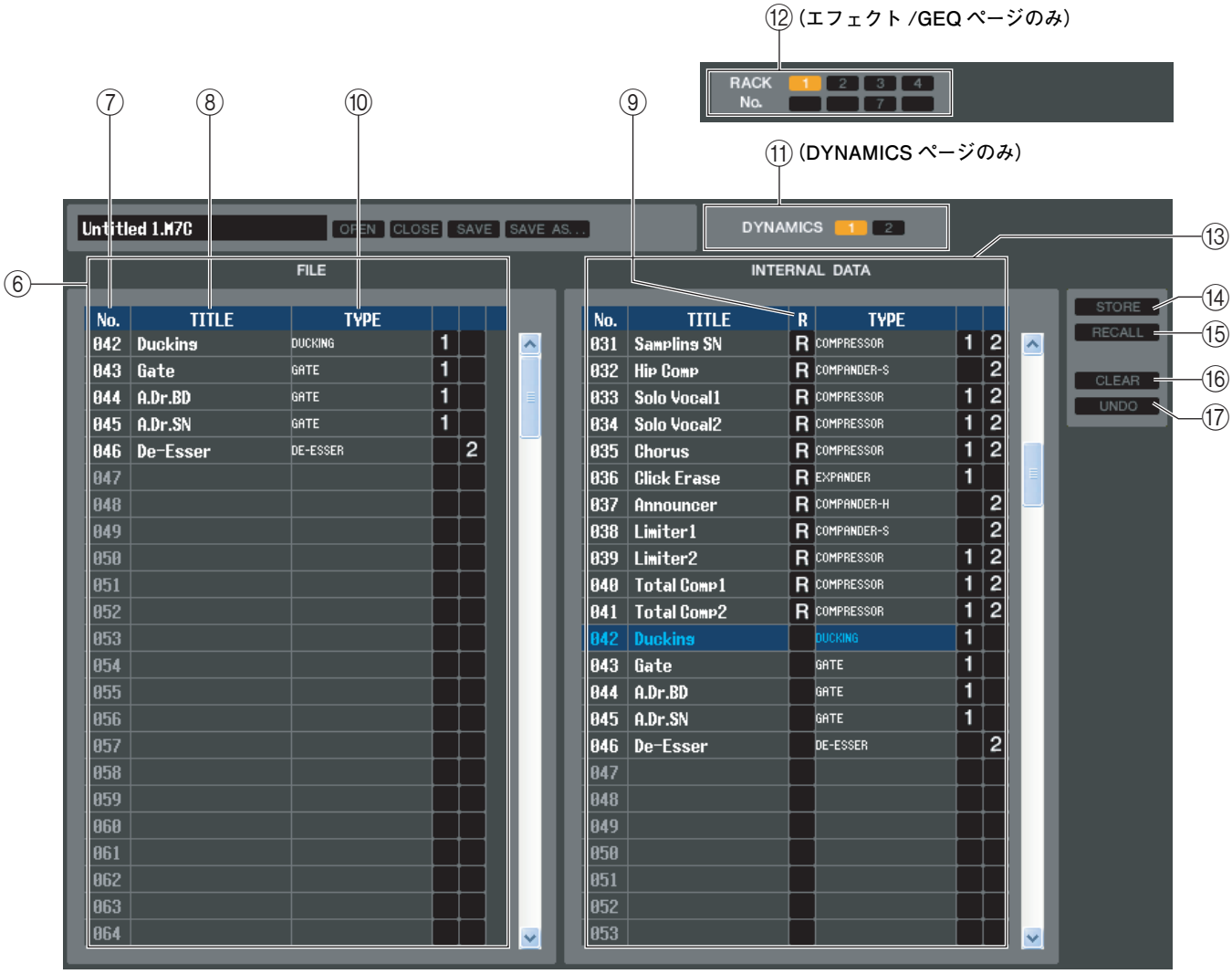
現在開かれているライブラリーのファイルをコンピューターのドライブに保存します。編集したライブラリーを USB 記録装置に保存し直したり、コンピューターのハードディスク上にバックアップを作るときに利用します。

④ SAVE AS(名前を変えて保存)

現在開かれているライブラリーのファイル名を変えて、コンピューターのドライブに保存します。

⑤ ファイル名

現在開かれているライブラリーのファイル名を表示します。



⑥ FILE

OPEN ボタン (①) を使って開いたライブラリーのファイルに含まれるデータの内容を表示するリストです。リストに含まれる項目は、次のとおりです。

⑦ No.(番号)

ライブラリーに含まれるデータの番号です。

⑧ TITLE

ライブラリーのデータに付けられたタイトルです。この部分をダブルクリックして、タイトルを編集することもできます。

⑨ READ ONLY

読み込み専用のデータはこの欄に "R" と表示され、上書き保存やタイトルの変更ができません。

⑩ TYPE

エフェクトのタイプを表示します。

ダイナミクスの場合は、そのチャンネルでリコール可能なダイナミクス系列も表示します。"1" と表示されているもののみ DYNAMICS1 でリコールでき、"2" と表示されているもののみ DYNAMICS2 でリコールできます。どちらも表示されていないデータは、そのチャンネルではリコールできません。

⑪ DYNAMICS(DYNAMICS ページのみ)

2 系統あるダイナミクスのどちらをストア / リコールの対象とするか選択します。

⑫ RACK No.(ラック選択)(エフェクト /GEQ ページのみ)

どのラックをストア / リコールの対象とするか選択します。

NOTE *HQ Pitch、Freeze は Rack6、Rack8 にマウントされたエフェクトモジュールへはリコールできません*

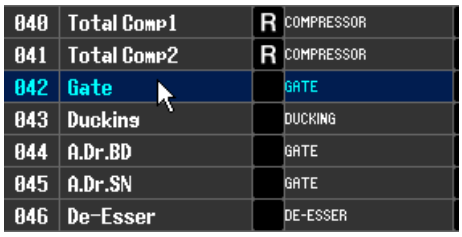
⑬ INTERNAL DATA

M7CL 本体のライブラリーの内容を表示します。表示される項目は、FILE リスト (⑥) と共通です。

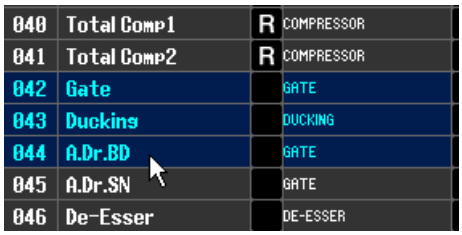
必要に応じて、単一のデータまたは複数のデータを、FILE リストと INTERNAL DATA リストとの間で相互にコピーしたり、同一リスト内で別の位置にコピーまたは移動したりできます。

これを行なうには、まず以下の方法でコピー元 / 移動元となるシーンを選択します。

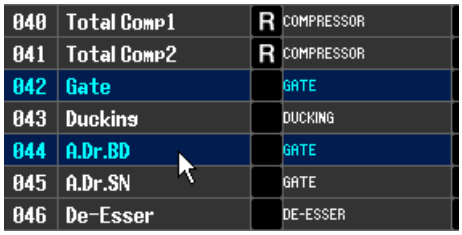
- **単一のシーンを選ぶには**
  任意のシーンの列をクリックします。



- **番号の連続した複数のシーンを選ぶには**
  最初のシーンをクリックして選び、<Shift> キーを押しながら最後のシーンをクリックします。

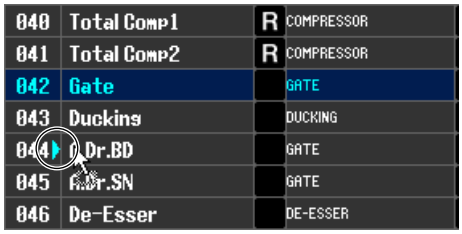


- **番号の離れた複数のシーンを選ぶには**
  最初のシーンをクリックし、<Ctrl> キーを押しながら残りのシーンをクリックします。

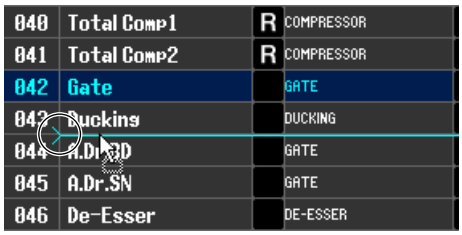


コピー元 / 移動元が選択できたら、もう一方のリストの任意の位置 (異なるリスト間で相互にコピーする場合)、または同一リスト内の別の位置 (同じリスト内でコピー/ 移動する場合) にドラッグします。

- **シーンを上書きコピーするには**
  コピー元をもう一方のリストの任意の行、または同一リスト内で別の行の上にドラッグします。このとき、シーン番号の右側に ▶ のマークが表示されます。
  この状態でドロップすると、保存を確認するダイアログが現われます。OK ボタンをクリックすると、コピー元のシーンがコピー先に上書きされ、コピー元はそのまま残ります (コピー元に複数のシーンが含まれる場合、そのシーンを開始位置として番号の連続したシーンに上書きされます)。



- **シーンを移動するには**
  同じリスト内であれば、選択したシーンを別の位置に移動させ、リスト内のシーンを並び替えることができます。これを行なうには、選択した移動元を同じリスト内で任意の行間にドラッグします。このとき、行間に ≻── のマークが表示されます。
  この状態でマウスから手を放すと、選択したシーンがその位置に移動し、シーン番号も変更になります (移動元に複数のシーンが含まれる場合は、その位置に連続したシーンが挿入されます)。



NOTE *GEQ ライブラリの InitialData はコピーできません。*

⑭ STORE
リスト内の選択したデータに現在の設定を保存します。

⑮ RECALL
リスト内の選択したデータをリコールします。

⑯ CLEAR
リスト内で選択した単一データ、または複数のデータを消去します (消去されたデータは、タイトルが [No Data!] に戻ります)。

⑰ UNDO
最後に行なったライブラリーのリコール、ストア、コピー、移動操作を取り消します。
何度もクリックすると、UNDO と REDO を繰り返します。

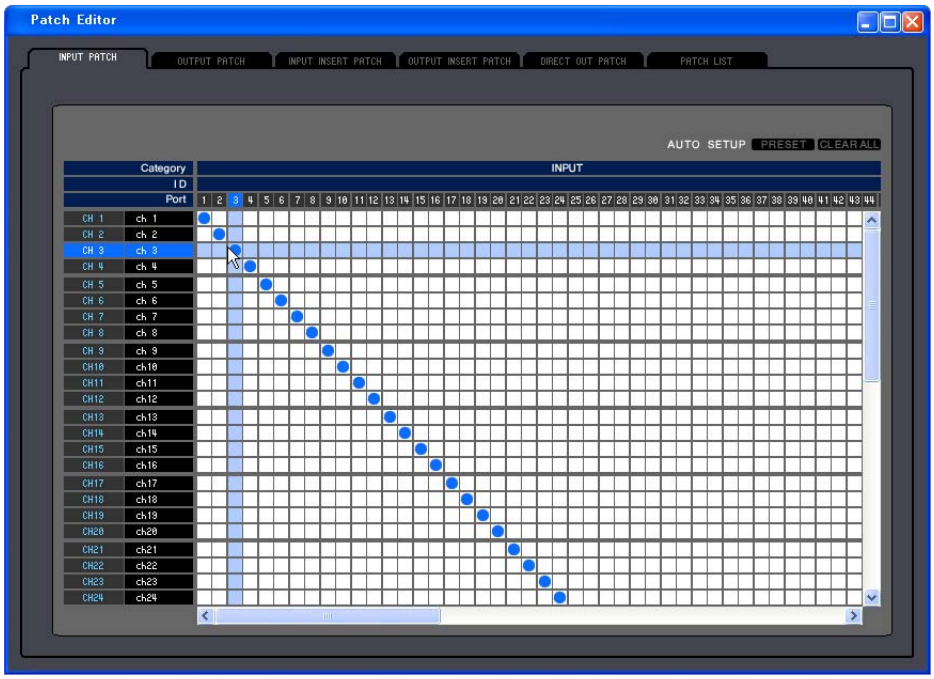
Patch Editor ウィンドウ

各チャンネルの入出力、およびダイレクトアウトやインサートイン / アウトに入出力ポートを割り当てます。

このウィンドウは、INPUT PATCH、OUTPUT PATCH、INPUT INSERT PATCH、OUTPUT INSERT PATCH、DIRECT OUT PATCH、PATCH LIST の各ページに分かれています。ページを切り替えるには、ウィンドウ上部のタブをクリックします。

このウィンドウを表示するには [Windows] メニューから [PATCH Editor] を選択して“INPUT PATCH”、“OUTPUT PATCH”、“INPUT INSERT PATCH”、“OUTPUT INSERT PATCH”、“DIRECT OUT PATCH”、“PATCH LIST”のいずれかを選択します。

INPUT PATCH ページ



インプット系チャンネルの入力に割り当てる入力ポートを選択します。

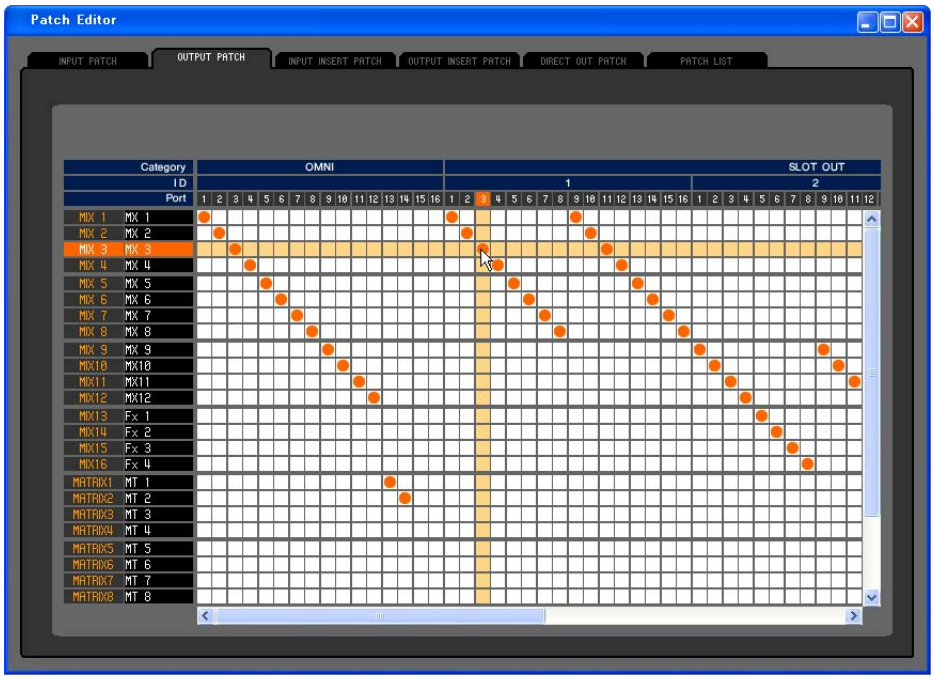
❑ PRESET

このページのパッチが初期設定になります。

❑ CLEAR ALL

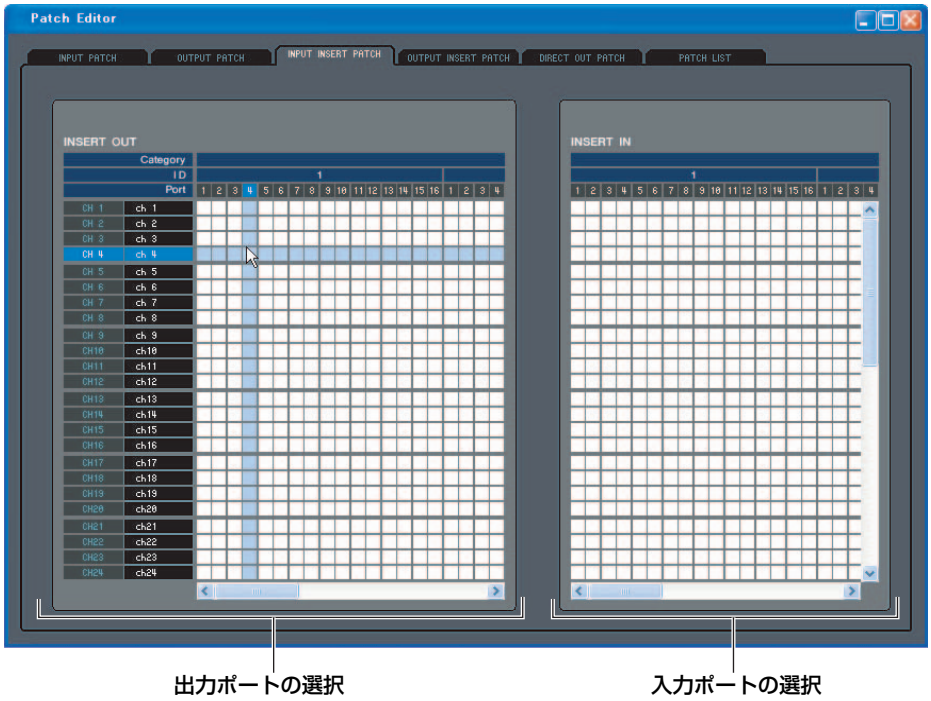
このページのパッチをすべてクリアします。

OUTPUT PATCH ページ



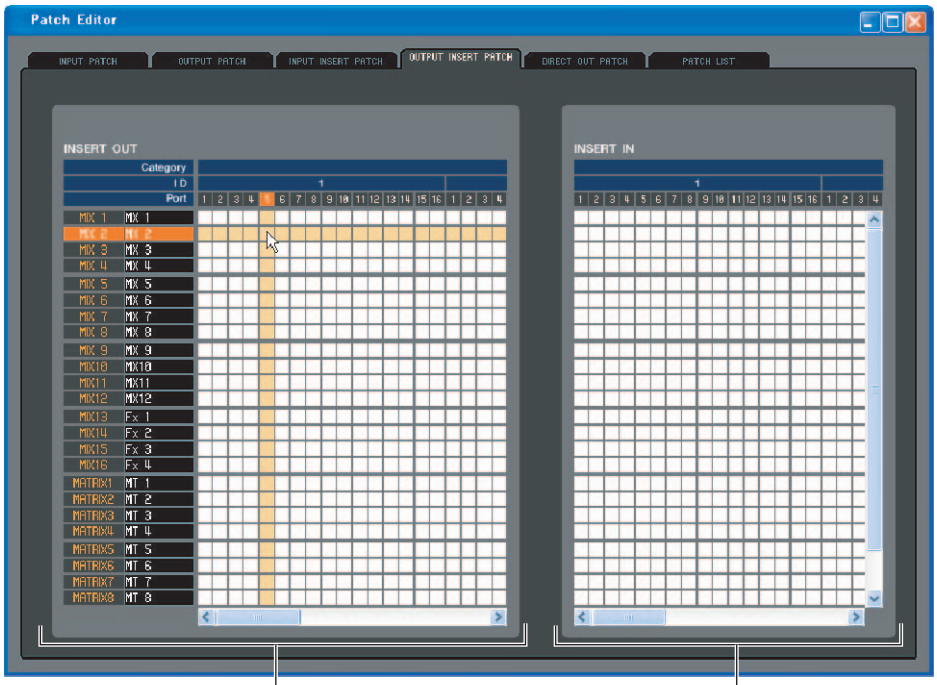
アウトプット系チャンネルの出力に割り当てる出力ポートを選択します。

INPUT INSERT PATCH ページ



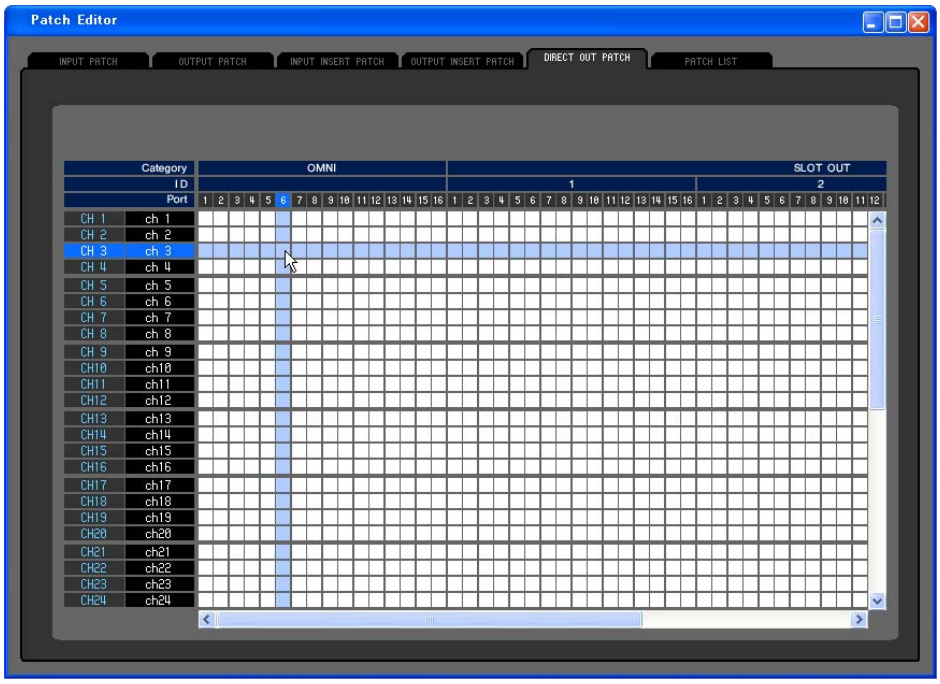
インプット系チャンネルのインサートイン / アウトに入出力ポートを割り当てます。画面左側では出力ポート、画面右側で入力ポートを選択します。

OUTPUT INSERT PATCH ページ



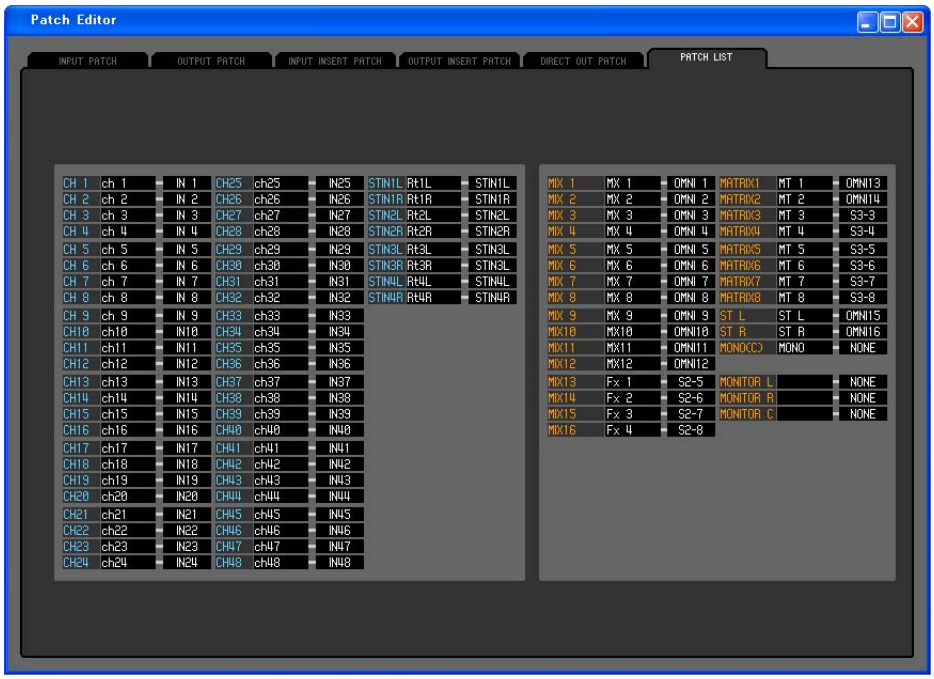
アウトプット系チャンネルのインサートイン / アウトに入出力ポートを割り当てます。画面左側では出力ポート、画面右側で入力ポートを選択します。

DIRECT OUTPUT PATCH ページ

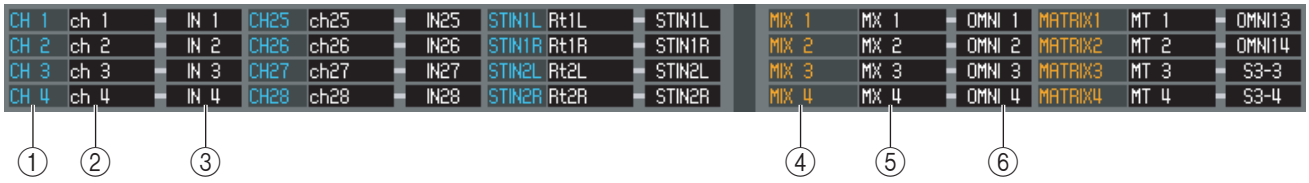


インプット系チャンネルをダイレクト出力する出力ポートを選択します。

PATCH LIST ページ



インプットパッチ / アウトプットパッチの一括表示 / 設定変更を行ないます。



① インプット系チャンネル番号

② インプット系チャンネル名

インプット系チャンネルの番号と名前です。チャンネル名のボックスをクリックすれば、このページで名前を変更することもできます。

③ 入力ポート

インプット系チャンネルに割り当てられている入力ポートを表示します。このボックスをクリックし、表示されるポップアップメニューから入力ポートを指定することもできます。

④ アウトプット系チャンネル番号

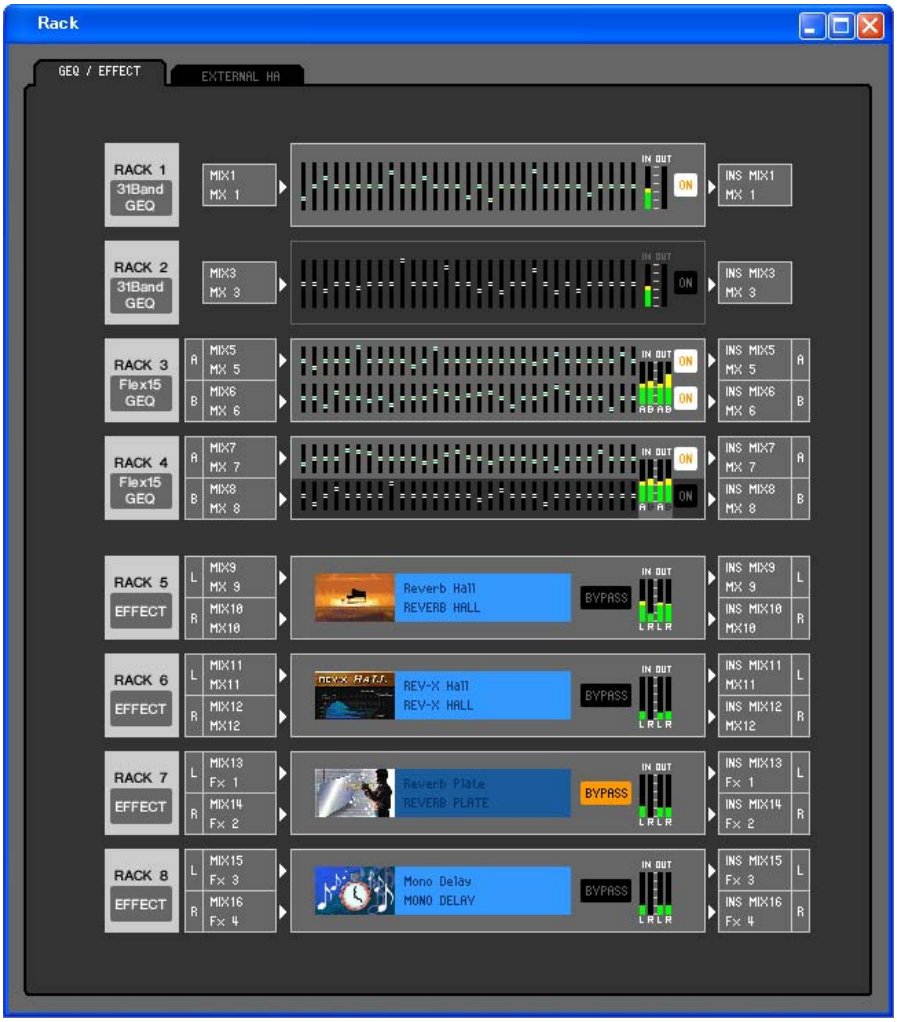
⑤ アウトプット系チャンネル名

アウトプット系チャンネルの番号と名前です。チャンネル名のボックスをクリックすれば、このページで名前を変更することもできます。

⑥ 出力ポート

アウトプット系チャンネルに割り当てられている出力ポートを表示します。このボックスをクリックし、表示されるポップアップメニューから出力ポートを指定することもできます。

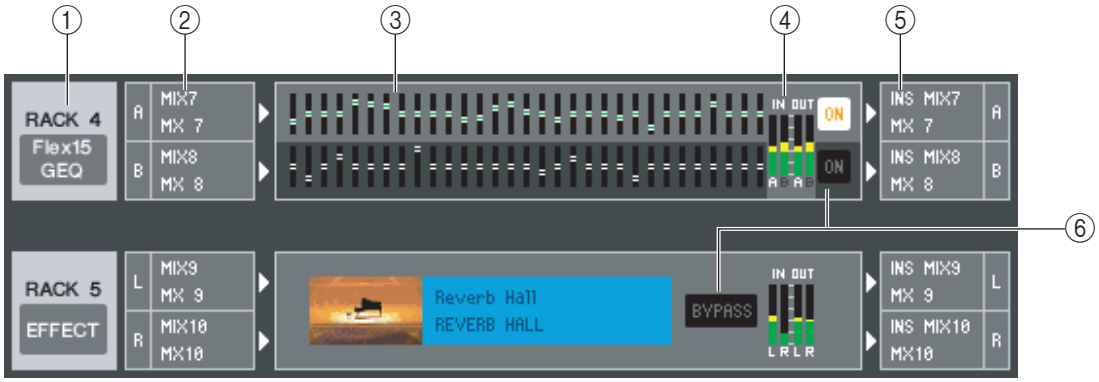
Rack ウィンドウ



GEQ やエフェクト、外部ヘッドアンプの設定を行ないます。

このウィンドウは、GEQ/EFFECT ページと EXTERNAL HA ページに分かれており、ページを切り替えるにはウィンドウ上部のタブをクリックします。

GEQ/EFFECT ページ



① マウント

ラックにマウントする GEQ モジュールやエフェクトモジュールを次の中から選択します。

BLANK	割り当てなし
31 Band GEQ	31 バンド 1IN/1OUT のグラフィックイコライザー
Flex15GEQ	31 バンド中任意の 15 バンドが操作可能な 2IN/2OUT のグラフィックイコライザー
EFFECT	内蔵エフェクト (RACK5 ～ 8 の場合のみ)

② インプットパッチ

ラックに割り当てる入力ポートを次の中から選択します。

NONE	割り当てなし
MIX 1 ～ 16	MIX チャンネル 1 ～ 16
MATRIX1 ～ 8	MATRIX チャンネル 1 ～ 8
ST L、ST R、MONO(C)	STEREO チャンネル L/R、MONO チャンネル
INS CH 1 ～ 48(*)	INPUT CH 1 ～ 48(*) のインサートイン
INS MIX 1 ～ 16	MIX チャンネル 1 ～ 16 のインサートイン
INS MATRIX1 ～ 8	MATRIX チャンネル 1 ～ 8 のインサートイン
INS ST L、INS ST R、INS MONO(C)	STEREO チャンネル L/R、MONO チャンネルの各インサートイン

(*) INPUT INSERT33 ～ 48 は、オフライン編集で Mixer Setup の Input Channels で 48 を選択しているときか、M7CL-48 とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

ラックに何もマウントされてないときは表示されません。

③ モジュールイメージ

ラックに割り当てられている GEQ モジュールやエフェクトモジュールのイメージとパラメーターを表示します。この画面でのパラメーター編集はできません。

ダブルクリックすると、そのラックのモジュールエディターが表示されます

コンピューターキーボード上の <Ctrl> キーを押しながらダブルクリックすると、追加のラックモジュールエディターを複数開けます。この追加のエディターでは、ラックの選択ボタンが M7CL 本体の RACK のポップアップウィンドウと連動しません。

④ インプットメーター/ アウトプットメーター

ラックに入出力される信号のレベルを表示します。

⑤ アウトプットパッチ

ラックに割り当てる出力ポートを次の中から選択します。

NONE	割り当てなし
CH 1 ～ 48(*)	INPUT CH 1 ～ 48(*)
STIN1L ～ STIN4R	ST IN チャンネル 1 ～ 4 の L/R チャンネル
INS CH 1 ～ 48(*)	INPUT CH 1 ～ 48(*) のインサートアウト
INS MIX 1 ～ 16	MIX チャンネル 1 ～ 16 のインサートアウト
INS MTRX1 ～ INS MTRX8	MATRIX チャンネル 1 ～ 8 のインサートアウト
INS ST L、INS ST R、INS MONO(C)	STEREO チャンネル L/R、MONO チャンネルの各インサートアウト

(*) INPUT INSERT33 ～ 48 は、オフライン編集で Mixer Setup の Input Channels で 48 を選択しているときか、M7CL-48 とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

⑥ ON、BYPASS

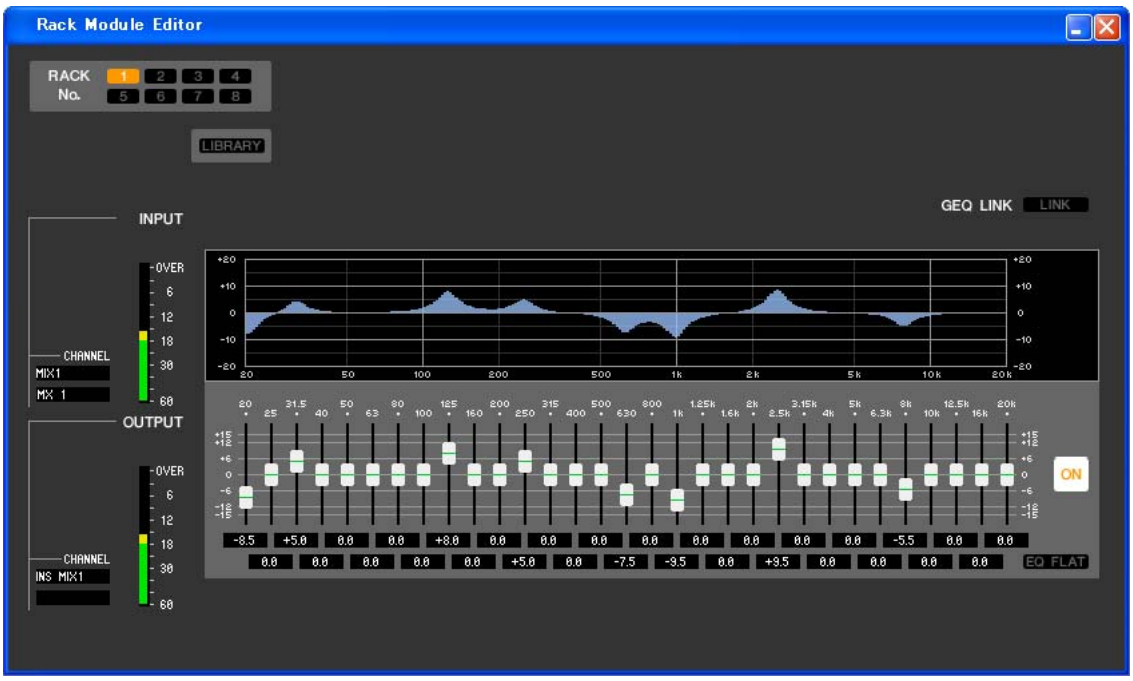
GEQ モジュールやエフェクトモジュールの有効 / 無効を切り替えます。

GEQ モジュールは ON ボタン点灯時に有効です。

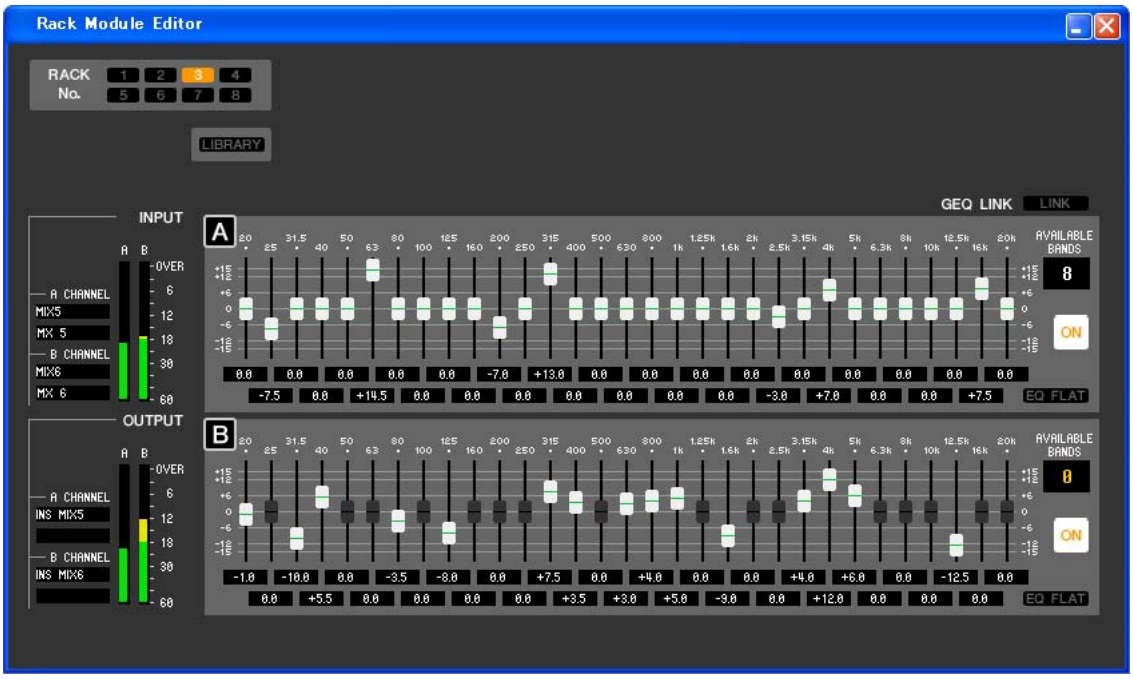
エフェクトモジュールは BYPASS ボタン消灯時に有効です。

ラックモジュールエディターGEQ 画面

● **31 Band GEQ**



● **Flex15GEQ**



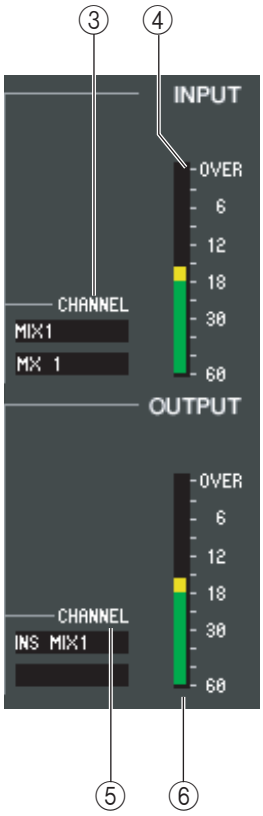
GEQ の挿入先の選択や、各種パラメーターの設定を行ないます。

① RACK No.(ラック選択)

操作の対象となるラックを選びます。

② LIBRARY

GEQ ライブラリーを呼び出すためのボタンです。このボタンをクリックすると、LIBRARY ウィンドウの GEQ ページが開きます。



③インプットパッチ

CHANNEL 欄をクリックし、現在選ばれている GEQ モジュールの入力チャンネルにパッチする信号経路を、次の中から選択します。

NONE	割り当てなし
MIX 1 ～ 16	MIX チャンネル 1 ～ 16
MATRIX1 ～ 8	MATRIX チャンネル 1 ～ 8
ST L、ST R、MONO(C)	STEREO チャンネル L/R、MONO チャンネル
INS CH 1 ～ 48(*)	INPUT CH 1 ～ 48(*) のインサートイン
INS MIX 1 ～ 16	MIX チャンネル 1 ～ 16 のインサートイン
INS MATRIX1 ～ 8	MATRIX チャンネル 1 ～ 8 のインサートイン
INS ST L、INS ST R、INS MONO(C)	STEREO チャンネル L/R、MONO チャンネルの各インサートイン

(*) INPUT INSERT33 ～ 48 は、オフライン編集で Mixer Setup の Input Channels で 48 を選択しているときか、M7CL-48 とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

すぐ下のボックスにはチャンネルの名前が表示されます。

④インプットメーター

現在選ばれている GEQ モジュールに入力されている信号のレベルを表示します。

⑤アウトプットパッチ

CHANNEL 欄をクリックし、現在選ばれている GEQ モジュールの出力チャンネルにパッチする信号経路を、次の中から選択します。

NONE	割り当てなし
CH 1 ～ 48(*)	INPUT CH 1 ～ 48(*)
STIN1L ～ STIN4R	ST IN チャンネル 1 ～ 4 の L/R チャンネル
INS CH 1 ～ 48(*)	INPUT CH 1 ～ 48(*) のインサートアウト
INS MIX 1 ～ 16	MIX チャンネル 1 ～ 16 のインサートアウト
INS MATRIX1 ～ 8	MATRIX チャンネル 1 ～ 8 のインサートアウト
INS ST L、INS ST R、INS MONO(C)	STEREO チャンネル L/R、MONO チャンネルの各インサートアウト

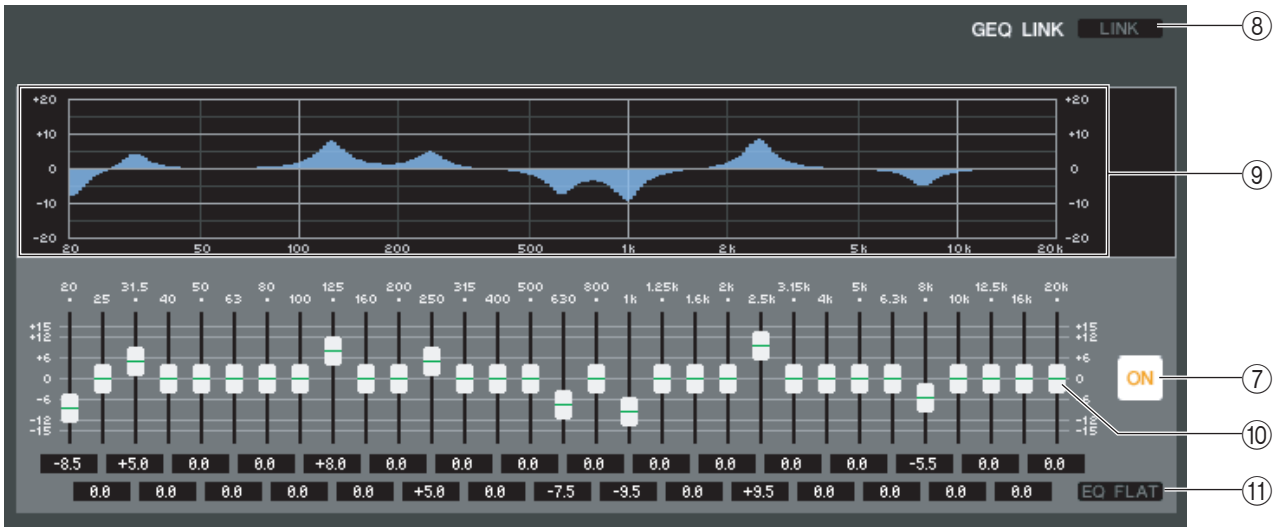
(*) INPUT INSERT33 ～ 48 は、オフライン編集で Mixer Setup の Input Channels で 48 を選択しているときか、M7CL-48 とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

すぐ下のボックスにはチャンネルの名前が表示されます。

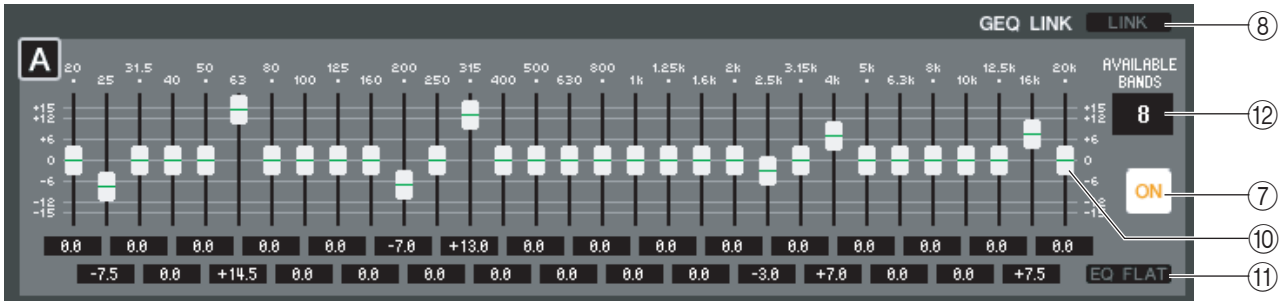
⑥アウトプットメーター

現在選ばれている GEQ モジュールに出力されている信号のレベルを表示します。

● **31 Band GEQ**



● **Flex15GEQ**



⑦ ON(GEQ オン / オフ)

現在選ばれている GEQ モジュールのオン / オフを切り替えます。

⑧ LINK

奇数 / 偶数番号の順で隣り合った2つの 31 Band GEQ モジュールの設定や、Flex15GEQ の A グループと B グループの設定を連動させるボタンです。このボタンをクリックすると、動作を確認するウィンドウが表示されます。パラメーターのコピー元 / コピー先になるモジュールに該当するボタンをクリックします。RESET BOTH ボタンをクリックすると、両方のモジュールのパラメーターが初期値にリセットされます。

⑨ GEQ グラフ

現在選ばれている GEQ モジュールの特性を表示するグラフです。

⑩ GEQ フェーダー

GEQ モジュールの各帯域をブースト / カットするフェーダーです。各フェーダーの設定値は、下の数値ボックスで確認できます。<Ctrl> キーを押しながらクリックすると 0.00dB になります。

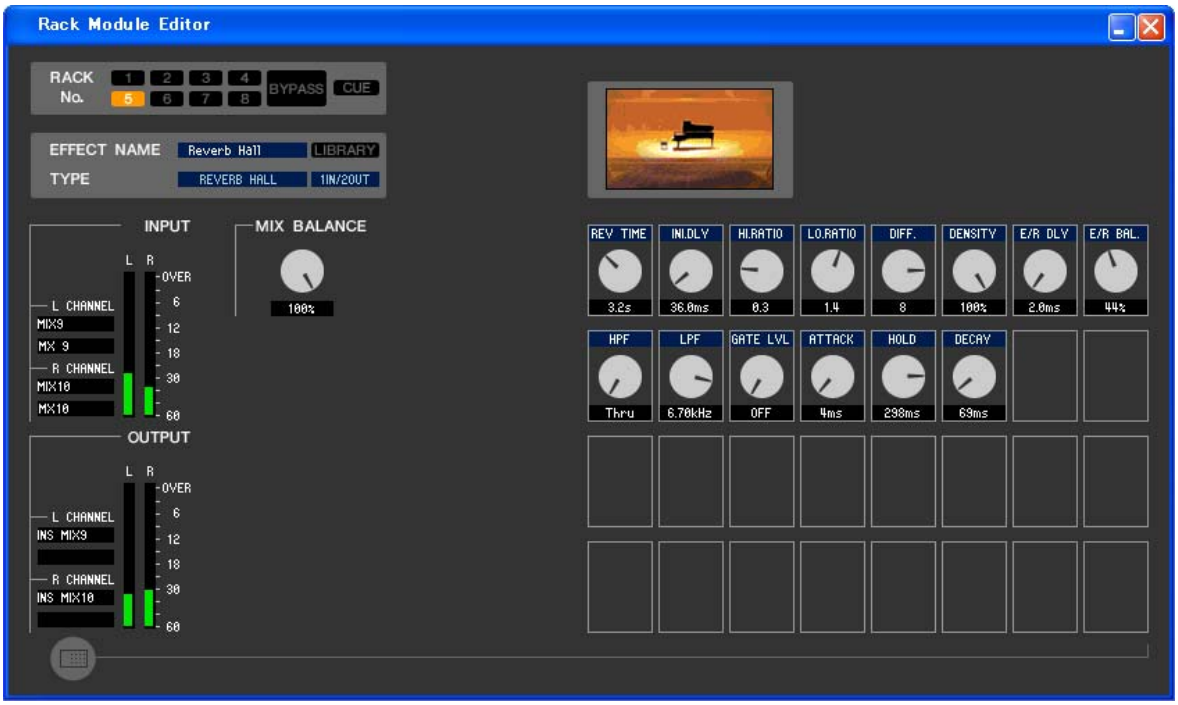
⑪ EQ FLAT

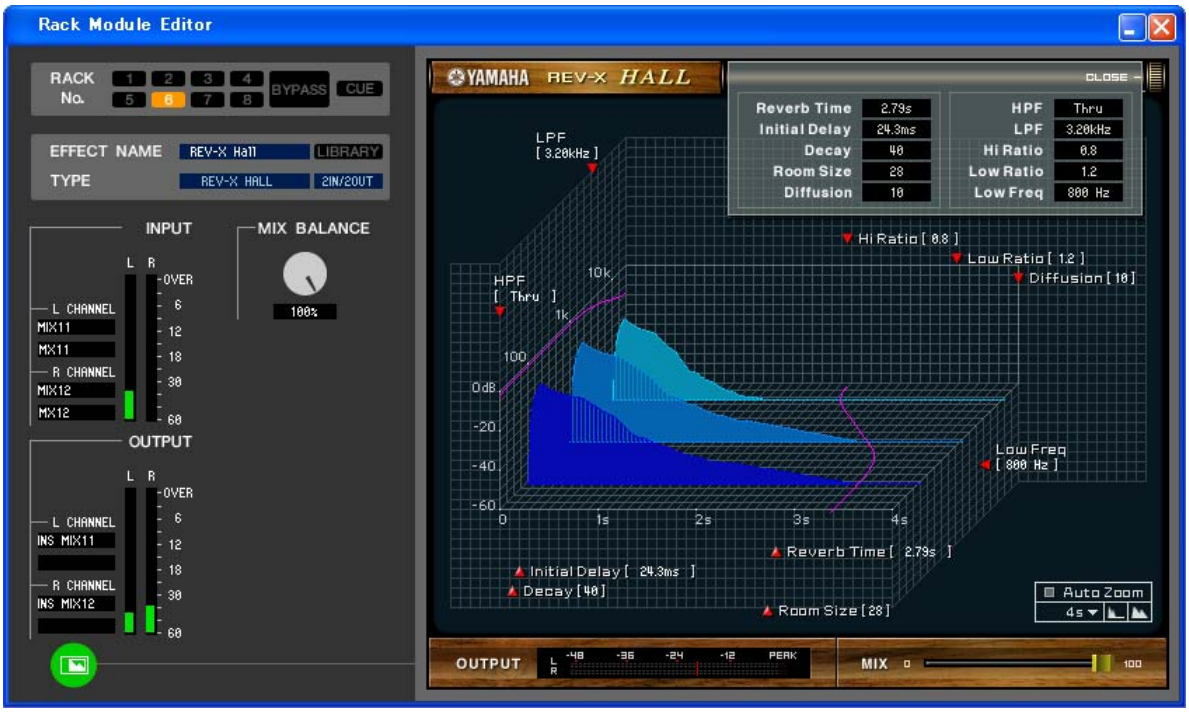
すべての GEQ フェーダーを 0dB の位置にリセットするボタンです。

⑫ AVAILABLE BANDS(操作可能バンド数)(Flex15GEQ のみ)

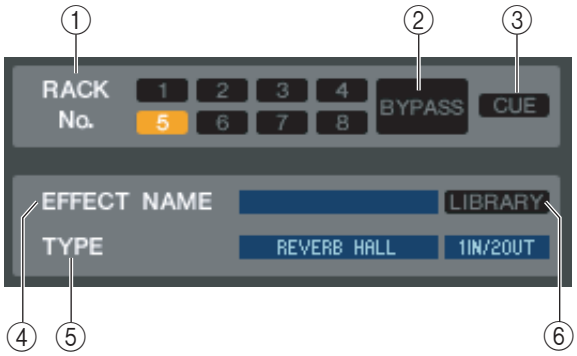
Flex15GEQ で操作できる帯域は、31 バンドのうちの任意の 15 バンドです。この数値表示ボックスには、操作可能なバンドの残数が表示されています。15 バンド操作するとこの数字はゼロになり、それ以上新たなバンドを操作することはできません。この状態から他の帯域を操作するには、操作済みのバンドを 0dB に戻してから操作してください。

ラックモジュールエディターエフェクト画面





内蔵エフェクトのエフェクトタイプ選択、パラメーターの変更、入出力のパッチングを行ないます。



① RACK No.(ラック選択)

操作の対象となるラックを選びます。

② BYPASS

エフェクトを一時的にバイパス状態にするボタンです。

③ CUE

現在選ばれているエフェクトの出力をキューモニターするボタンです。

④ EFFECT NAME(エフェクト名)

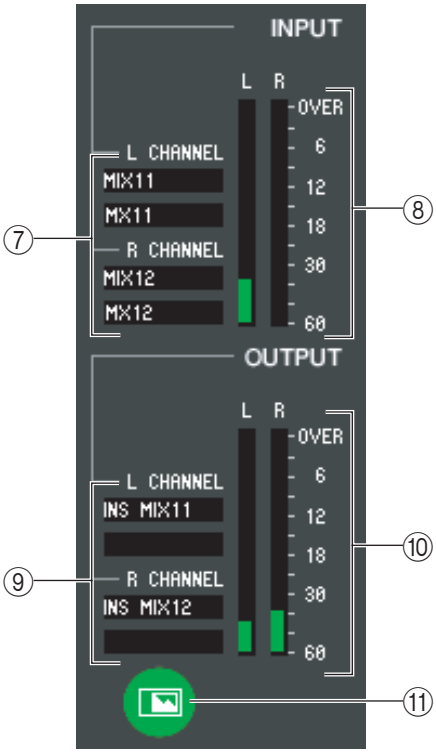
現在選ばれているエフェクトのタイトルを表示します。

⑤ EFFECT TYPE

現在選ばれているエフェクトタイプを表示します。また、このウィンドウでエフェクトタイプを切り替えることもできます。これを行なうには、テキストボックスをクリックして表示されるポップアップメニューから、新しいエフェクトタイプを選択します。

⑥ LIBRARY

エフェクトライブラリーを呼び出すためのボタンです。このボタンをクリックすると、LIBRARY ウィンドウの EFFECT ページが開きます。



⑦ インプットパッチ

L CHANNEL、R CHANNEL 欄をクリックし、内蔵エフェクトの入力チャンネル L/R にパッチする信号経路を次の中から選択します。

NONE	割り当てなし
MIX 1 ～ 16	MIX チャンネル 1 ～ 16
MATRIX1 ～ 8	MATRIX チャンネル 1 ～ 8
ST L、ST R、MONO(C)	STEREO チャンネル L/R、MONO チャンネル
INS CH 1 ～ 48(*)	INPUT チャンネル 1 ～ 48(*) のインサートイン
INS MIX 1 ～ 16	MIX チャンネル 1 ～ 16 のインサートイン
INS MATRIX1 ～ 8	MATRIX チャンネル 1 ～ 8 のインサートイン
INS ST L、INS ST R、INS MONO(C)	STEREO チャンネル L/R、MONO チャンネルの各インサートイン

(*) INPUT INSERT33 ～ 48 は、オフライン編集で Mixer Setup の Input Channels で 48 を選択しているときか、M7CL-48 とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

すぐ下のボックスにはチャンネルの名前が表示されます。

⑧ インプットメーター

内蔵エフェクトに入力されている信号のレベルを表示します。

⑨ アウトプットパッチ

L CHANNEL、R CHANNEL 欄をクリックし、内蔵エフェクトの出力チャンネル L/R にパッチする信号経路を次の中から選択します。

NONE	割り当てなし
CH 1 ～ 48	INPUT CH 1 ～ 48(*)
STIN1L ～ STIN4R	ST IN チャンネル 1 ～ 4 の L/R チャンネル
INS CH 1 ～ 48(*)	INPUT CH 1 ～ 48(*) のインサートアウト
INS MIX 1 ～ 16	MIX チャンネル 1 ～ 16 のインサートアウト
INS MATRIX1 ～ 8	MATRIX チャンネル 1 ～ 8 のインサートアウト
INS ST L、INS ST R、INS MONO(C)	STEREO チャンネル L/R、MONO チャンネルの各インサートアウト

(*) INPUT INSERT33 ～ 48 は、オフライン編集で Mixer Setup の Input Channels で 48 を選択しているときか、M7CL-48 とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

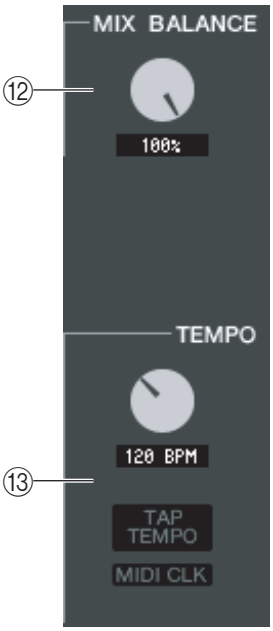
すぐ下のボックスにはチャンネルの名前が表示されます。

⑩ アウトプットメーター

内蔵エフェクトから出力されている信号のレベルを表示します。

⑪ パラメーター表示切り替えボタン

エフェクトタイプとして“046 REV-X Hall”、“047 REV-X ROOM”、“048 REV-X PLATE”のいずれかが選ばれているときに、一般的なパラメーター画面と専用の GUI 画面を切り替えます。



⑫ MIX BALANCE

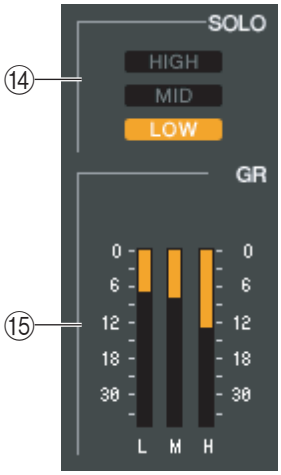
原音に対するエフェクト音のバランスを調節します。0(%) で原音のみ、100(%) でエフェクト音のみが出力されます。

⑬ TEMPO

ディレイ系または変調系エフェクトタイプが選ばれているときに、DELAY(ディレイタイム) パラメーターや、FREQ.(変調速度) パラメーターなど時間関連のパラメーターを調節します。

TEMPO パラメーターの値を設定するには、数値ボックスに BPM(1 分間あたりの拍数) の値を入力するか、TAP TEMPO ボタンを希望するテンポに合わせて連続してクリックします。

また、MIDI CLK ボタンがオンのときは、MIDI ポートから入力されている MIDI タイミングクロックに TEMPO パラメーターの値が同期します。

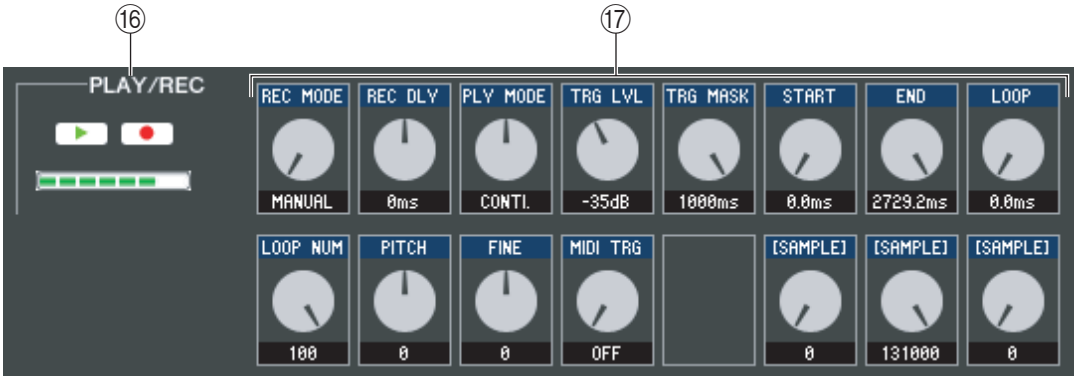


⑭ SOLO

エフェクトタイプとして“044 M.BAND DYNA”または“045 M.BAND COMP”が選ばれているときに、HIGH、MID、LOW の 3 バンドの中から特定のバンドのみをモニターするためのボタンです。

⑮ GR メーター

エフェクトタイプとして“044 M.BAND DYNA”または“045 M.BAND COMP”が選ばれているときに、H(HIGH)、M(MID)、L(LOW) のバンドごとのゲインリダクション量を表示します。



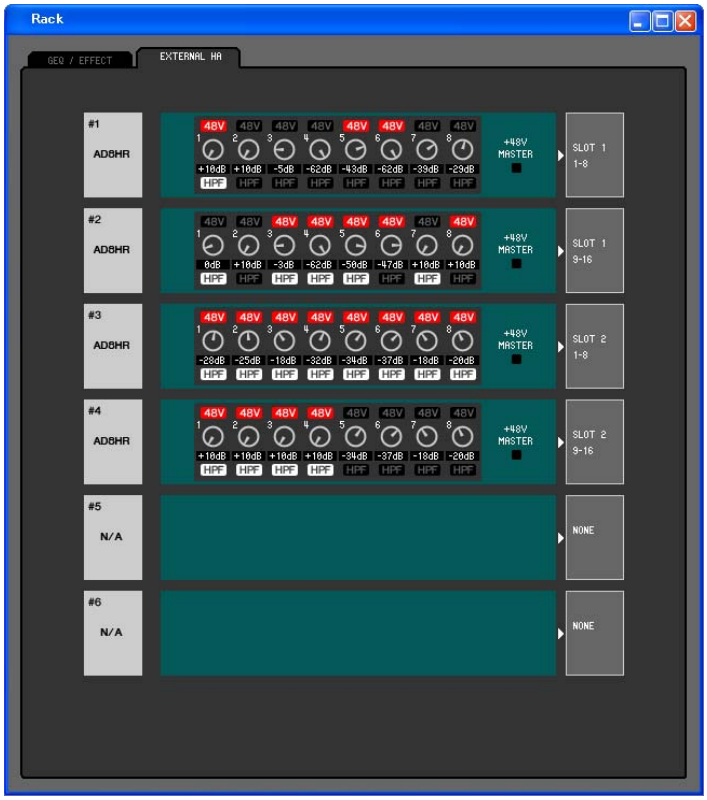
⑯ PLAY/REC(再生 / 録音) ボタン

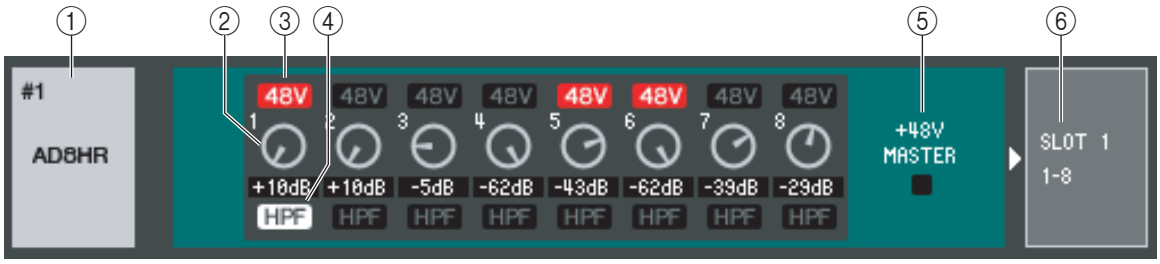
エフェクトタイプとして“042 FREEZE”が選ばれているときに、エフェクトに入力されている信号の録音 / 再生を行ないます。

⑰ エフェクトパラメーター

現在選ばれているエフェクトタイプに応じたエフェクトパラメーターとそれに対応するノブが表示されます。

EXTERNAL HA ページ





① 外部 HA 名表示

現在接続されている外部ヘッドアンプ機器のモデル名を ID 番号ごとに表示します。

② GAIN

チャンネルごとのゲインを設定します。現在の設定値は、下のボックスで確認できます。

③ 48V

チャンネルごとのファンタム電源 (+48V) のオン / オフを切り替えます。

④ HPF (ハイパスフィルター)

チャンネルごとの HPF のオン / オフを切り替えます。

⑤ +48V MASTER

マスターファンタム電源のオン / オフ状態を表示します

⑥ スロット / チャンネル

外部ヘッドアンプ機器のオーディオ出力が接続されているスロット / チャンネルを次の中から選択します。

NONE
SLOT1 1-8
SLOT1 9-16
SLOT2 1-8
SLOT2 9-16
SLOT3 1-8
SLOT3 9-16

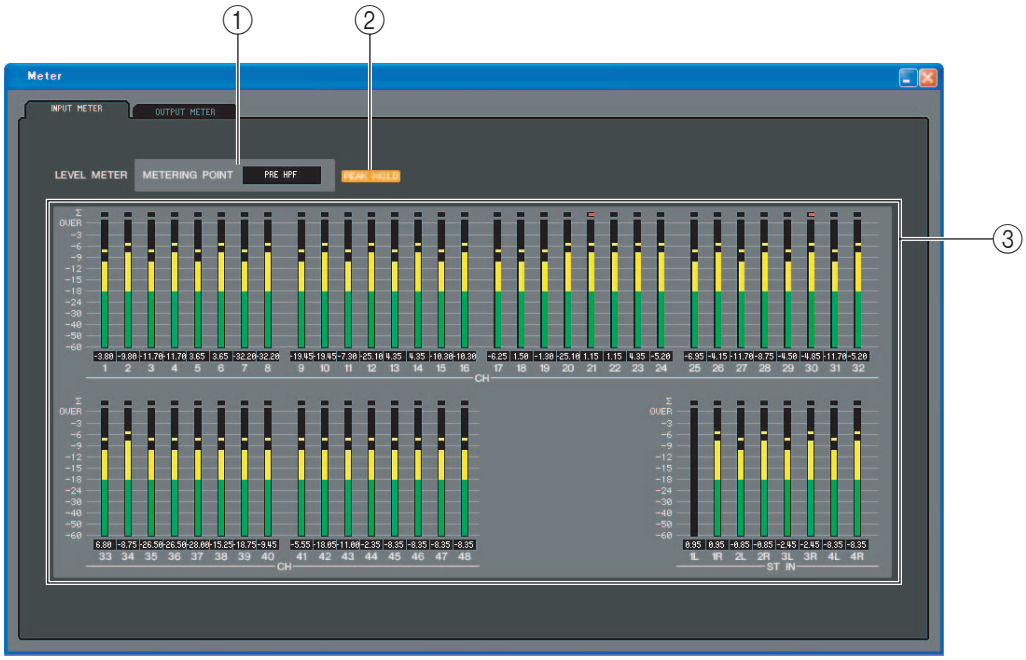
Meter ウィンドウ

M7CL 内の各部の信号レベルを表示します。信号の有無、オーバーロードの有無を確認できます。

このウィンドウは INPUT METER、OUTPUT METER に分かれています。ページを切り替えるには、ウィンドウ上部のタブをクリックします。

NOTE *Meter ウィンドウに M7CL 本体の信号レベルを表示させるには、M7CL Editor と M7CL 本体が同期していることを確認してください。*

INPUT METER ページ



① METERING POINT

メーター表示するポイントを次の中から選択します。

PRE HPF、PRE FADER、POST ON

② PEAK HOLD

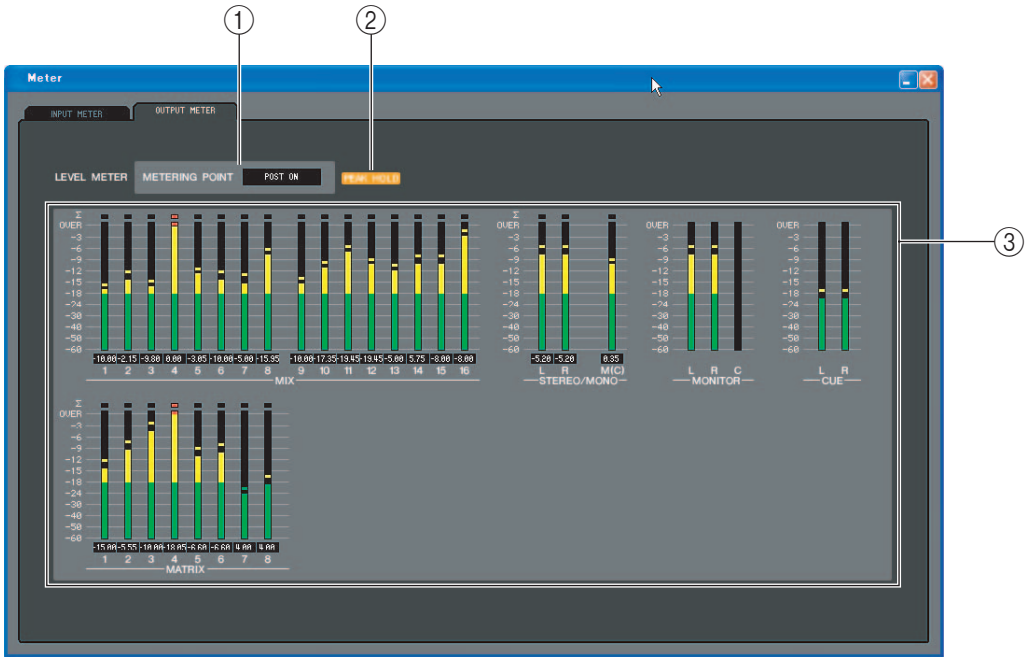
ピークホールドのオン / オフを設定します。

③ メーター

各チャンネルの入力レベルを表示するピークレベルメーターです。現在のフェーダーの値を下のボックスで確認できます。

各チャンネルにある複数の検出ポイントのうち 1 箇所でもクリップすると、Σ のセグメントが点灯します

OUTPUT METER ページ



① METERING POINT(メータリングポイント)

メーター表示するポイントを次の中から選択します。

PRE EQ、PRE FADER、POST ON

② PEAK HOLD

INPUT METER ページと共通です。

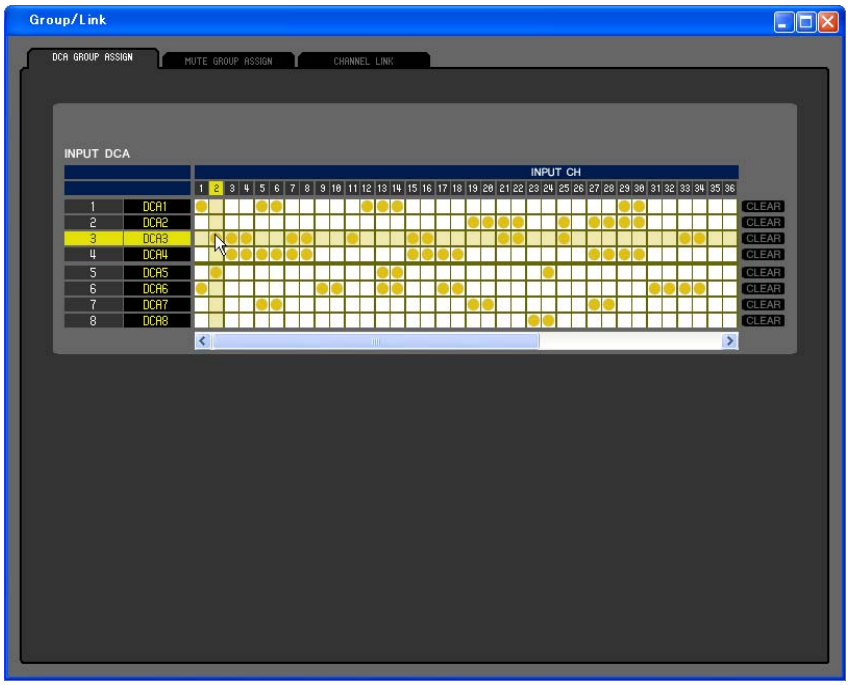
③ メーター

INPUT METER ページと共通です。

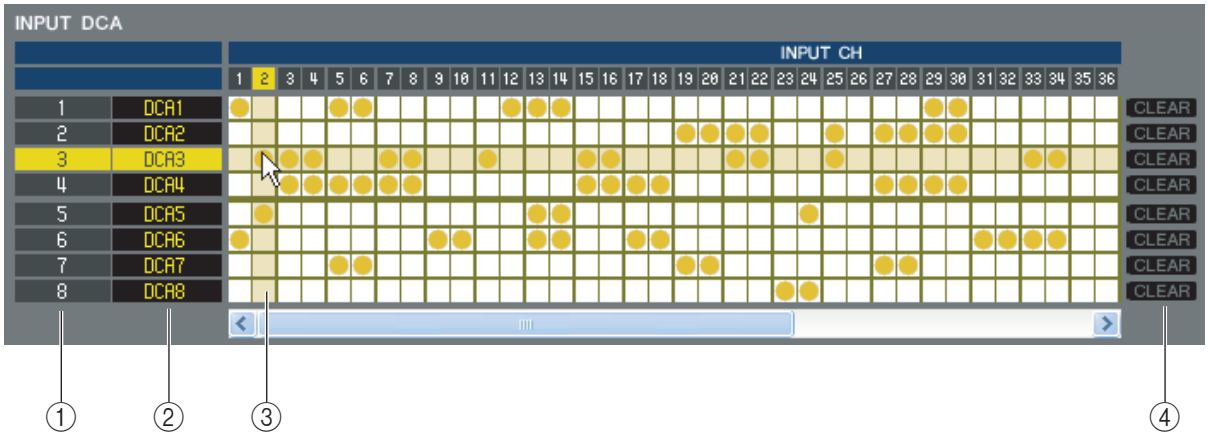
Group/Link ウィンドウ

DCA グループ、ミュートグループに割り当てるチャンネルを選択します。DCA GROUP ASSIGN ページと MUTE GROUP ASSIGN ページと Channel Link ページの 3 ページに分かれています。

DCA GROUP ASSIGN ページ



DCA グループ 1 ～ 8 に割り当てるチャンネルを指定します。



① DCA グループ

DCA グループの番号です。

② DCA グループ名

DCA グループの名称です。この部分をマウスでクリックして名称を変更することもできます。

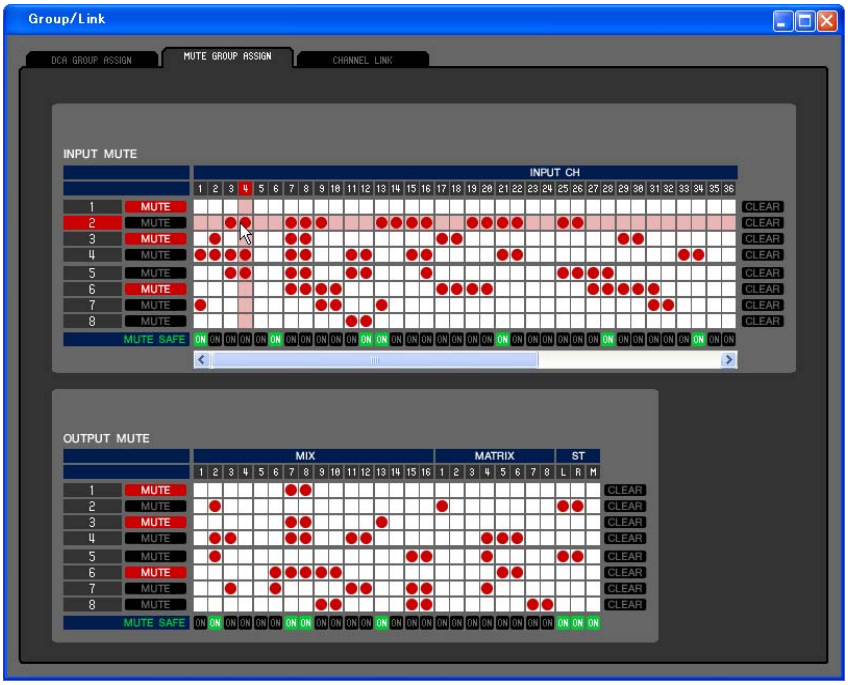
③ グリッド

チャンネル (横列) を DCA グループ (縦列) に割り当てるグリッドです。現在パッチされているグリッドには、● の印が表示されます。任意のグリッドをクリックすることで、割り当ての設定 / 解除が切り替わります。

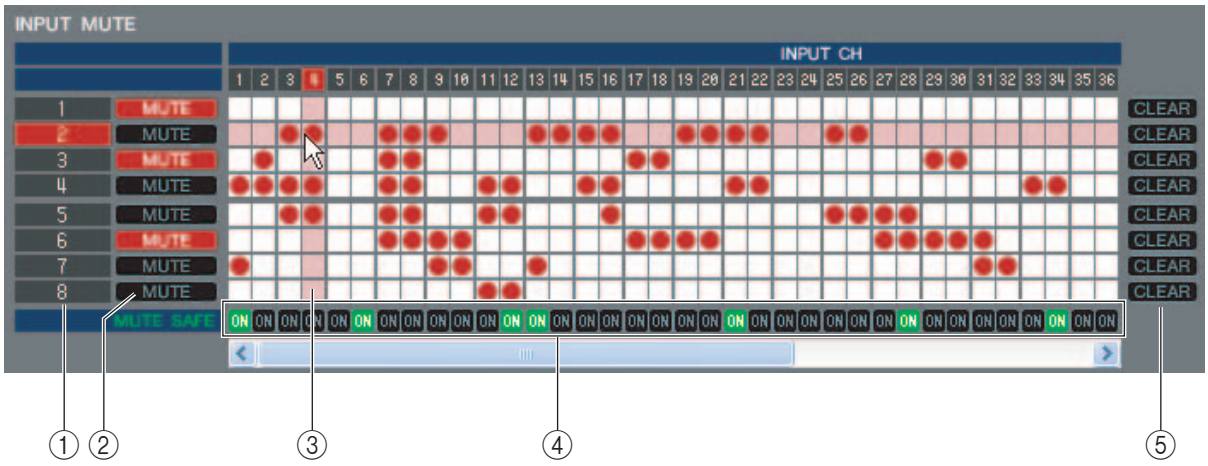
④ CLEAR

DCA グループに割り当てられたチャンネルを、一括して解除するボタンです。このボタンをクリックすると、確認のウィンドウが表示されます。解除を実行するには、OK ボタンをクリックしてください。

MUTE GROUP ASSIGN ページ



ミュートグループ 1 ～ 8 に割り当てるチャンネルを指定します。画面上部でインプット系チャンネル、画面下部でアウトプット系チャンネルをミュートグループに割り当てます。



① ミュートグループ

ミュートグループの番号です。

② MUTE MASTER

インプット系チャンネル / アウトプット系チャンネルのミュートグループごとに、有効 / 無効を切り替えるボタンです。

③ グリッド

チャンネル (横列) をミュートグループ (縦列) に割り当てるグリッドです。現在パッチされているグリッドには、● の印が表示されます。任意のグリッドをクリックすることで、割り当ての設定 / 解除が切り替わります。

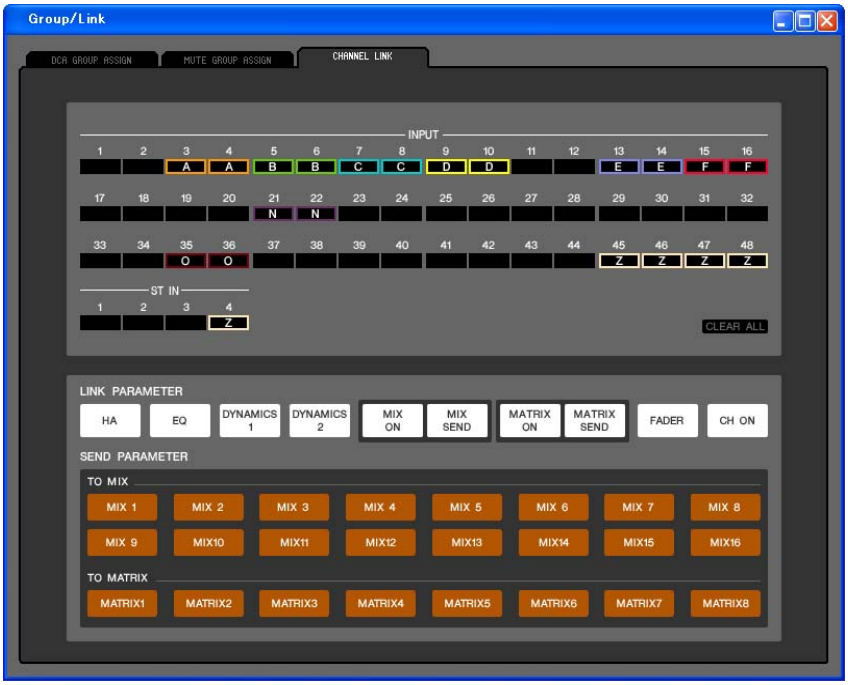
④ MUTE SAFE ON

チャンネルごとにミュートセーフのオン / オフを設定します。このボタンをオンにしたチャンネルは、ミュートグループから除外されます。

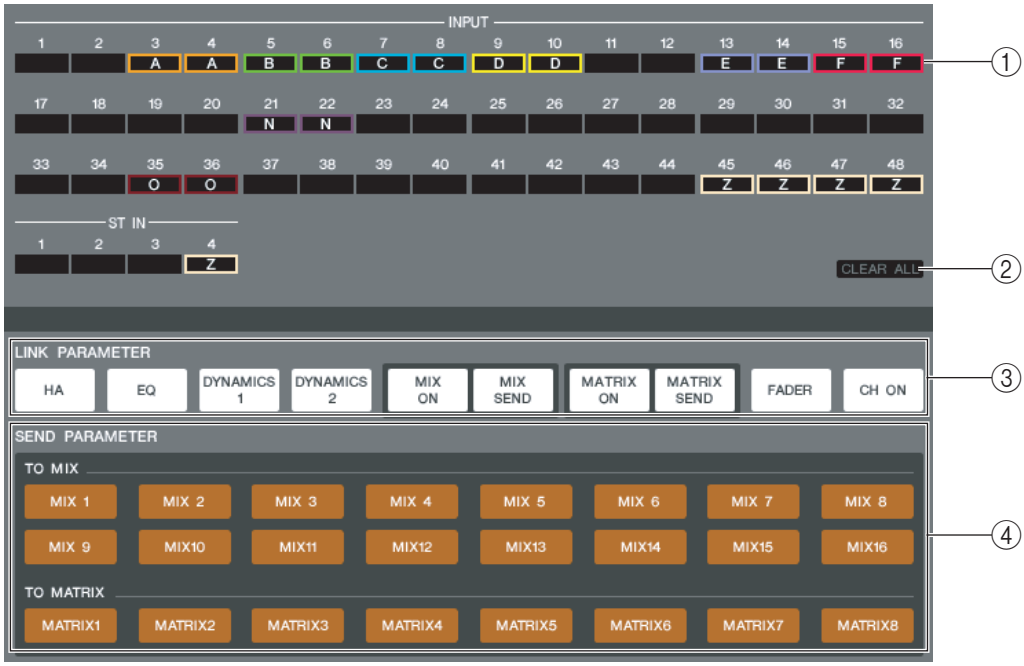
⑤ CLEAR

ミュートグループに割り当てられたインプット系チャンネル / アウトプット系チャンネルを、一括して解除するボタンです。このボタンをクリックすると、確認のウィンドウが表示されます。解除を実行するには、OK ボタンをクリックしてください。

CHANNEL LINK ページ



入力チャンネルをリンクすると、複数チャンネルのパラメーターが同時操作できます。



① リンクボタン

入力チャンネルに割り当てるリンクグループ A ～ Z(*) を選択します。リンクしない場合は NONE を選択します。INPUT CH 1 ～ 48 で 24(*) グループ、ST IN チャンネルで 2 グループまで割り当てできます。

(*) オフライン編集で Mixer Setup 画面の Input Channels で 32 を選択しているときか、M7CL-32 とオンラインで編集しているときは、INPUT CH 1 ～ 32 で 16 グループまで割り当て可能で、リンクグループとして A ～ R を選択できます。

② CLEAR ALL

すべてのチャンネルのリンクを解除します。

③ LINK PARAMETER

同時操作可能なパラメーターを選択します。

HA	ヘッドアンプゲインとファンタム電源の設定
DYNAMICS1	ダイナミクス 1 の設定
DYNAMICS2	ダイナミクス 2 の設定
EQ	イコライザーの設定
MIX ON	MIX SEND のオン / オフ
MIX SEND	入力チャンネルから MIX バスに送るセンド量
MATRIX ON	MATRIX SEND のオン / オフ
MATRIX SEND	入力チャンネルから MATRIX バスに送るセンド
FADER	フェーダーレベル値
CH ON	入力チャンネルモジュール出力のオン / オフ

(*) INPUT CH 33 ～ 48 は、オフライン編集で Mixer Setup 画面の Input Channels で 48 を選択しているときか、M7CL-48 とオンラインで編集しているときのみ操作可能です。

④ SEND PARAMETER

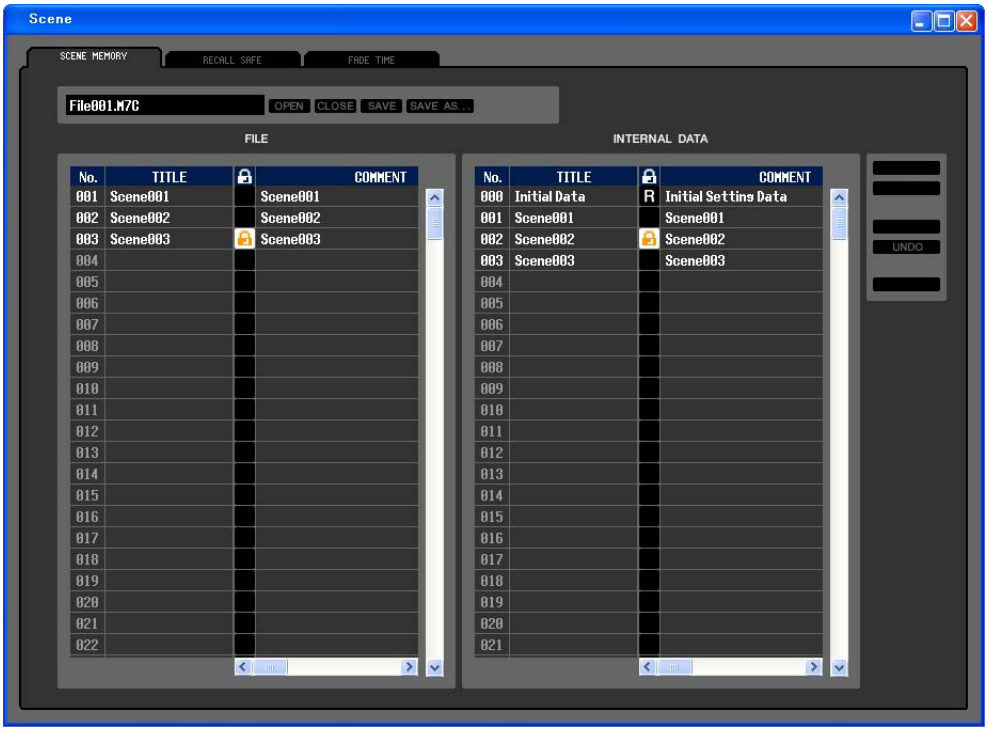
MIX/MATRIX SEND のバスごとにリンクの設定をします。

Scene ウィンドウ

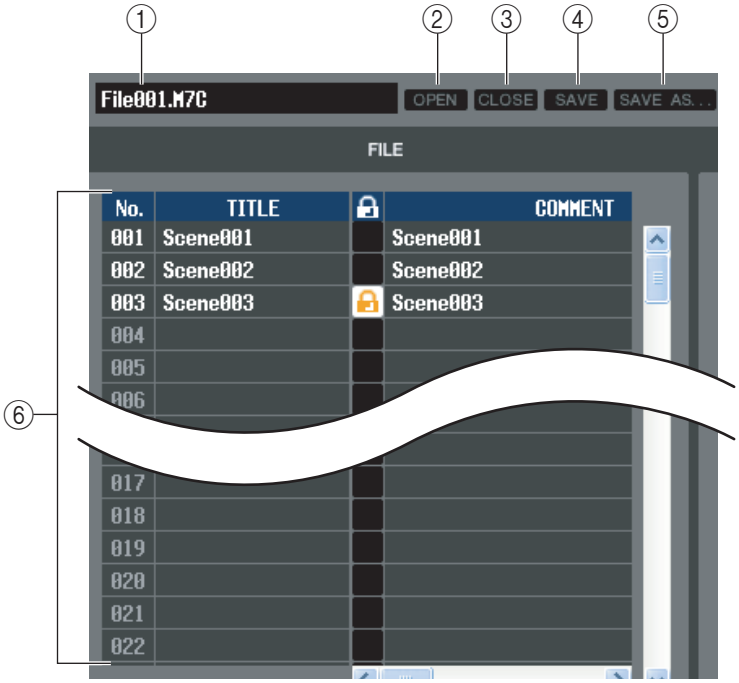
シーンメモリーの管理や、シーンのリコール時の動作に関する各種設定を行ないます。

このウィンドウは、SCENE MEMORY、RECALL SAFE、FADE TAME の各ページに分かれています。ページを切り替えるには、ウィンドウ上部のタブをクリックします。

SCENE MEMORY ページ



M7CL 本体のシーンメモリーを編集します。また、USB 記録装置やコンピューターのドライブに保存されているシーンライブラリーのファイルを読み込み、編集することもできます。この場合は編集した後ですべてのシーンをファイルに保存し直したり、任意のシーンをリコールしたり、任意のシーンを M7CL 本体のシーンメモリーにコピーしたりできます。



① ファイル名

現在開かれているシーンライブラリーのファイル名を表示します。

② OPEN(ファイルを開く)

コンピューターのドライブ上にあるシーンライブラリーのファイルを開きます。

③ CLOSE(ファイルを閉じる)

現在開かれているシーンライブラリーのファイルを閉じます。

④ SAVE(保存)

現在開かれているシーンライブラリーのファイルをコンピューターのドライブに保存します。

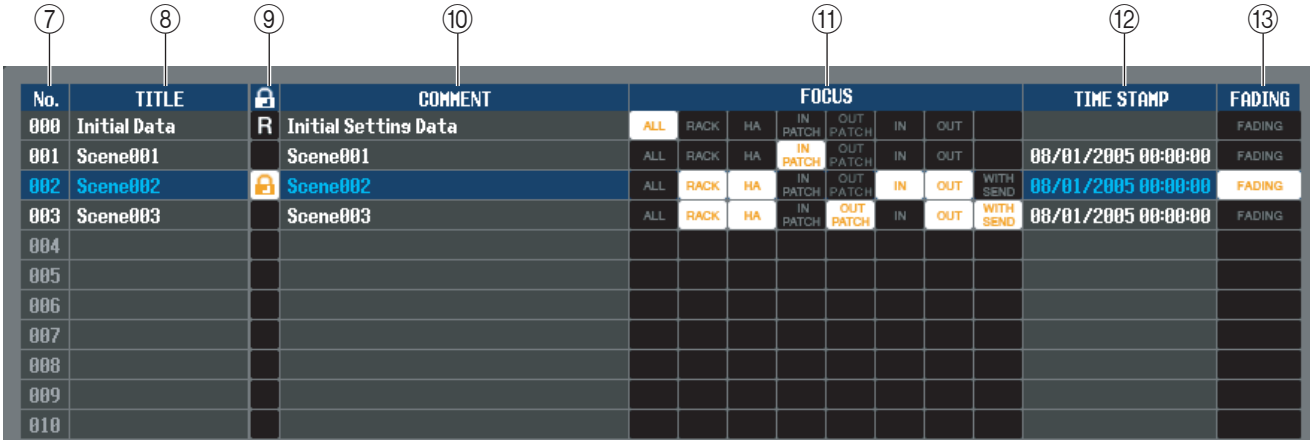
⑤ SAVE AS(別名で保存)

現在開かれているシーンライブラリーのファイル名を変えて、コンピューターのドライブに保存します。

⑥ FILE(ファイル)

OPEN ボタン (②) を使って開いたファイルに含まれるシーンの設定内容を表示します。リストに含まれる項目は、次のとおりです。

HINT *現在見えていない項目を表示させるには、リストを右にスクロールさせます。*



⑦ No.

シーン番号です。

⑧ TITLE

シーンのタイトルです。この部分をダブルクリックして、タイトルを編集することもできます。

⑨ PROTECT

シーンごとのプロテクトのオン / オフ表示です。プロテクトのかかったシーンは、この欄にカギのアイコンが表示され、上書き保存やタイトルの変更ができません。また、読み込み専用のシーンは、この欄に“R”と表示されます。

⑩ COMMENT(コメント)

シーンごとに付けられたコメントを表示します。この欄をダブルクリックしてコメントを編集することもできます。

⑪ FOCUS(フォーカス)

シーンリコールでリコールされるパラメーターを次の中から選択します。ALL を選択すると他のボタンは選択できませんが、ALL 以外は複数選択できます。

ALL	シーンに含まれる全ての設定をリコールします
RACK	GEQ と内蔵エフェクトの設定をリコールします
HA	内蔵ヘッドアンプと外部ヘッドアンプの設定をリコールします
IN PATCH	インプットパッチの設定をリコールします
OUT PATCH	アウトプットパッチの設定をリコールします
IN	INPUT 系チャンネル (INPUT、ST IN、DCA) のヘッドアンプ以外の設定をリコールします
OUT	OUTPUT 系チャンネル (MIX、MATRIX、STEREO/MONO) の設定をリコールします
WITH SEND(*)	OUTPUT 系チャンネルへのセンドの設定をリコールします

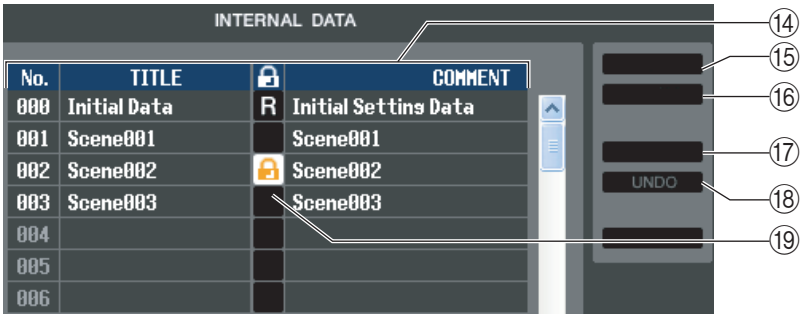
(*)OUT が選択されたときのみ選択可能です

⑫ TIME STAMP

シーンが最後にストアされた時間を月 / 日 / 年 / 時 / 分 / 秒単位で表示します。この欄は表示のみで、変更はできません。

⑬ FADING

シーンごとの FADING のオン / オフを切り替えます。



⑭ INTERNAL DATA

M7CL 本体のシーンメモリーの内容を表示します。表示される項目は、FILE リスト (⑥) と共通です。

必要に応じて、単一のシーンまたは複数のシーンを、FILE リストと INTERNAL DATA リストとの間で相互にコピーしたり、同一リスト内で別の位置にコピーまたは移動したりできます。

⑮ STORE(ストア)

リスト内の選択したシーンに現在の設定をストアします。

⑯ RECALL(リコール)

リスト内の選択したシーンの設定をリコールします。

⑰ CLEAR(クリア)

リスト内で選択した単一シーン、または複数のシーンを消去します (消去されたシーンは、タイトルが [No Data!] に戻ります)。

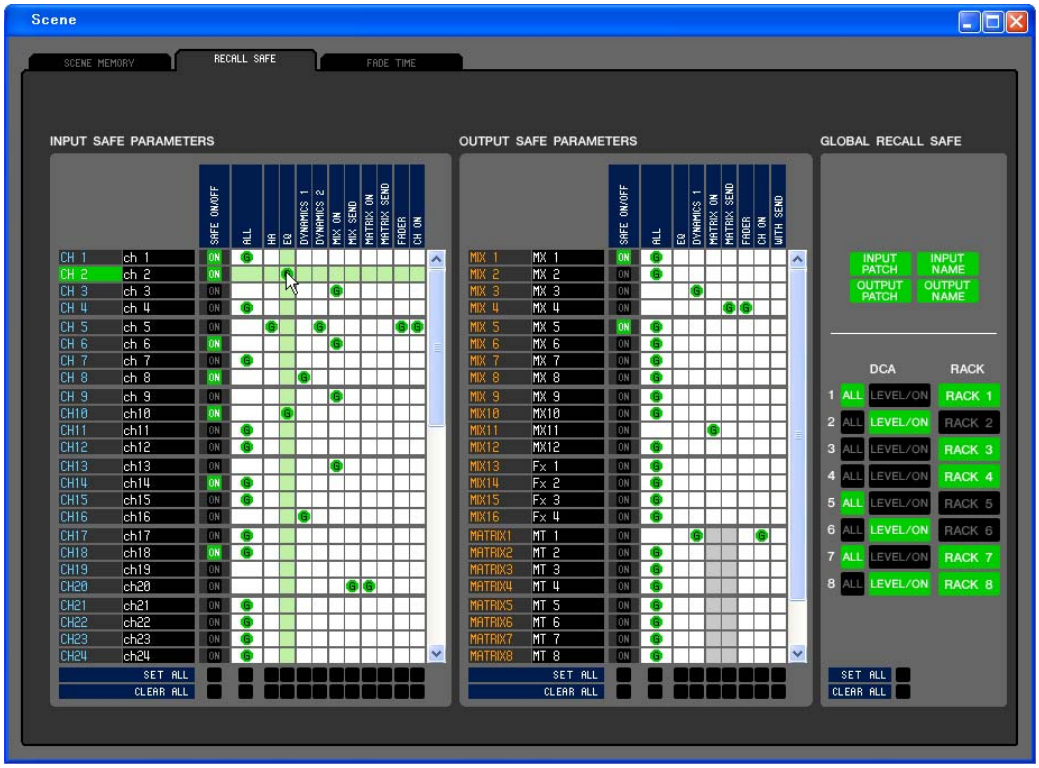
⑱ UNDO(アンドゥ)

最後に行なったシーンのリコール、ストア、コピー、移動操作を取り消します。

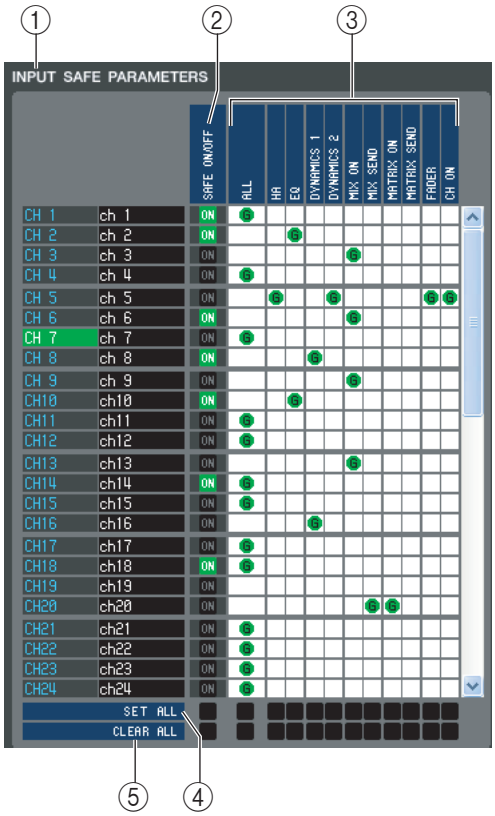
⑲ PROTECT(プロテクト)

リスト内で選択した単一シーン、または複数のシーンにプロテクトをかけます。

RECALL SAFE ページ



すべてのシーンで特定のチャンネルのみをリコール操作から除外するリコールセーフ機能に関する設定を行ないます。



①INPUT SAFE PARAMETERS(インプットセーフパラメーターズ)

インプットチャンネルと ST IN チャンネルのリコールセーフ機能の一括表示 / 設定変更を行ないます。含まれる項目は次のとおりです。

②SAFE ON/OFF(セーフオン / オフ)

リコール対象から除外するチャンネルを選ぶオン / オフボタンとして機能します。

③パラメーターマトリクスグリッド

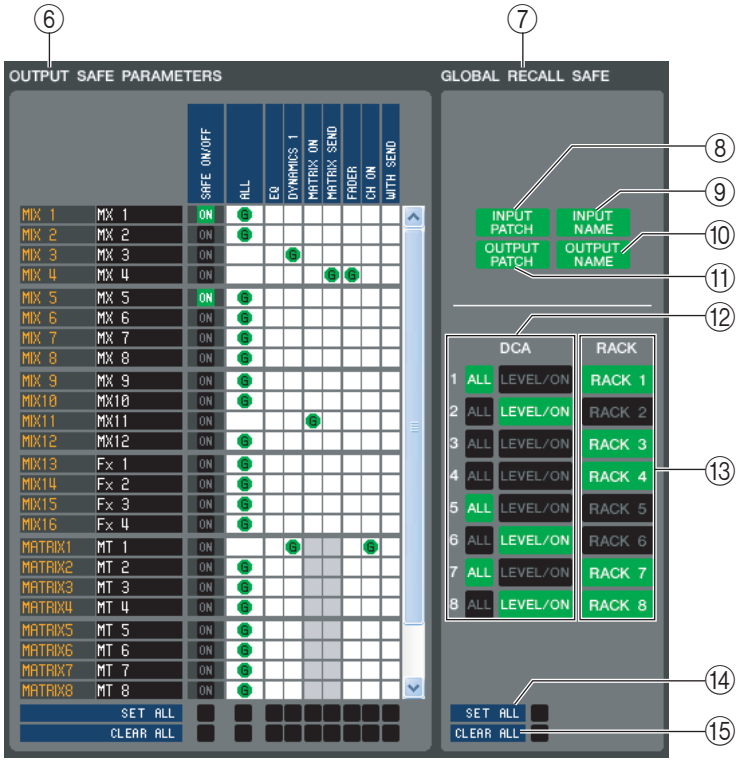
リコール対象から除外するパラメーターを選びます。ALL ボタンがオンのときは、すべてのパラメーターが除外されます。

④SET ALL(セットオール)

すべてのインプットチャンネルおよび ST IN チャンネル、または該当するパラメーターのボタンをすべてオンに切り替えます。

⑤CLEAR ALL(クリアーオール)

すべてのインプットチャンネルおよび ST IN チャンネル、または該当するパラメーターのボタンをすべてオフに切り替えます



⑥ OUTPUT SAFE PARAMETERS(アウトプットセーフパラメーターズ)

アウトプット系チャンネルのリコールセーフ機能の一括表示 / 設定変更を行ないます。含まれる項目はインプットセーフパラメーターズ (①) と共通です。

⑦ GLOBAL RECALL SAFE(グローバルリコールセーフ)

パッチ、DCA グループ、ラックのリコールセーフ機能の表示 / 設定変更を行ないます。

⑧ INPUT PATCH

INPUT PATCH をリコール対象から除外するオン / オフボタンとして機能します。

⑨ INPUT NAME

インプット系チャンネルのチャンネル名をリコール対象から除外するオン / オフボタンとして機能します。

⑩ OUTPUT NAME

アウトプット系チャンネルのチャンネル名をリコール対象から除外するオン / オフボタンとして機能します。

⑪ OUTPUT PATCH

OUTPUT PATCH をリコール対象から除外するオン / オフボタンとして機能します。

⑫ DCA

DCA グループをリコール対象から除外するボタンです。ALL ボタンがオンのときは LEVEL、ON、DCA グループ名が除外され、LEVEL/ON ボタンがオンのときは LEVEL と ON が除外されます。

⑬ RACK

RACK をリコール対象から除外するオン / オフボタンとして機能します。

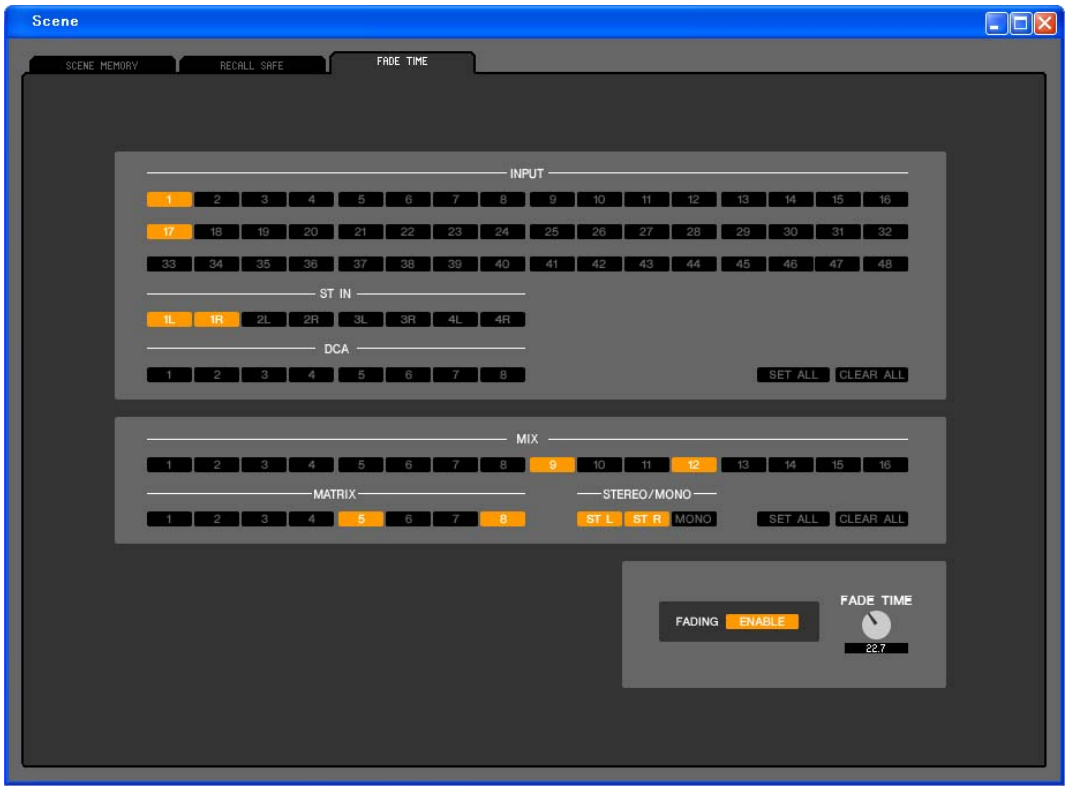
⑭ SET ALL(セットオール)

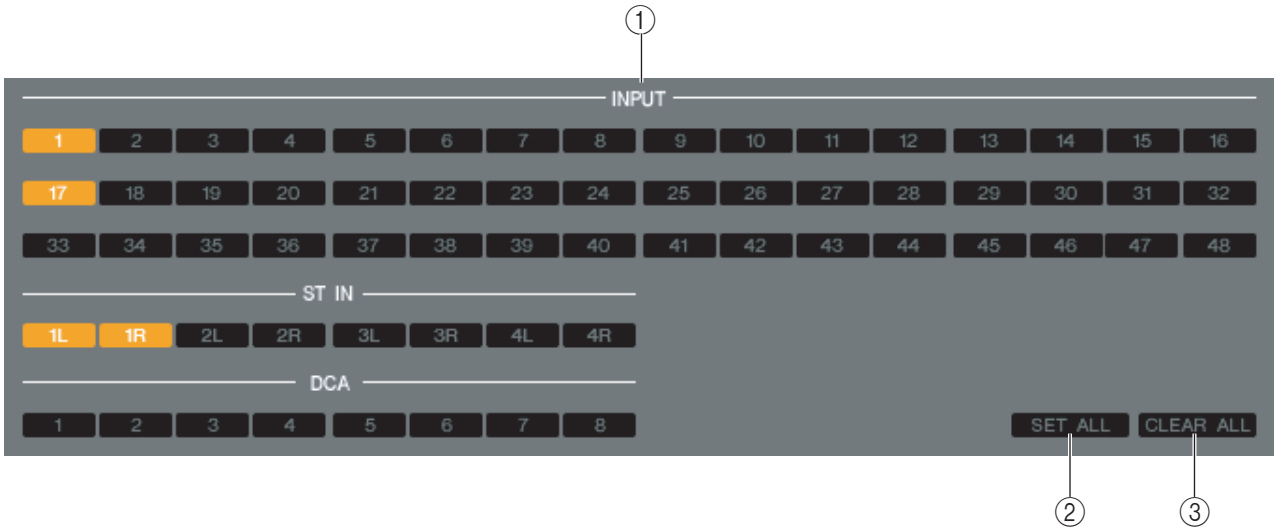
8 ～ 13 のパラメーターのボタンをすべてオンに切り替えます。

⑮ CLEAR ALL(クリアーオール)

8 ～ 13 のパラメーターのボタンをすべてオフに切り替えます。

FADE TIME ページ





シーンをリコールしたときに、フェーダーやパンが新しい値に到達するまでの時間を調節するフェード機能に関する設定を行ないます。フェード機能の設定はシーンごとに独立していますので、設定したいシーンをリコールしてから操作してください。

① INPUT CHANNEL FADING ENABLE(インプットチャンネルフェーディングイネーブル)

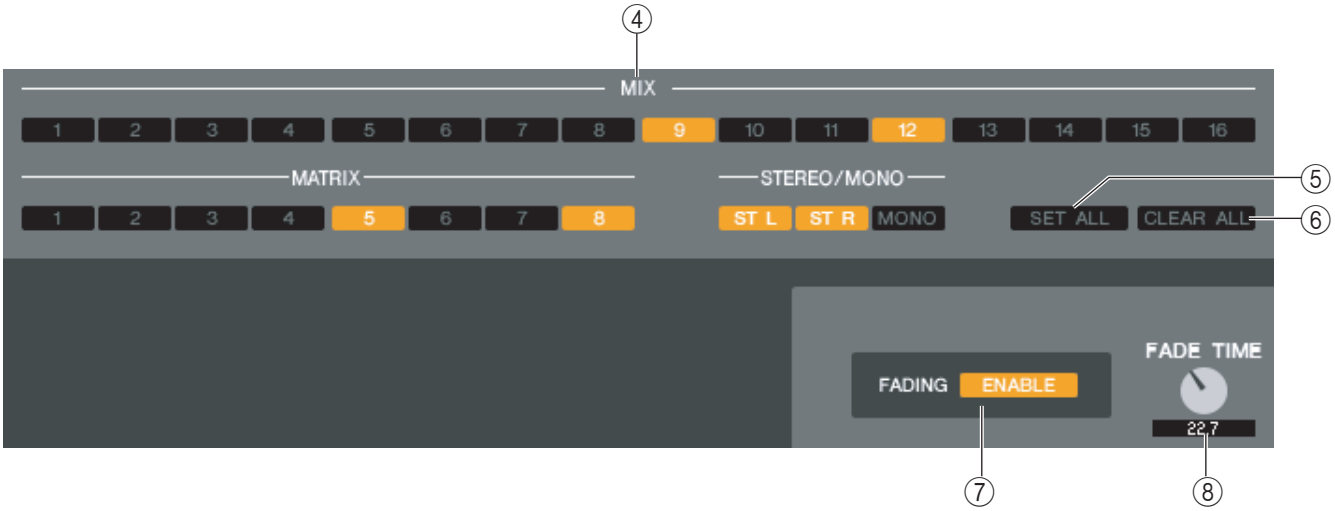
リコール対象から除外するインプット系チャンネルを選ぶオン / オフボタンとして機能します。

② SET ALL(セットオール)

すべてのインプット系チャンネルのボタンをオンに切り替えます。

③ CLEAR ALL(クリアーオール)

すべてのインプット系チャンネルのボタンをオフに切り替えます。



④ OUTPUT CHANNEL FADING ENABLE(アウトプットチャンネルフェーディングイネーブル)

リコール対象から除外するアウトプット系チャンネルを選ぶオン / オフボタンとして機能します。

⑤ SET ALL(セットオール)

すべてのアウトプット系チャンネルのボタンをオンに切り替えます。

⑥ CLEAR ALL(クリアーオール)

すべてのアウトプット系チャンネルのボタンをオフに切り替えます。

⑦ FADING ENABLE(フェーディングイネーブル)

現在のシーンでフェーダーのフェード機能の有効 / 無効を切り替えます。

⑧ FADE TIME(フェードタイム)

画面上のノブをドラッグして、フェードタイムを調節します。現在の値は、すぐ下の数値ボックスで確認できます。

ショートカット

メニュー	動作	キー操作
File メニュー	新規セッションを作成する	Ctrl+N
	保存されているセッションを開く	Ctrl+O
	開いているセッションを保存する	Ctrl+S
Edit メニュー	Undo	Ctrl+Z
	Redo	Ctrl+Y
Windows メニュー	選択されているウィンドウを閉じる	Ctrl+W
	すべてのウィンドウを閉じる	Ctrl+Alt+W
	ウィンドウを並べて表示	Ctrl+T
	ウィンドウを重ねて表示	Ctrl+Alt+T
	Master ウィンドウを開く	Ctrl+1
	INPUT CH(CH1-16) ウィンドウを開く	Ctrl+Alt+1
	INPUT CH(CH17-32) ウィンドウを開く	Ctrl+Alt+2
	INPUT CH(CH33-48) ウィンドウを開く	Ctrl+Alt+3
	ST IN ウィンドウを開く	Ctrl+Alt+4
	MIX ウィンドウを開く	Ctrl+Alt+5
	MATRIX ウィンドウを開く	Ctrl+Alt+6
	STEREO/MONO ウィンドウを開く	Ctrl+Alt+7
	MATRIX ウィンドウを開く	Ctrl+Alt+8
	Selected Channel ウィンドウを開く	Ctrl+3
	Library ウィンドウを開く	Ctrl+4
	Patch Editor ウィンドウを開く	Ctrl+5
	Rack ウィンドウを開く	Ctrl+6
	Meter ウィンドウを開く	Ctrl+7
	Group/Link ウィンドウを開く	Ctrl+8
	Scene ウィンドウを開く	Ctrl+9
Synchronization メニュー	Re-Synchronize ウィンドウを開く	Ctrl+0
Library ウィンドウ / Scene ウィンドウの SCENE MEMORY ページ	連続した複数の項目 (メモリー) を選択する	Shift + クリック
	離れて表示されている複数のメモリーを選択する	Ctrl + クリック
	同一セクション内のすべてのメモリーを選択する	Ctrl+A

索　引

B

BYPASS 55

C

CLEAR ..... 44、66
CLEAR ALL ..... 45、62、67 ～ 70
CLOSE ..... 42、64
COMMENT 65
Ctrl+Shift+ クリック 8
Ctrl+ クリック 8

D

DCA ウィンドウ 22
DCA グループ 60
DCA フェーダー 22
DIRECT OUTPUT PATCH ページ ..47

E

EFFECT TYPE 55
EFFECT モジュール 54
EQ FLAT 53
EQ フラット 53

F

FADE TIME ページ 69
FADING ENABLE 69
FILE ..... 43、65
FROM MIX、ST/MONO 38

G

GEQ モジュール 51
GEQ グラフ 53
GEQ フェーダー 53
GROUP/Link ウィンドウ
　CHANNEL LINK ページ 62
　DCA GROUP ASSIGN ページ 60
　MUTE GROUP ASSIGN ページ .61
Group/Link ウィンドウ 60

I

INPUT CH ウィンドウ 11
INPUT INSERT PATCH ページ 46
INPUT PATCH ページ 45
INTERNAL DATA ..... 43、66

L

Library ウィンドウ 42

M

Master ウィンドウ 9
MATRIX Bus Setup 12
MATRIX SEND 20
MATRIX ウィンドウ 18
Meter ウィンドウ 58
MIX BALANCE 56
MIX Bus Setup 12
MIX/CH/ST IN 19
MIX/MATRIX SEND 25
MONO 40
MUTE MASTER 61
MUTE SAFE ON 61

O

Offline Edit 8
OPEN ..... 42、64
OUTPUT INSERT PATCH
　ページ 47
OUTPUT PATCH ページ 46

P

Patch Editor ウィンドウ 45
　DIRECT OUTPUT PATCH
　　ページ 47
　INPUT INSERT PATCH
　　ページ 46
　INPUT PATCH ページ 45
　OUTPUT INSERT PATCH
　　ページ 47
　OUTPUT PATCH ページ 46
　PATCH LIST ページ 48
PATCH LIST ページ 48
PLAY/REC 56
PROTECT ..... 65、66

R

Rack ウィンドウ 49
RECALL ..... 44、66
RECALL SAFE ページ 67
Redo 6
Re-synchronize 8

S

SAVE ..... 42、64
SAVE AS ..... 42、64
SCENE MEMORY ページ 64
Scene ウィンドウ 64
　FADE TIME ページ 69
　RECALL SAFE ページ 67
　SCENE MEMORY ページ 64
Selected Channel ウィンドウ 23
　COMPANDER 30
　COMPRESSOR, EXPANDER ...29
　DCA GROUP/MUTE GROUP ...33
　DE-ESSER 31
　EQUALIZER ..... 27、36
　FROM MIX、ST/MONO 38
　GATE/DUCKING 28
　HA GAIN/φ/HPF 25
　INSERT 32
　MATRIX チャンネル 38
　MIX/MATRIX SEND 25
　MIX チャンネル 34
　RECALL SAFE/MUTE SAFE 33
　STEREO/MONO チャンネル 40
　To MATRIX 34
　TO STEREO/MONO ..... 26、35
　インプット系チャンネル 23
　チャンネル選択 ..... 24、40
　パン / フェーダー 37
　フェーダー ..... 33、39、41
SET ALL ..... 67 ～ 70
ST IN ウィンドウ 14
STEREO/MONO ウィンドウ 20
STORE ..... 44、66
Synchronize 8

T

TEMPO 56
TIME STAMP 65

U

UNDO ..... 6、44、66
USER KEY 4

Y

YAMAHA プロオーディオ
　ホームページ 1

あ

アンドゥ 66

い

インターナルデータ ..... 43、66

え

エフェクト
　GR メーター 56
　SOLO(ソロ) 56
エフェクトタイプ 55
エフェクトパラメーター 56

く

クリア 66
クリアーオール .....45、62、67 ～ 70

こ

コメント 65

し

ショートカット 71

す

ストア 66

せ

セッション 6
セットアップ
　コンソール 3
　システム 2
セットオール .....67 ～ 70

た

タイムスタンプ 65
タブ 7

て

テンポ 56

と

同期 8

な

名前を変えて保存 42

は

バイパス 55

ふ

ファイルを閉じる .....42、64
ファイルを開く .....42、64
フェード 70
フェード機能の有効 / 無効 70
プロテクト 66

へ

別名で保存 64

ほ

保存 .....42、64

み

ミックスバランス 56
ミュートグループ 61
ミュートセーフオン / オフ 61
ミュートマスター 61

ゆ

ユーザーキー 4

り

リコール 66
リコールセーフ 67

U.R.G., Pro Audio & Digital Musical Instrument Division, Yamaha Corporation

© 2005 Yamaha Corporation

IP-01A0